

北九州市社会福祉協議会
福祉協力員
意識調査報告書
2021

ふれあいネットワーク



社会福祉法人

北九州市社会福祉協議会

目次

| | | |
|------------|--------------------------------|----|
| I | はじめに | 2 |
| II | 調査の概要 | 3 |
| III | 調査の結果 | |
| | ▶ 1 項目別の調査結果 | 4 |
| | ▶ 2 クロス集計結果 | 41 |
| IV | 調査のまとめ | 47 |
| V | 資料 | |
| | ▶ 1 「福祉協力員意識調査」へのご協力のお願ひ | 51 |
| | ▶ 2 令和3年度 福祉協力員意識調査 | 53 |

この冊子では、北九州市社会福祉協議会＝「市社協」
各区事務所＝「区社協」
校（地）区社会福祉協議会＝「校（地）区社協」と表記しています。

I

はじめに

北九州市社会福祉協議会（以下、「市社協」）では、「みんなが安心して暮らせる支え合いのまちづくり」をめざして、校区・地区社会福祉協議会（以下、「校(地)区社協」）を基盤に「ふれあいネットワーク活動」を推進しています。

ふれあいネットワーク活動とは、校(地)区社協が中心となって、「見守り」、「話し合い」、「助け合い」の3つのしくみづくりに取り組む小地域福祉活動です。

北九州市には概ね小学校区を基本単位とした155の校(地)区社会福祉協議会があり、「自分たちの地域の困りごとは自分たちで解決していく」という住民主体の原則のもと、さまざまな関係団体と連携しながら、平成6年からこの「ふれあいネットワーク活動」に取り組んできました。

ふれあいネットワーク活動では、校(地)区社協ごとに選任された「福祉協力員」という地域のボランティアが、その担い手として活躍しています。

概ね50～100世帯に一人を目安に配置された福祉協力員は、民生委員・児童委員等と連携して、支援が必要と思われる世帯を見守り、定期的に訪問・声かけをしています。また、必要に応じて、地域の助け合い活動につないだり、生活に役立つさまざまな情報を届けたりする役割も担っています。

現在、市内には約6,700人の福祉協力員がいますが、活動を始めたきっかけや活動年数、活動を続けている理由もさまざまです。

最近では、社会福祉・地域福祉は特別な人びとのためのもではなく、すべての住民にかかわるテーマとなっています。「福祉」とは「ふ」だんの「く」らしの「し」あわせであるというメッセージを伝えるため、「ふくし」と表記することもあります。

地域住民の「ふくし」＝「ふだんのくらしのしあわせ」を守るため、日々活躍されている福祉協力員のみなさま方には、改めて敬意を表します。

私たち市・区社協職員は、これまで多くの福祉協力員の方々に出会い、ともに考え行動しながら、福祉のまちづくりを進めてきました。

社協は、「それぞれの地域が抱えている課題やこれから起こりそうな課題を知っているのは、福祉協力員等の地域住民であり、それらを解決する“ちから”を持っているのも地域である」という考えにたって小地域福祉活動に取り組んできました。

本調査は、地域で活躍する福祉協力員が、どのような思いや願い、困りごとをもって活動しているかを把握することにより、“つながり”を維持する活動や新たな“つながり”を創り出す活動を広げていくためには、今後どのように取り組んでいけばよいのかを探るために実施しました。

今回把握した3,000人以上の福祉協力員の思いをしっかりと受け止め、ふれあいネットワーク活動をはじめとした校(地)区社協の小地域福祉活動の充実強化に取り組んでまいります。

II 調査の概要

(1) 目的

この調査は、校(地)区社会福祉協議会が要となって推進するふれあいネットワーク活動の担い手として活躍する福祉協力員が、どのような思いや願い、困りごとをもって活動しているかを知り、今後の小地域福祉活動推進の参考としていくために実施した。

(2) 調査主体 北九州市社会福祉協議会

(3) 調査期間 令和3年11月1日～令和4年1月31日(調査基準日11月1日)

(4) 調査対象 市内全155校(地)区社会福祉協議会の福祉協力員

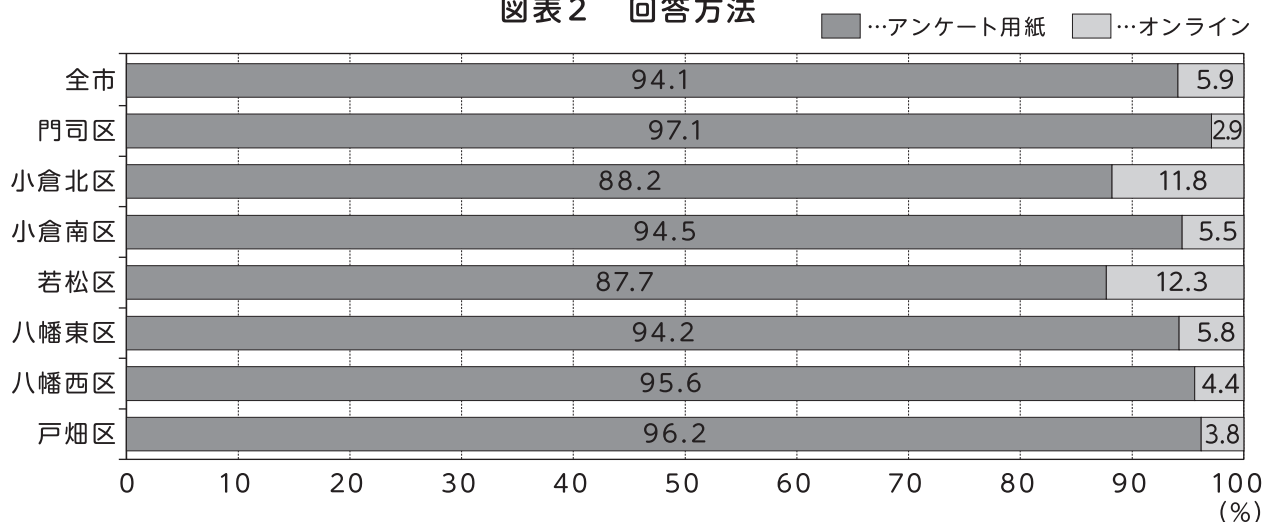
図表1 福祉協力員の人数と回答数

| | R3.3.31時点 福祉協力員数 A | 有効回答 B | 有効回答率 B/A(%) |
|------|-----------------------|-----------|-----------------|
| 全市 | 6,750 | 3,081 | 45.6 % |
| 門司区 | 789 | 421 | 53.4 % |
| 小倉北区 | 1,192 | 288 | 24.2 % |
| 小倉南区 | 1,247 | 548 | 43.9 % |
| 若松区 | 529 | 302 | 57.1 % |
| 八幡東区 | 468 | 225 | 48.1 % |
| 八幡西区 | 1,904 | 878 | 46.1 % |
| 戸畑区 | 621 | 419 | 67.5 % |

- (5) 調査の分析・報告
- 北九州市社会福祉協議会地域支援課が作成
 - 調査結果の集計・分析にあたっては、
福岡県立大学人間社会学部 社会福祉学科 村山 浩一郎 教授
北九州市立大学地域共生学群 坂本 毅啓 准教授 にご協力をいただいた。

- (6) 調査方法
- 別紙「福祉協力員意識調査へのご協力のお願い」及び調査票を上記期間内に配布
 - 郵送(返信用封筒を調査票に同封)もしくはオンラインでの回答も可能とした

図表2 回答方法



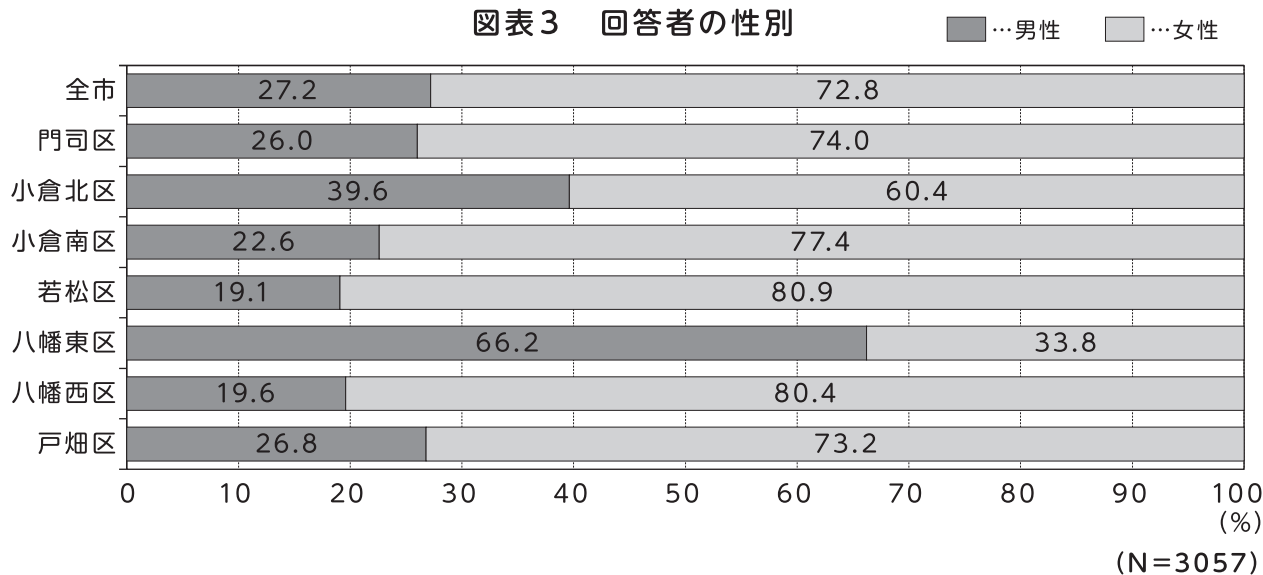
Ⅲ 調査の結果

▶ 1 項目別の調査結果

(1) 回答者の性別

全市で見ると回答者の約73%が女性であり、八幡東区以外の区も同様の結果である。
八幡東区は他区の結果と異なり、男性と女性の割合が逆転している。

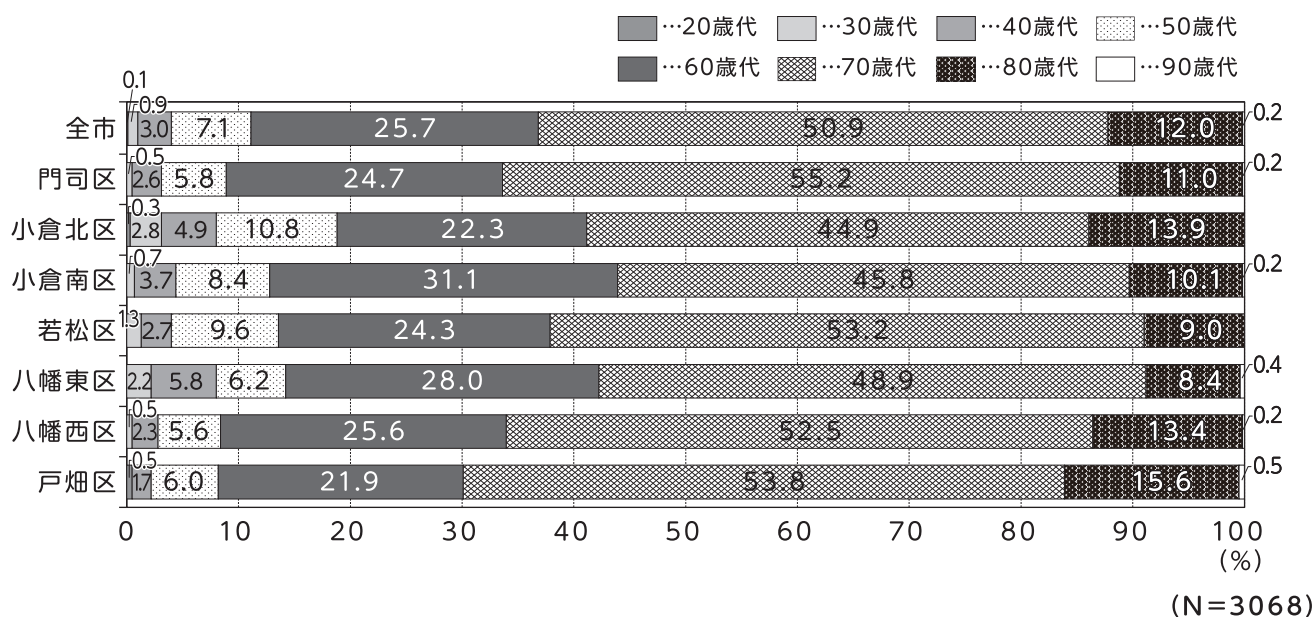
図表3 回答者の性別



(2) 回答者の年代

全市では70歳代が約51%と最も多く、次いで60歳代が約26%となっており、区別の年代構成も概ね同じ結果である。

図表4 回答者の年代

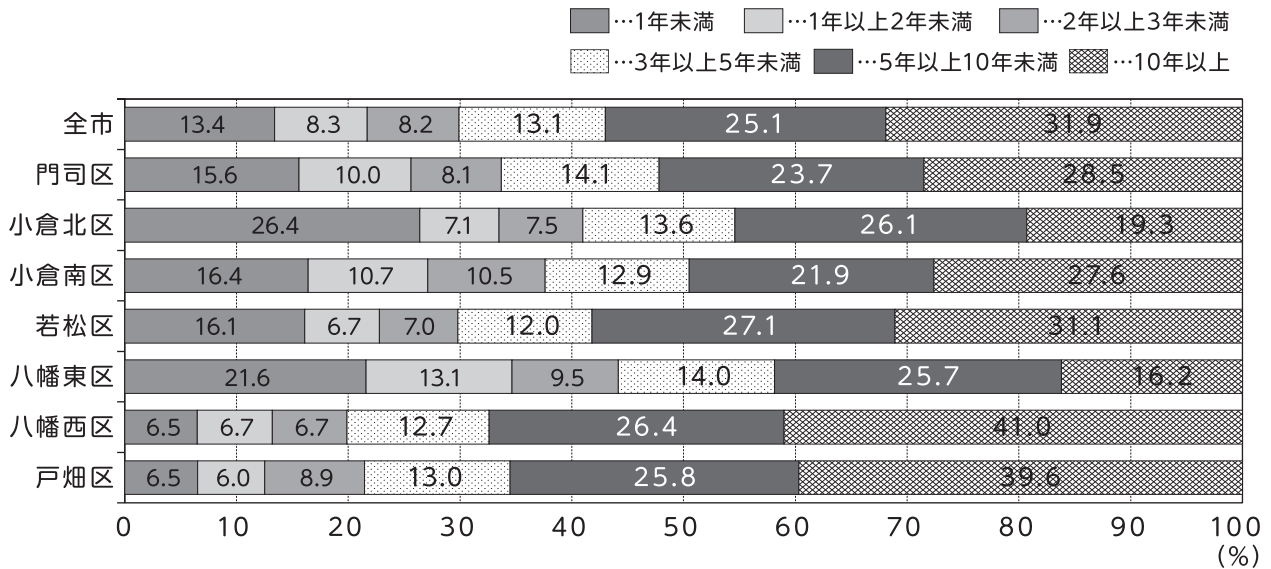


(3) 回答者の活動年数

全市では「10年以上」が約32%、次いで「5年以上10年未満」が約25%である。

特に八幡西区、戸畑区は、「5年以上10年未満」、「10年以上」を加えると65%以上となり活動年数の長い福祉協力員が多い。

図表5 回答者の活動年数



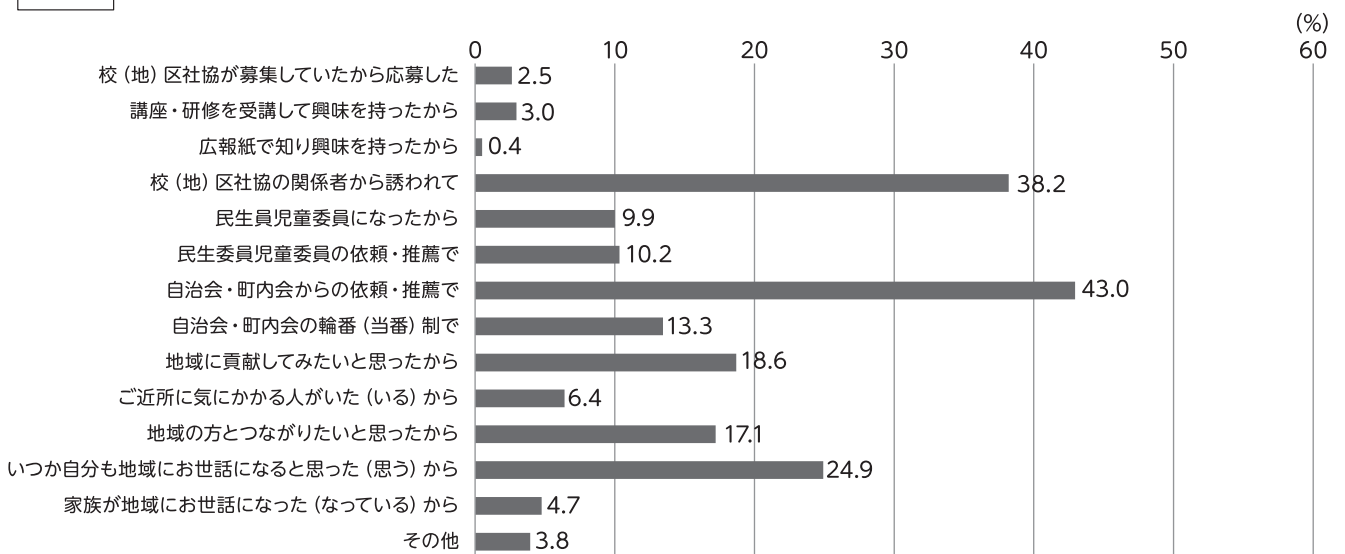
(N=3041)

(4) どのような理由で福祉協力員になったか (複数回答)

全市では、「自治会・町内会からの依頼・推薦で」が最も多く、次いで「校(地)区社協の関係者から誘われて」、「いつか自分も地域にお世話になると思った(思う)から」が多かった。

全市

図表6 どのような理由で福祉協力員になったか



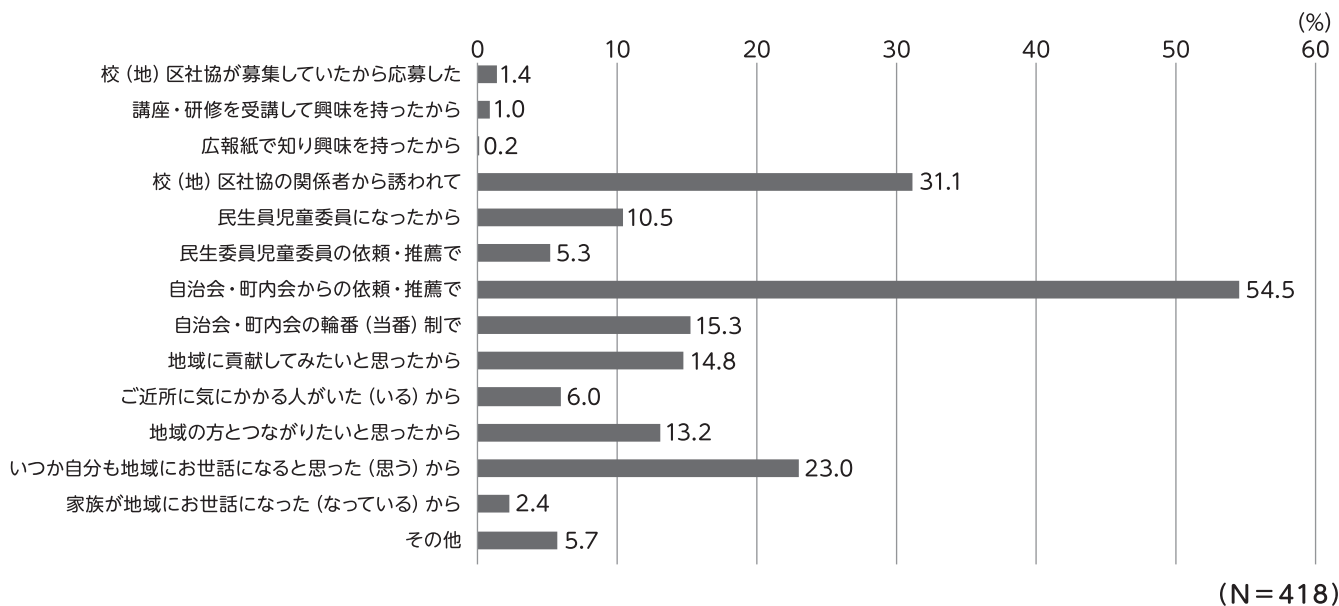
(N=3070)

| | |
|-----------------|---|
| 「その他」の回答 (一部抜粋) | <ul style="list-style-type: none"> ・両親が故郷で地域の方にお世話になっているから。 ・仕事をやめ、時間が出来たため。 ・孤独死や孤立死をできるだけ防ぎたいから。 |
|-----------------|---|

各区の結果は次のとおりである。

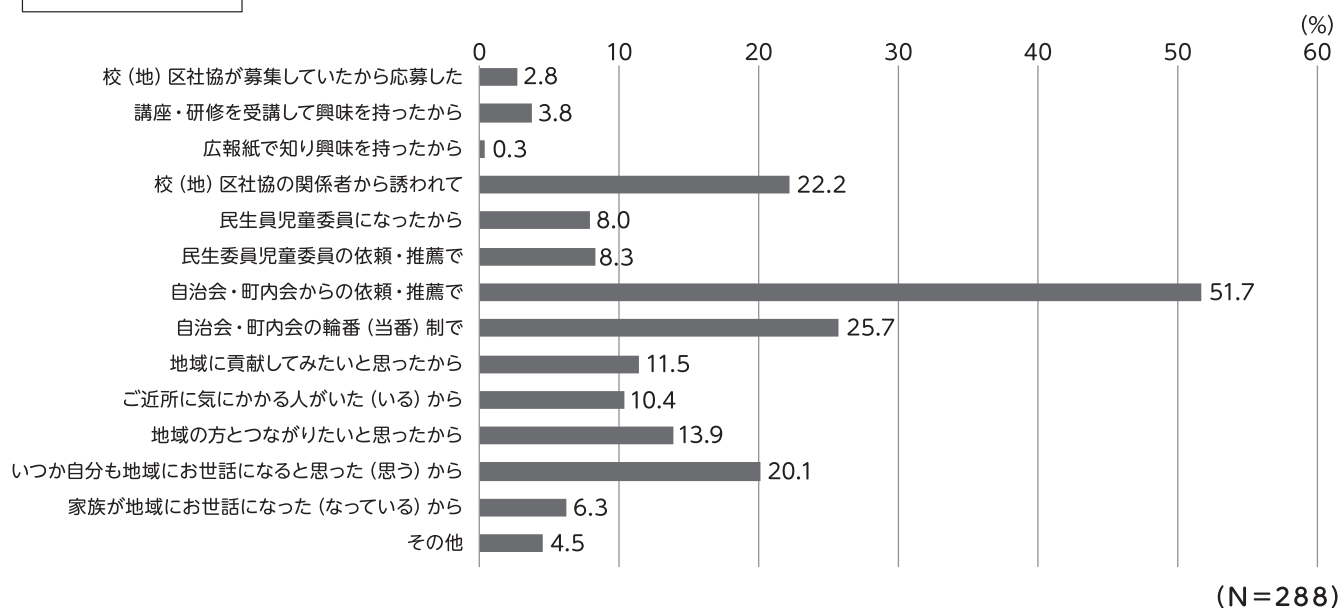
① 門司区

図表7 どのような理由で福祉協力員になったか



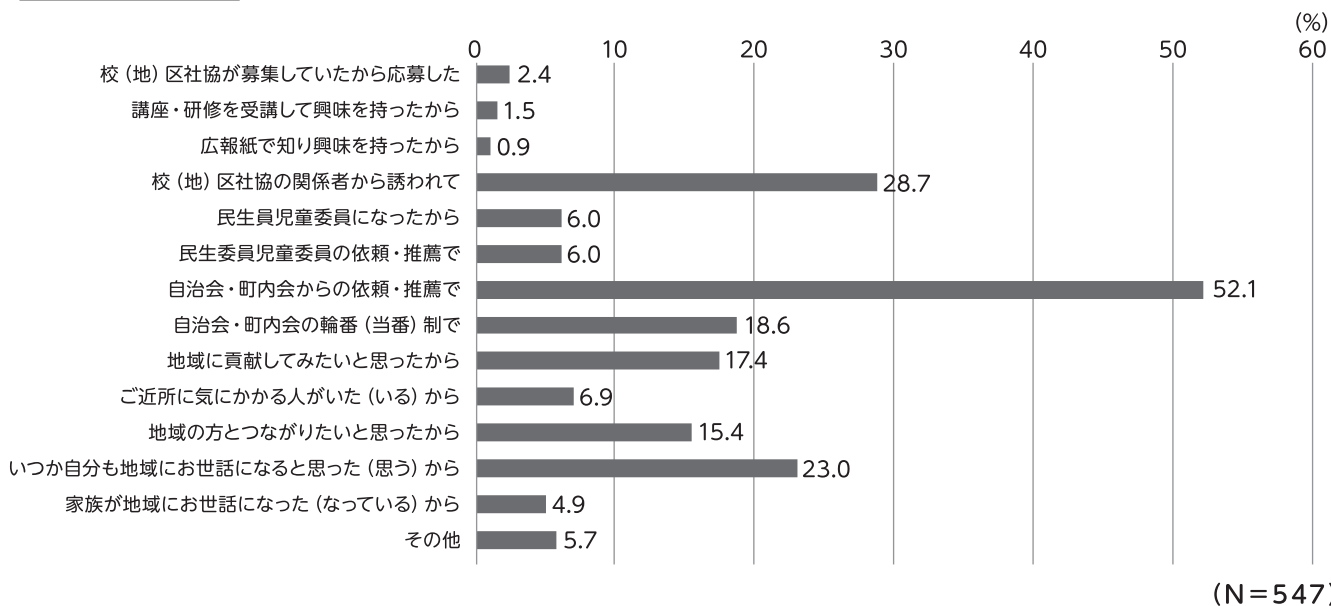
② 小倉北区

図表8 どのような理由で福祉協力員になったか



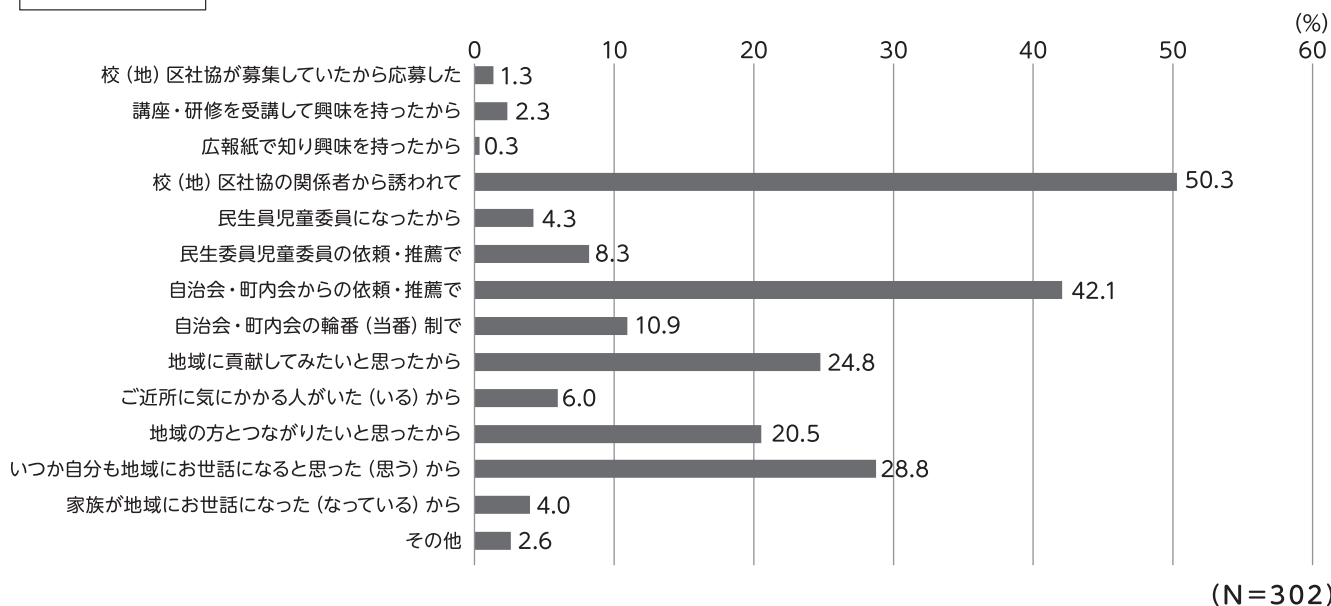
③ 小倉南区

図表9 どのような理由で福祉協力員になったか



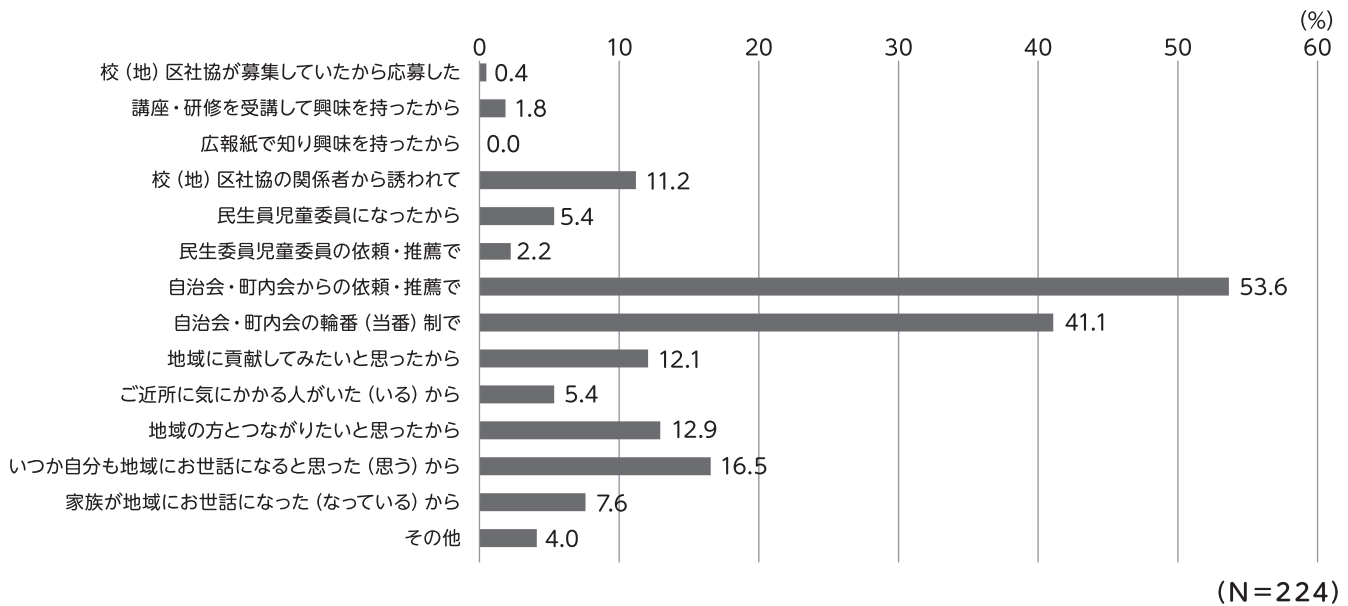
④ 若松区

図表10 どのような理由で福祉協力員になったか



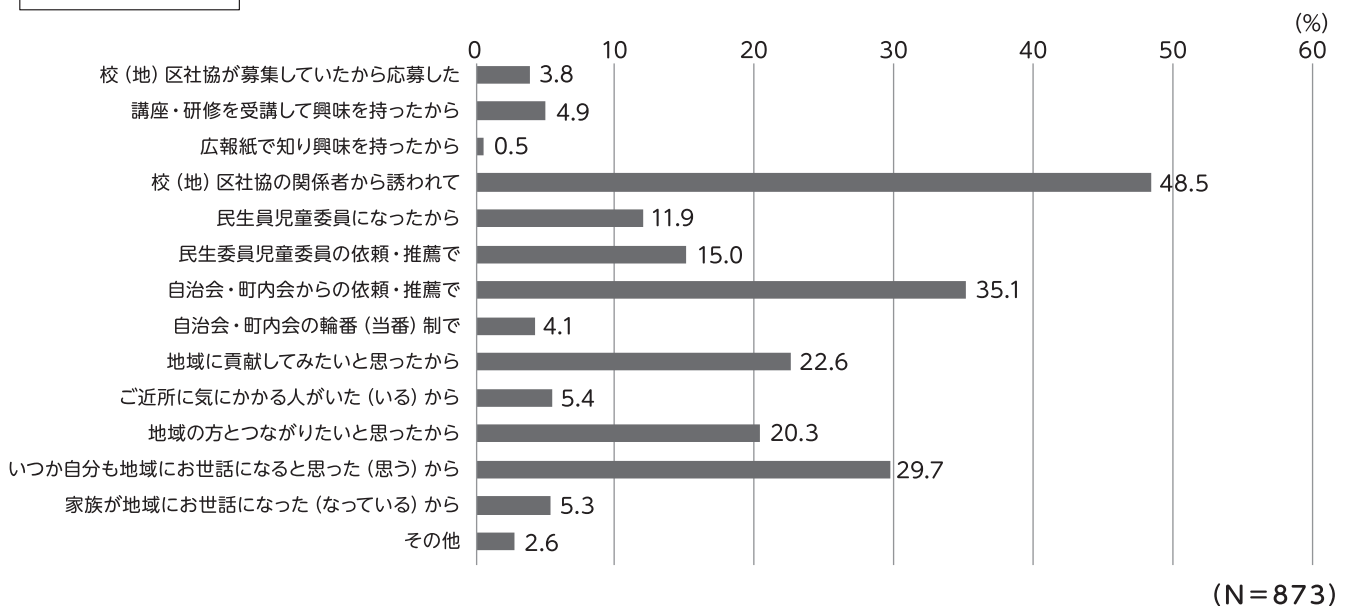
⑤ 八幡東区

図表11 どのような理由で福祉協力員になったか



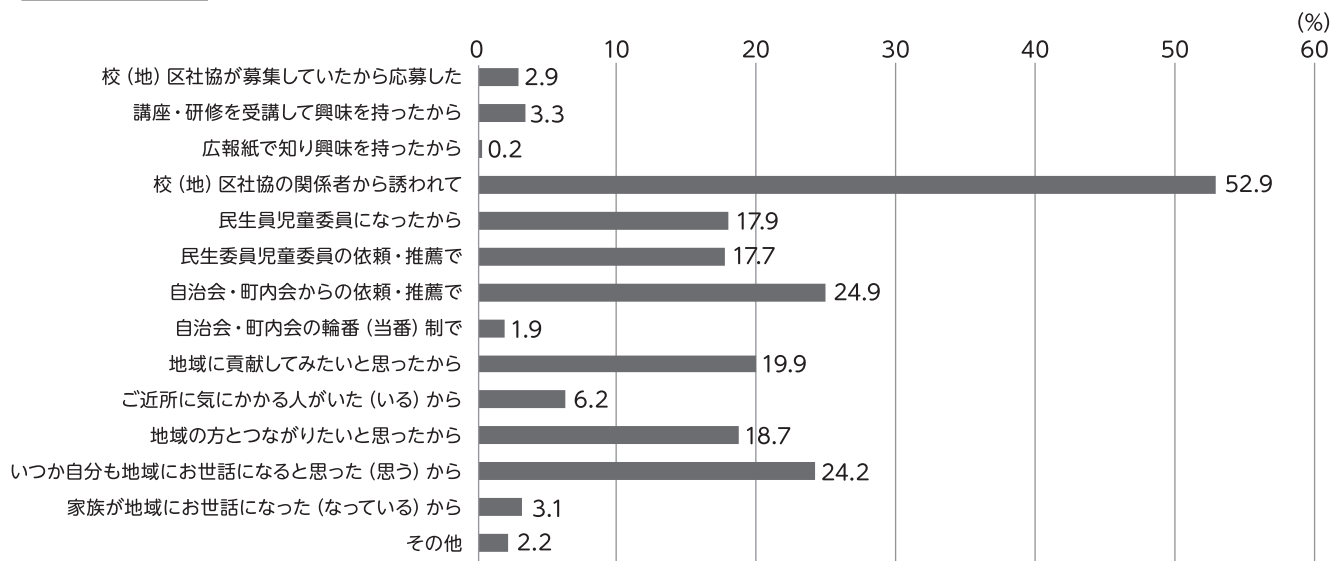
⑥ 八幡西区

図表12 どのような理由で福祉協力員になったか



⑦ 戸畑区

図表13 どのような理由で福祉協力員になったか



(N=418)

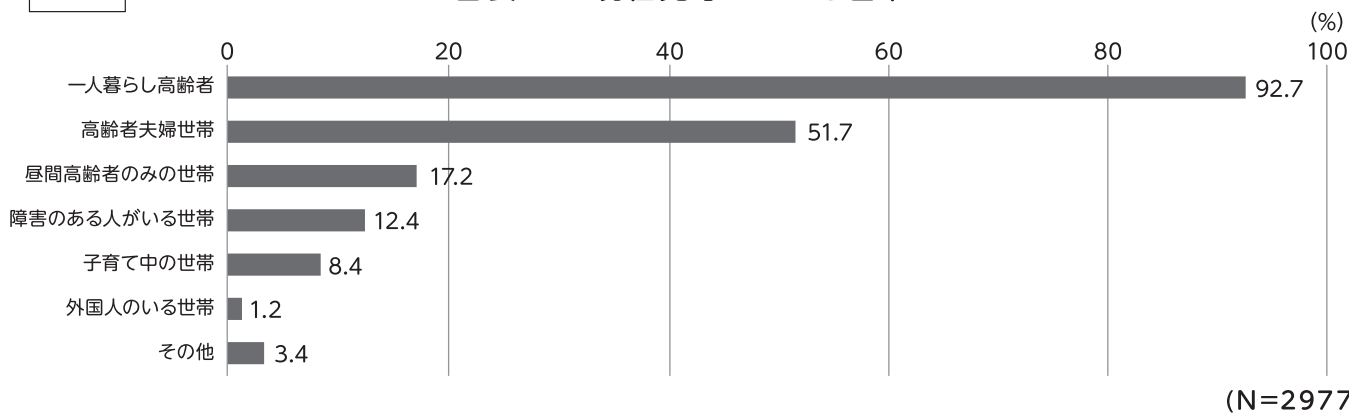
(5) 現在見守っている世帯及び現在見守っている世帯以外^(※)で近隣住民による見守りが必要だと思う世帯(複数回答)

※一部現在見守っている世帯が入っている場合があります。

現在見守っている世帯について、全市では、「一人暮らし高齢者」が最も多く、次いで「高齢者夫婦世帯」、「昼間高齢者のみの世帯」が多かった。

全市

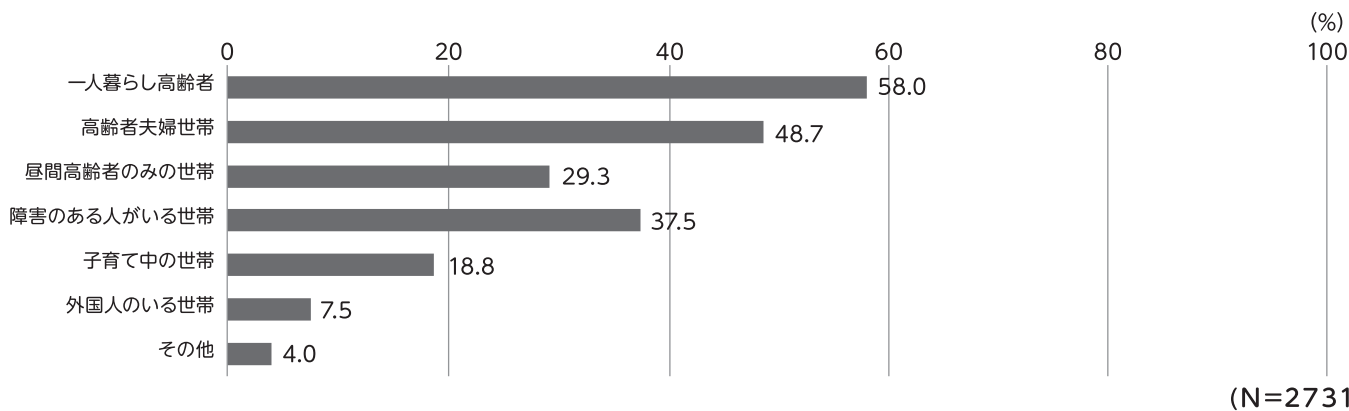
図表14 現在見守っている世帯



| | |
|----------------------------|--|
| 現在見守っている世帯の「その他」の回答 (一部抜粋) | <ul style="list-style-type: none"> ・身内で世話をする人が近所にいない人 ・低学年児童の登下校時の見守り。 |
|----------------------------|--|

現在見守っている世帯以外で見守りが必要だと思う世帯については、全市では、「一人暮らし高齢者」が最も多く、次いで「高齢者夫婦世帯」、「障害のある人がいる世帯」が多かった。

図表15 現在見守っている世帯以外で見守りが必要だと思う世帯

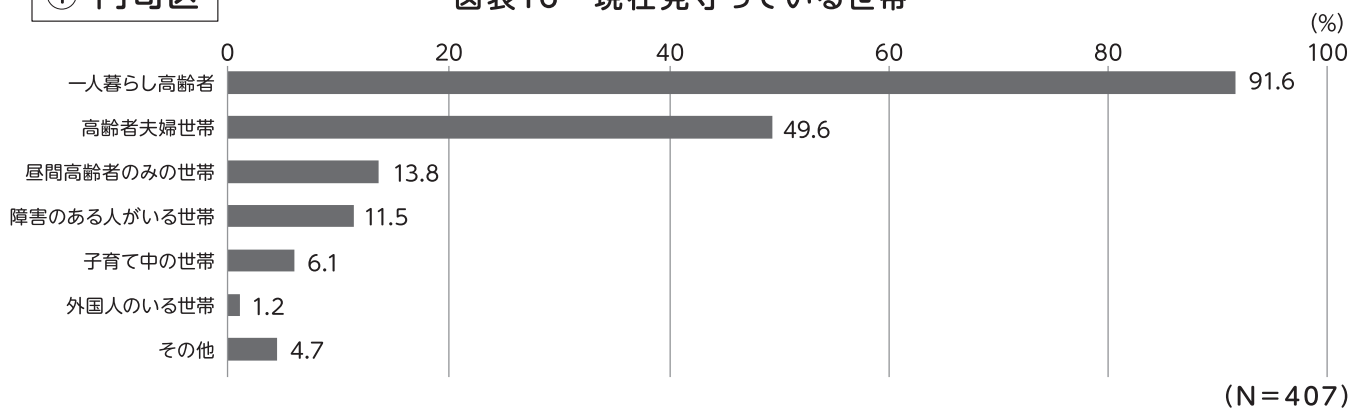


| | |
|----------------------------|---|
| 現在見守っている世帯の「その他」の回答 (一部抜粋) | <ul style="list-style-type: none"> ・他人との交流が少ない人 ・認知症の人がいる世帯 ・その時々によって話し合いを必要とされる方。(大人、子ども) |
|----------------------------|---|

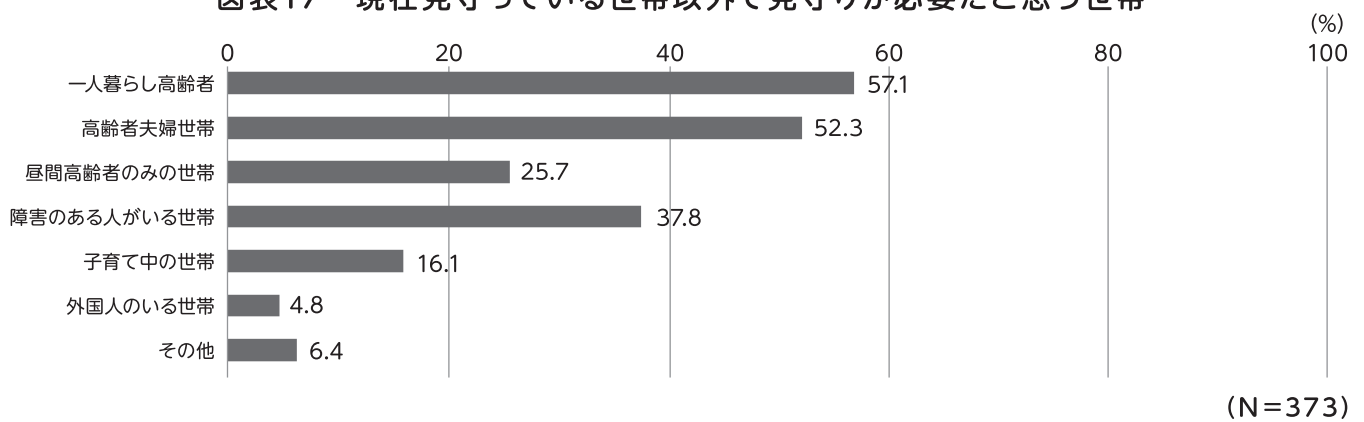
各区の結果は次のとおりである。

① 門司区

図表16 現在見守っている世帯

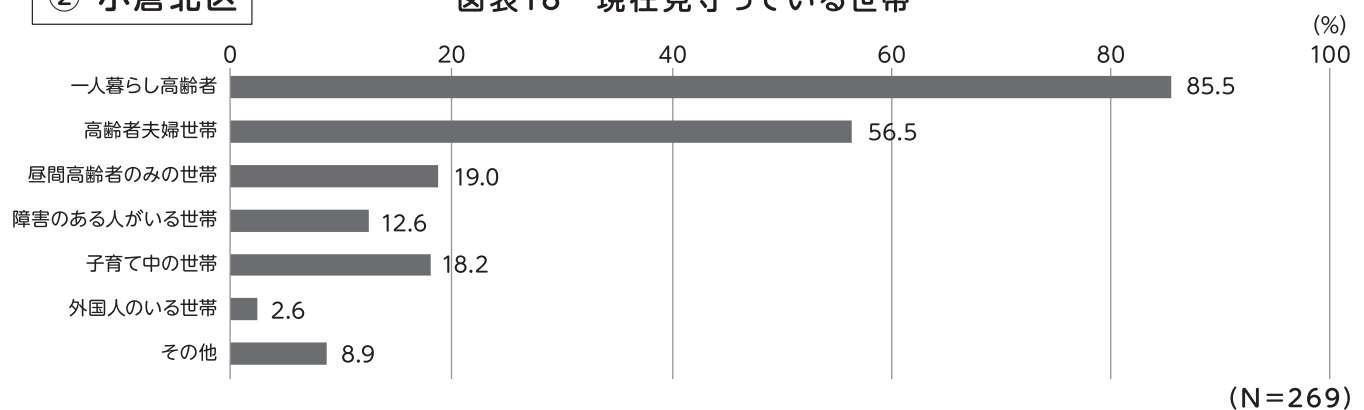


図表17 現在見守っている世帯以外で見守りが必要だと思う世帯

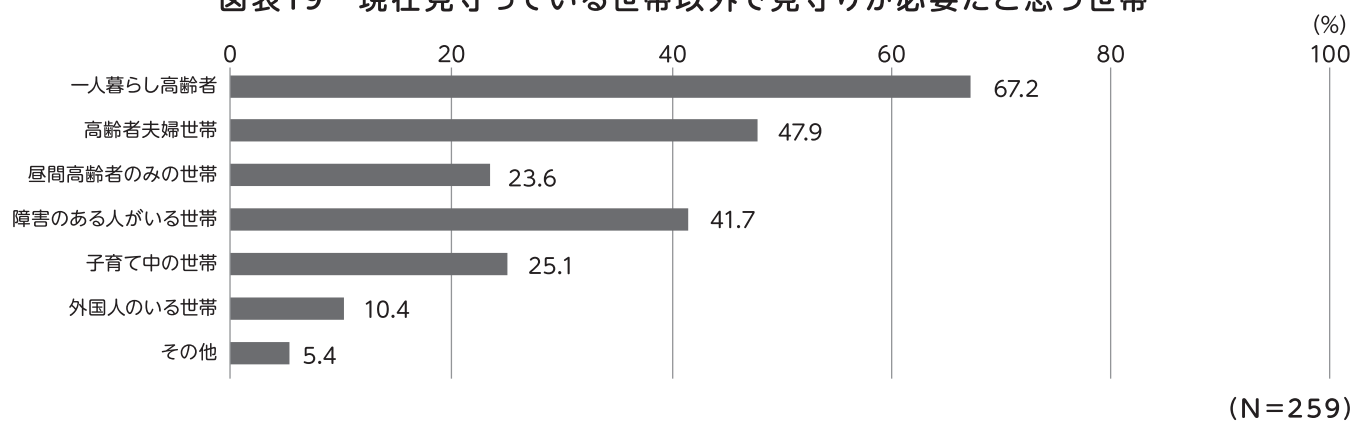


② 小倉北区

図表18 現在見守っている世帯

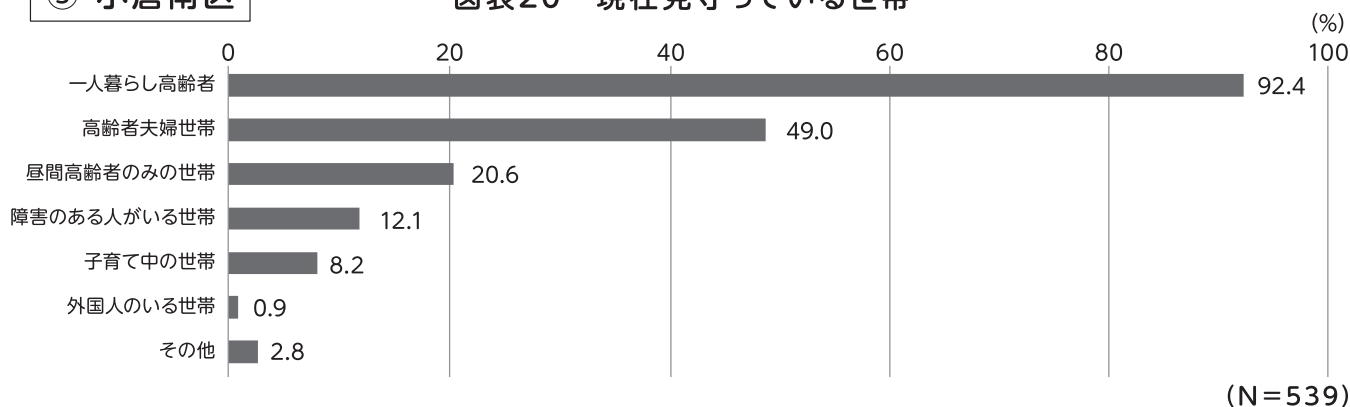


図表19 現在見守っている世帯以外で見守りが必要だと思う世帯

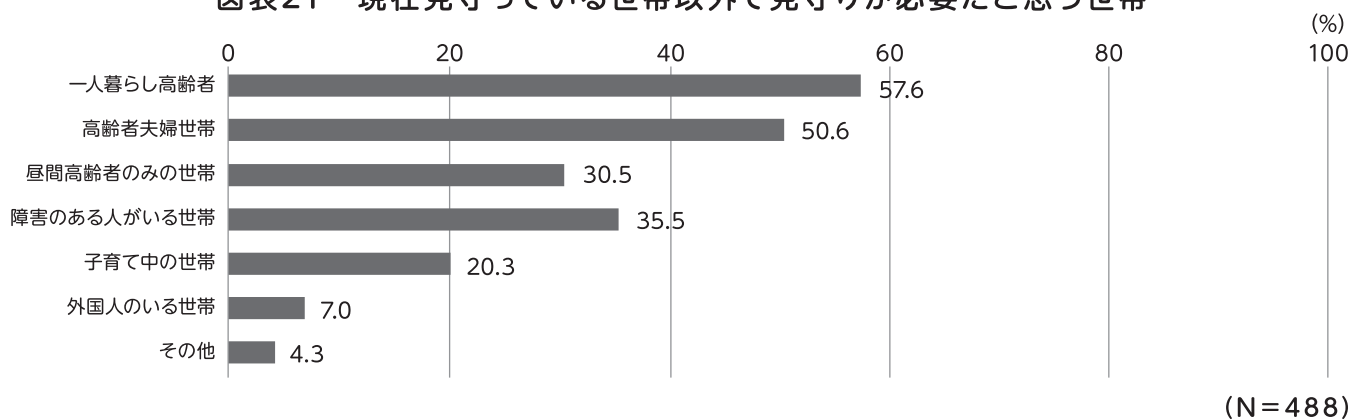


③ 小倉南区

図表20 現在見守っている世帯

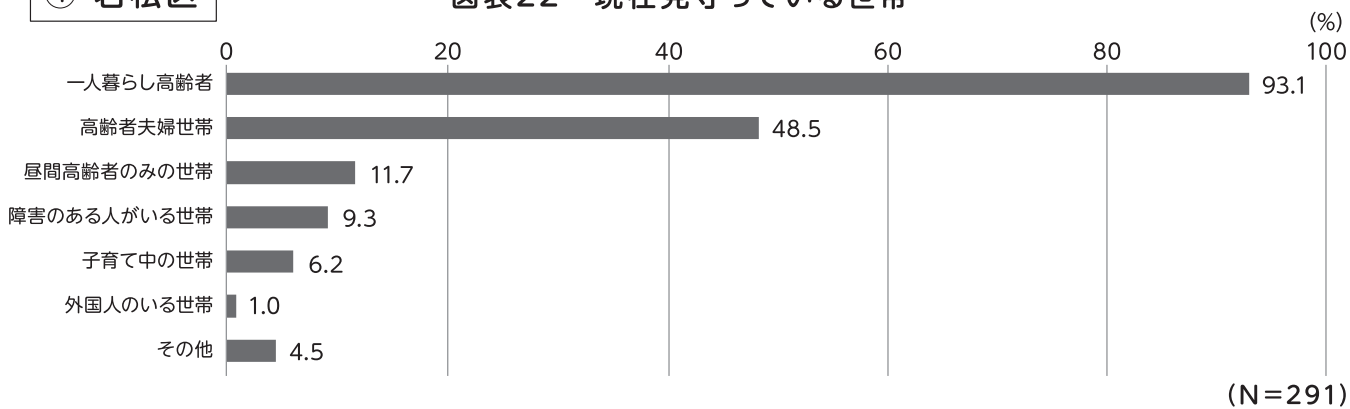


図表21 現在見守っている世帯以外で見守りが必要だと思う世帯

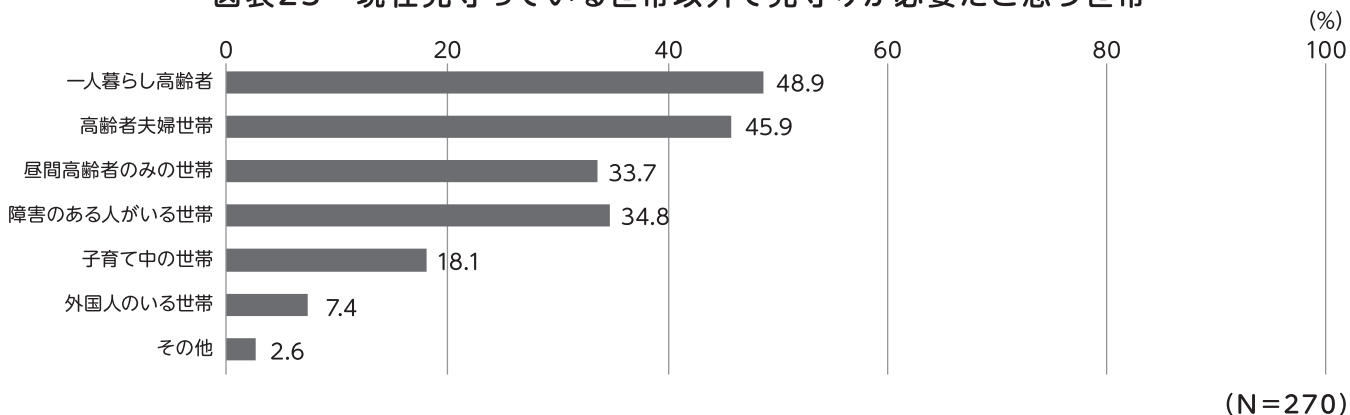


④ 若松区

図表22 現在見守っている世帯

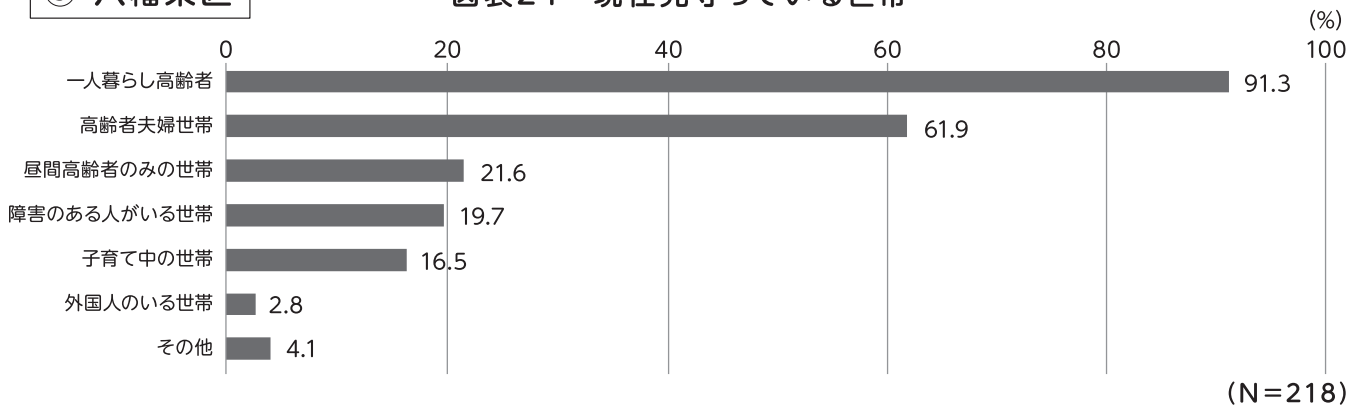


図表23 現在見守っている世帯以外で見守りが必要だと思う世帯

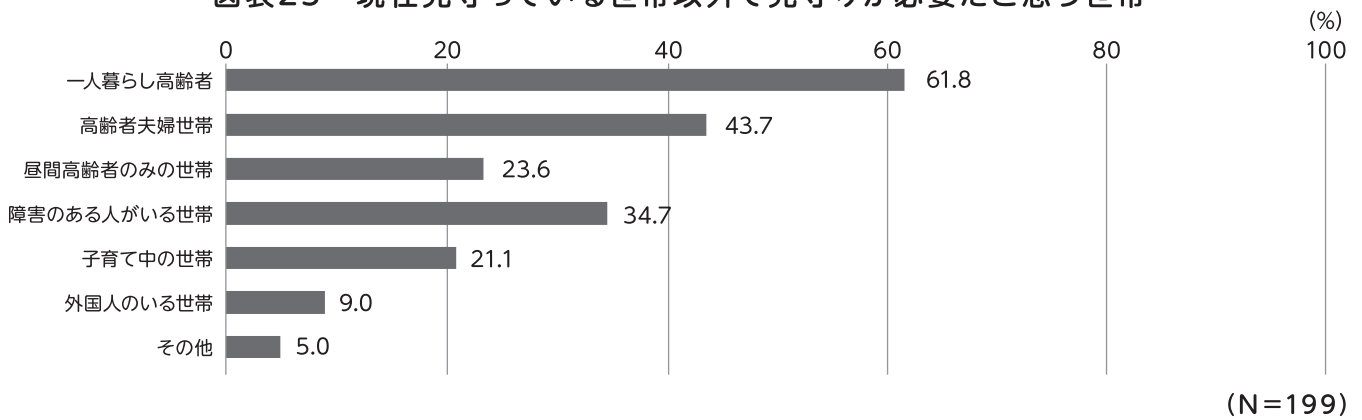


⑤ 八幡東区

図表24 現在見守っている世帯

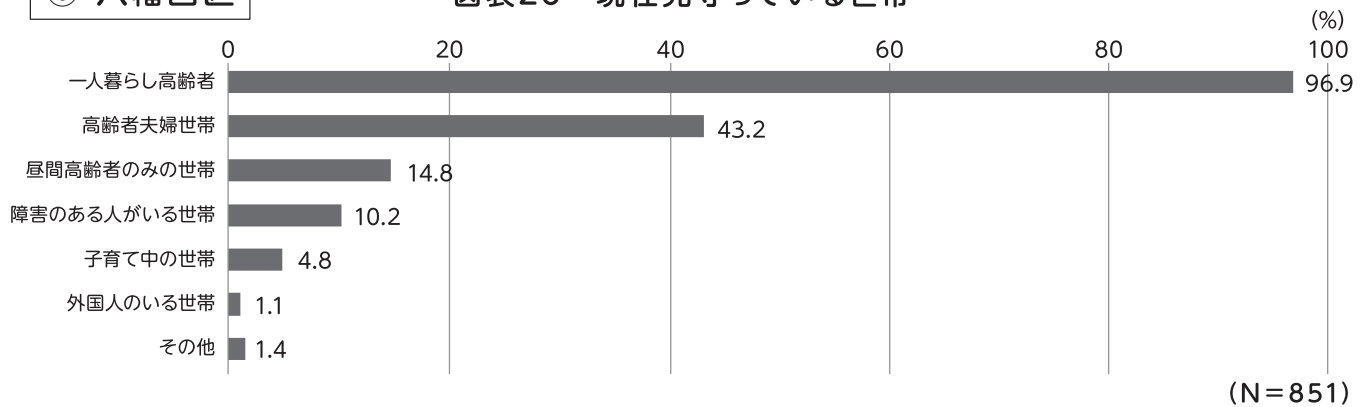


図表25 現在見守っている世帯以外で見守りが必要だと思う世帯

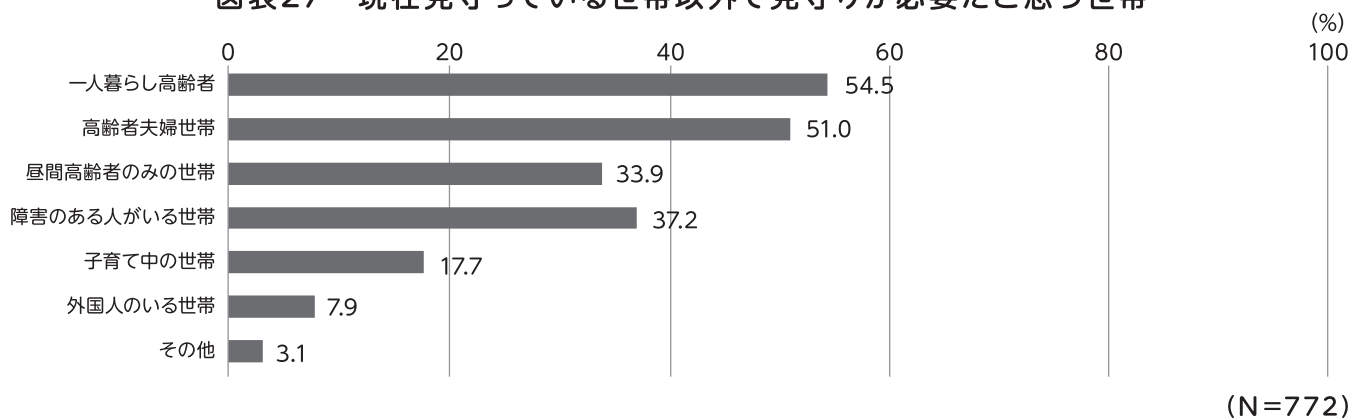


⑥ 八幡西区

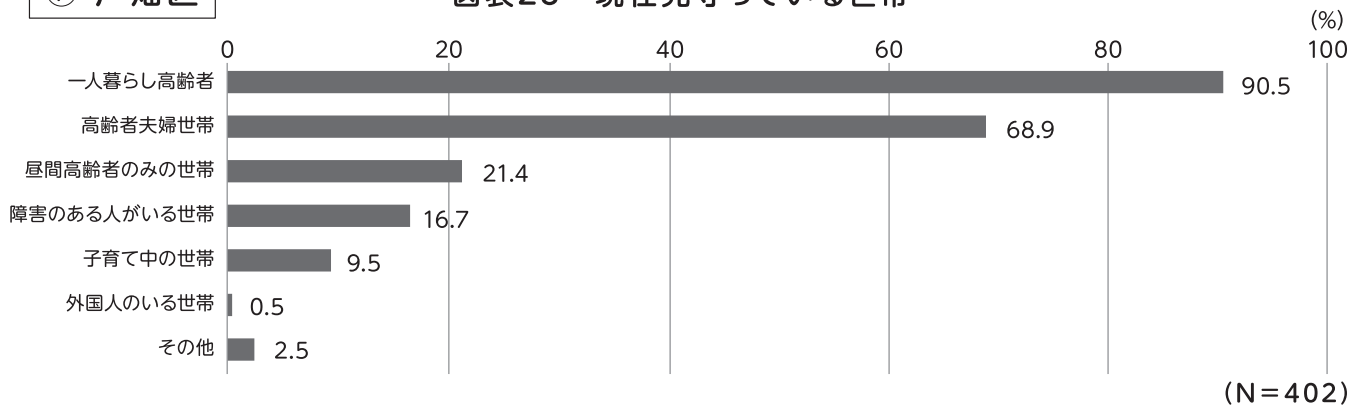
図表26 現在見守っている世帯



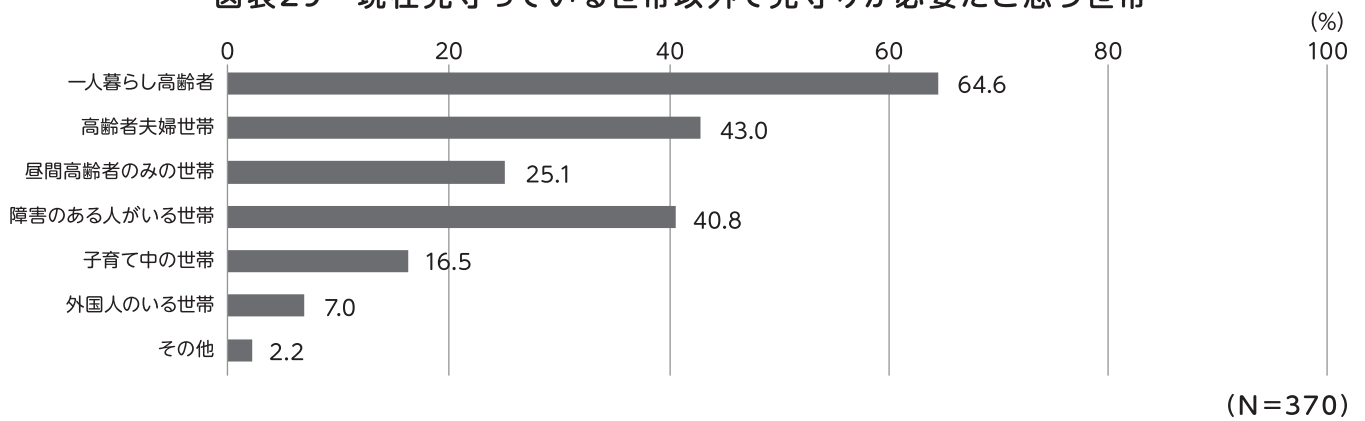
図表27 現在見守っている世帯以外で見守りが必要だと思う世帯



図表28 現在見守っている世帯



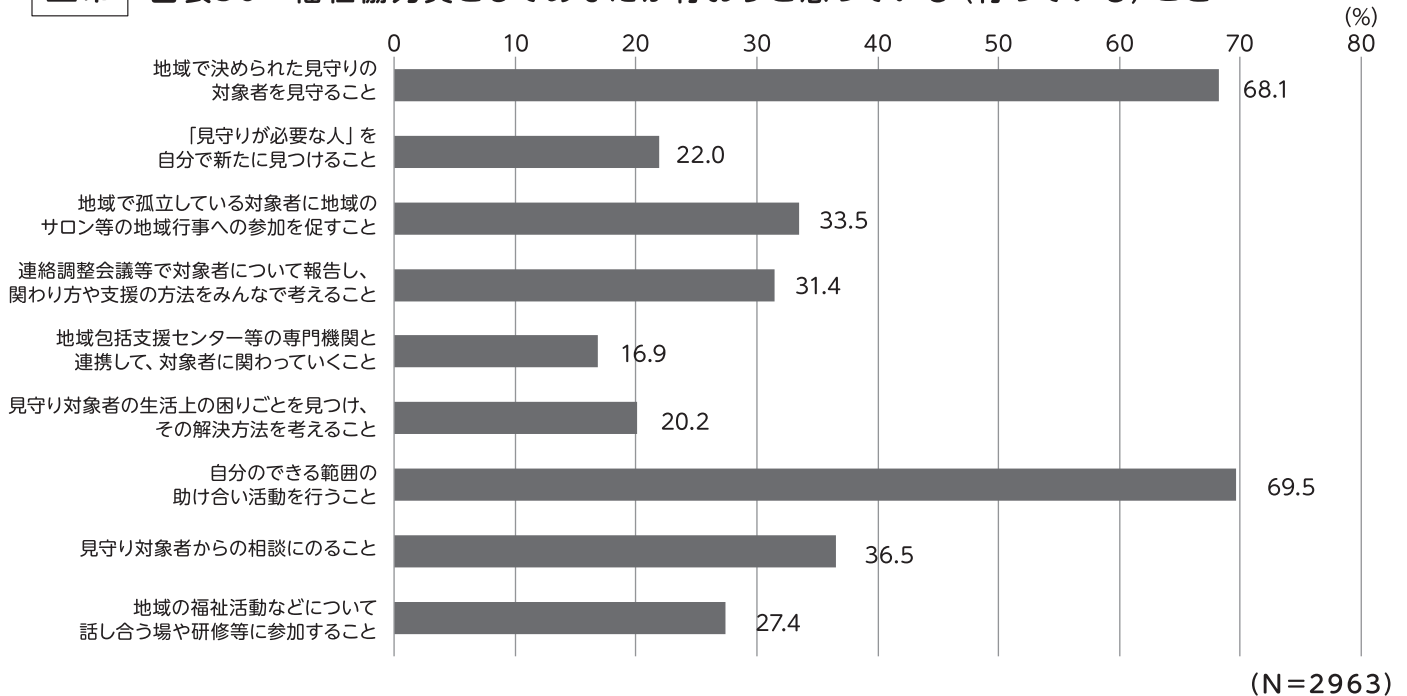
図表29 現在見守っている世帯以外で見守りが必要だと思う世帯



(6) 福祉協力員としてあなたが行おうと思っている(行っている)こと(複数回答)

全市では「自分のできる範囲の助け合い活動を行うこと」、「地域で決められた見守りの対象者を見守ること」が多く、それぞれ約70%の人が回答していた。

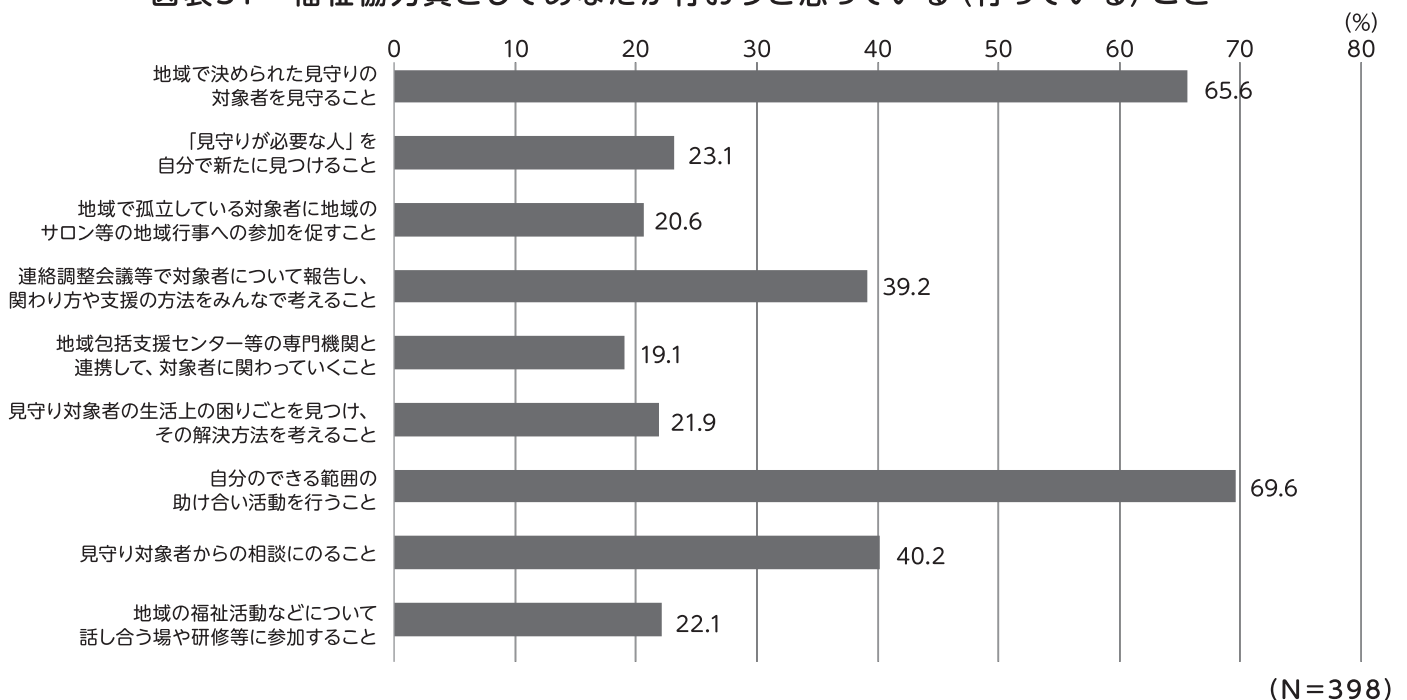
全市 図表30 福祉協力員としてあなたが行おうと思っている(行っている)こと



各区の結果は次のとおりである。

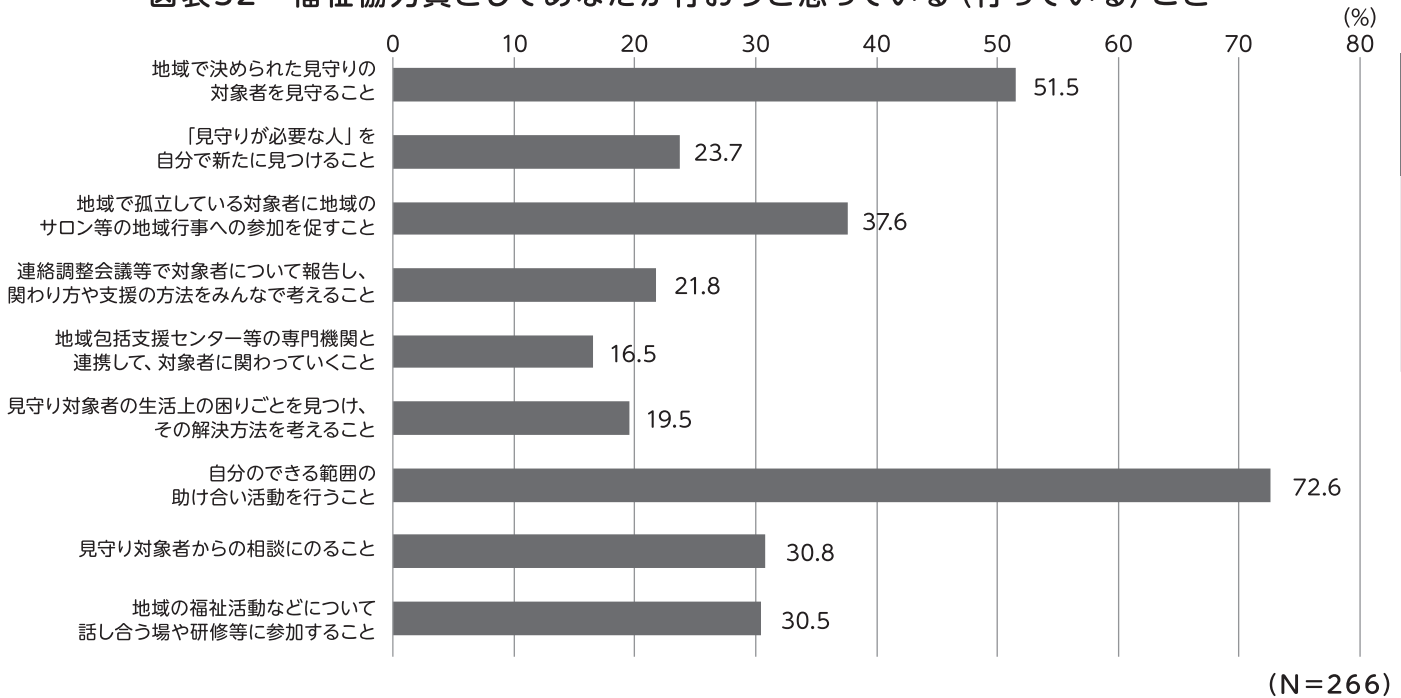
① 門司区

図表31 福祉協力員としてあなたが行おうと思っている(行っている)こと



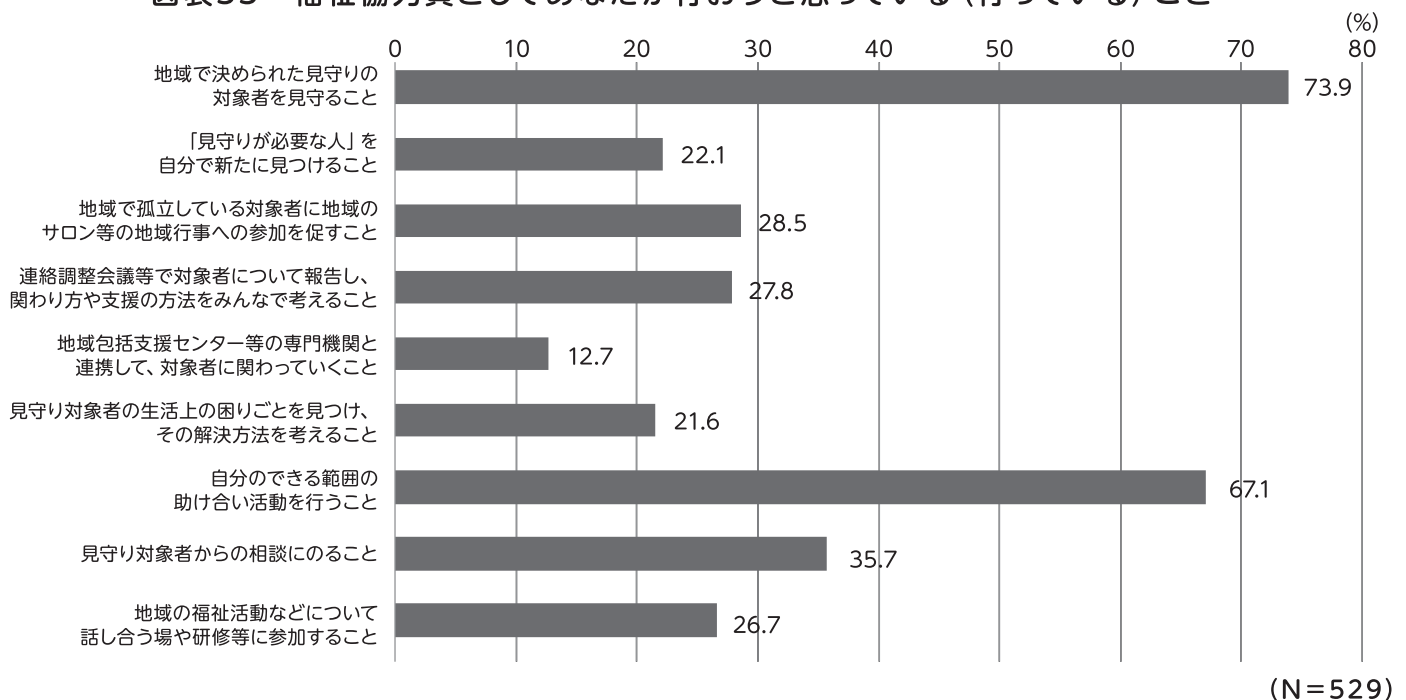
② 小倉北区

図表32 福祉協力員としてあなたが行おうと思っている(行っている)こと



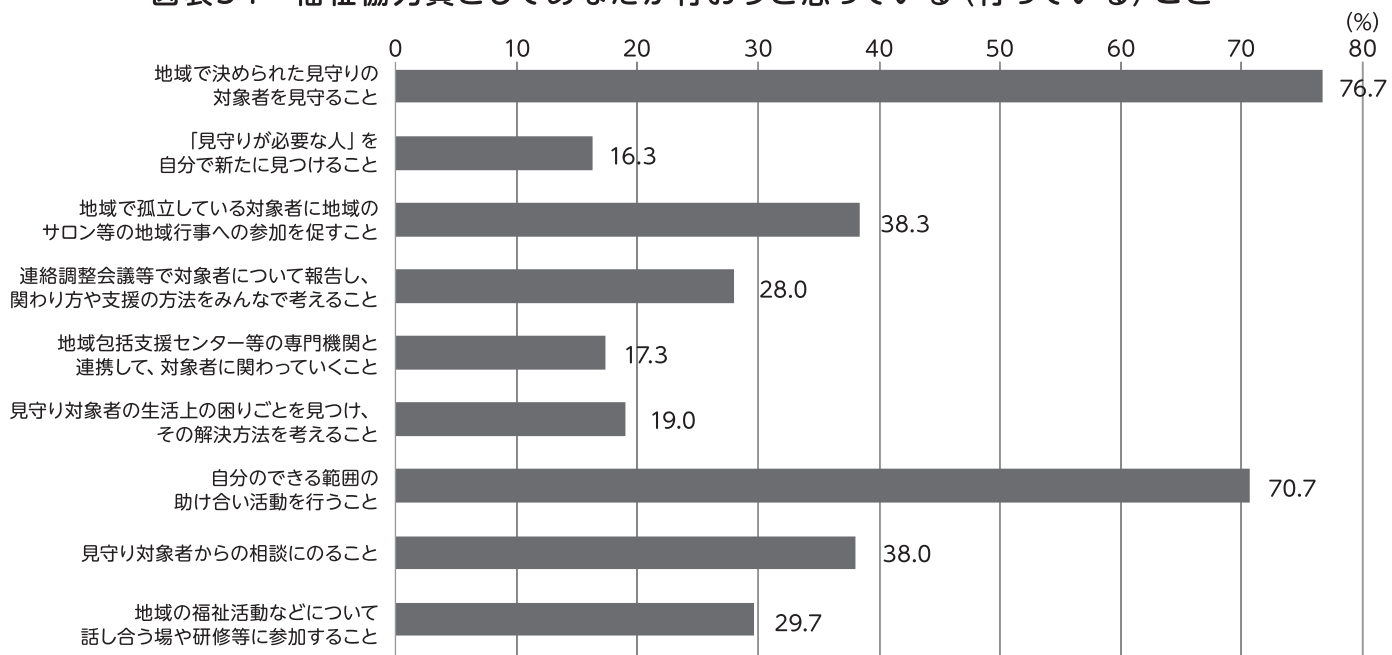
③ 小倉南区

図表33 福祉協力員としてあなたが行おうと思っている(行っている)こと



④ 若松区

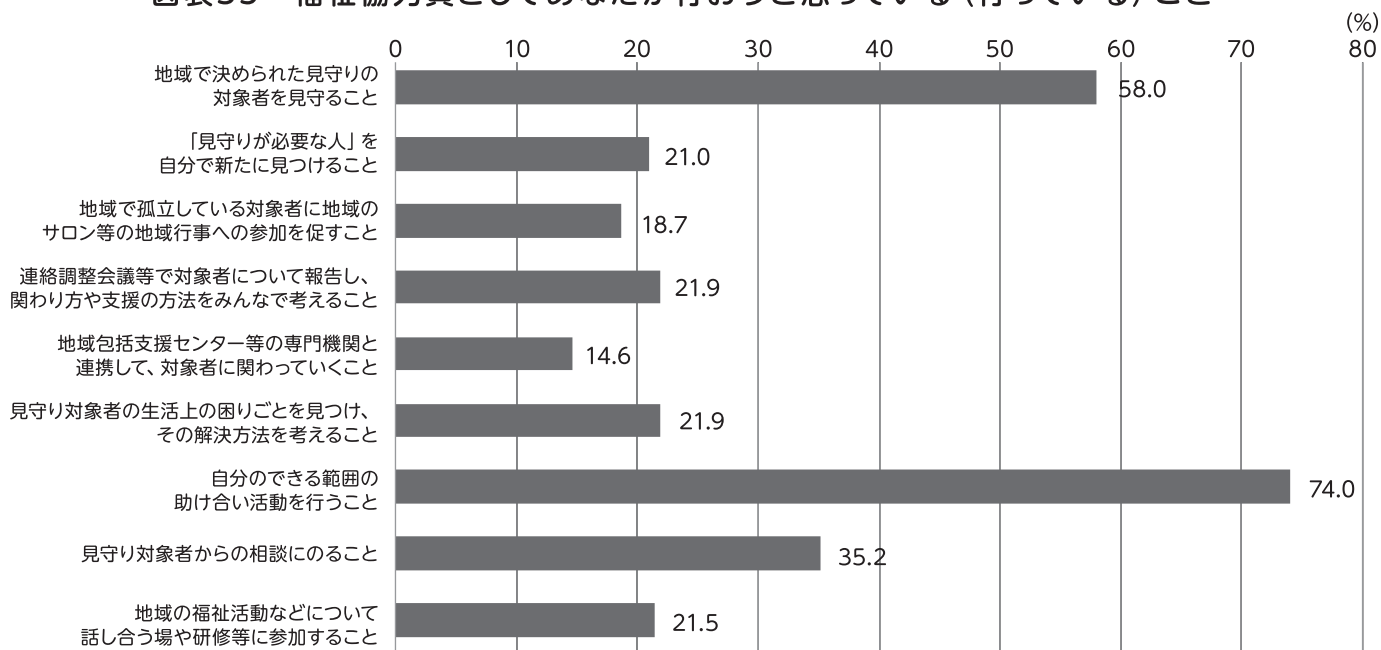
図表34 福祉協力員としてあなたが行おうと思っている(行っている)こと



(N=300)

⑤ 八幡東区

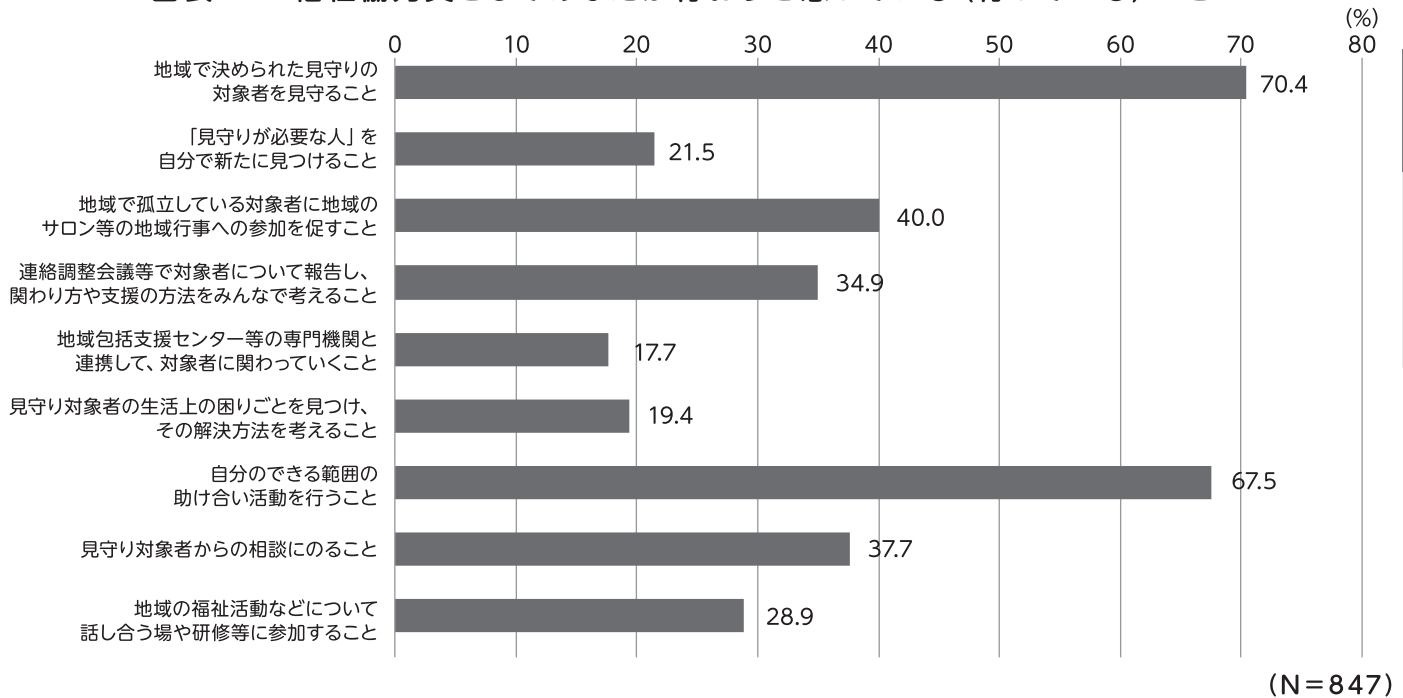
図表35 福祉協力員としてあなたが行おうと思っている(行っている)こと



(N=219)

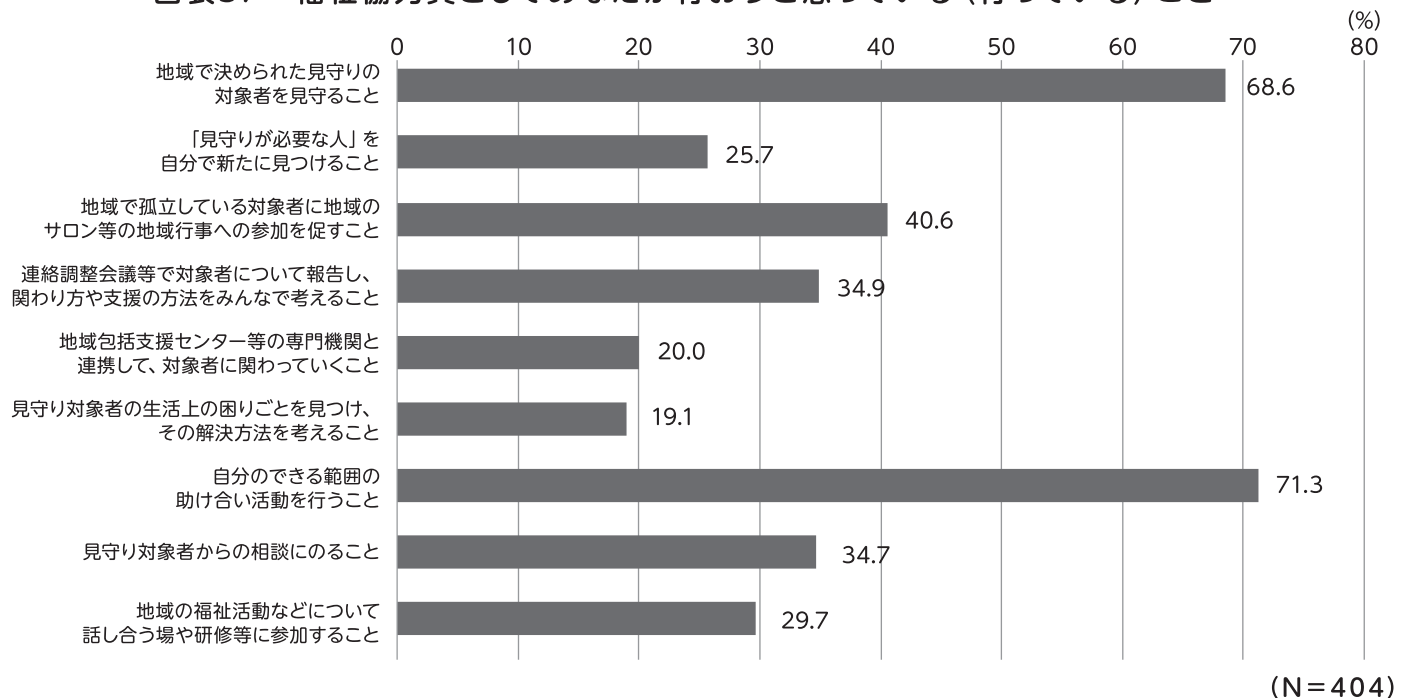
⑥ 八幡西区

図表36 福祉協力員としてあなたが行おうと思っている(行っている)こと



⑦ 戸畑区

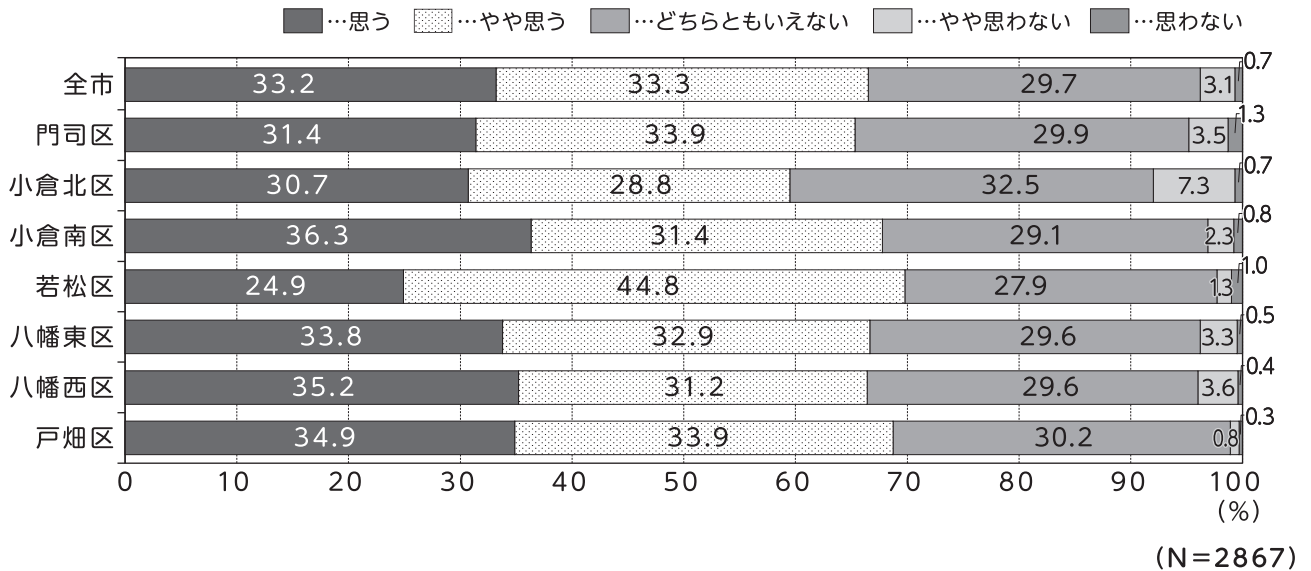
図表37 福祉協力員としてあなたが行おうと思っている(行っている)こと



(7) 近隣住民による助け合い活動を充実していきたいと思うか

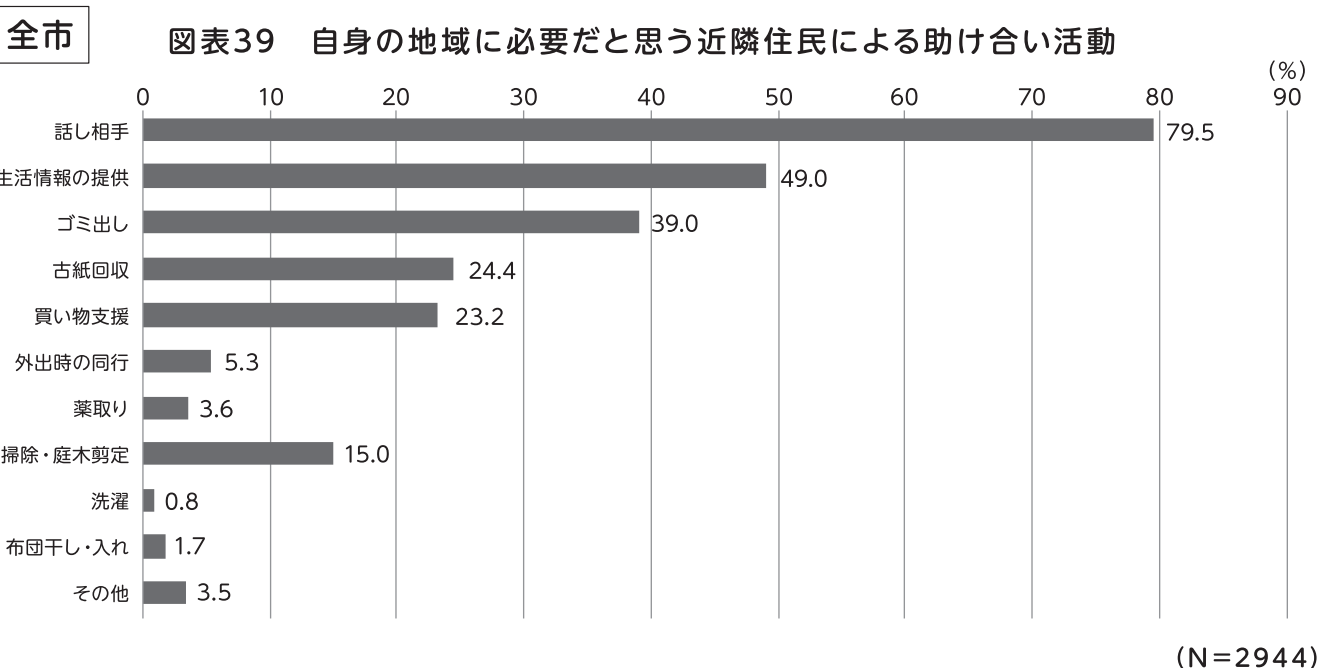
「思う」、「やや思う」を加えると約67%が助け合い活動を充実していきたいと考えている。区別に見た場合も概ね同様の結果である。

図表38 近隣住民による助け合い活動を充実していきたいと思うか



(8) 自身の地域に必要なと思う近隣住民による助け合い活動（複数回答）

全市では、「話し相手」が最も多く、次いで「生活情報の提供」、「ゴミ出し」が多かった。



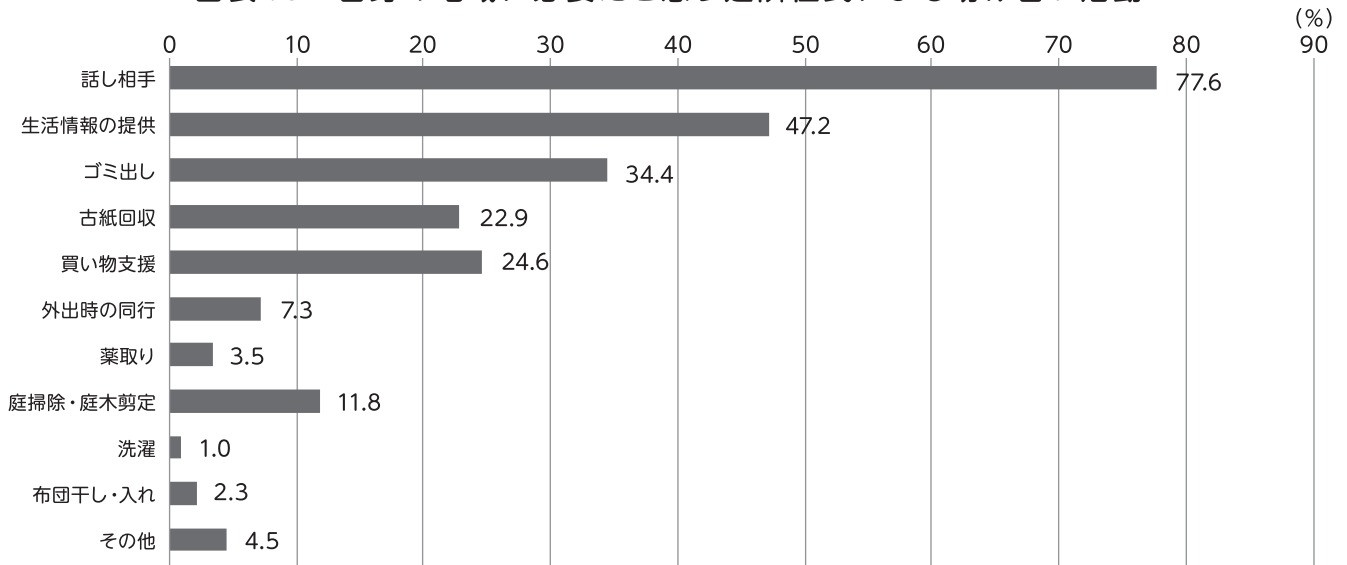
「その他」の回答（一部抜粋）

- ・介護士・ヘルパーの及ばない所の生活支援
- ・出来る事だけを無理なく活動していくこと。
- ・負担が多すぎると長続きしないので、場合によっては公的な支援や方法を一緒に考えていく。

各区の結果は次のとおりである。

① 門司区

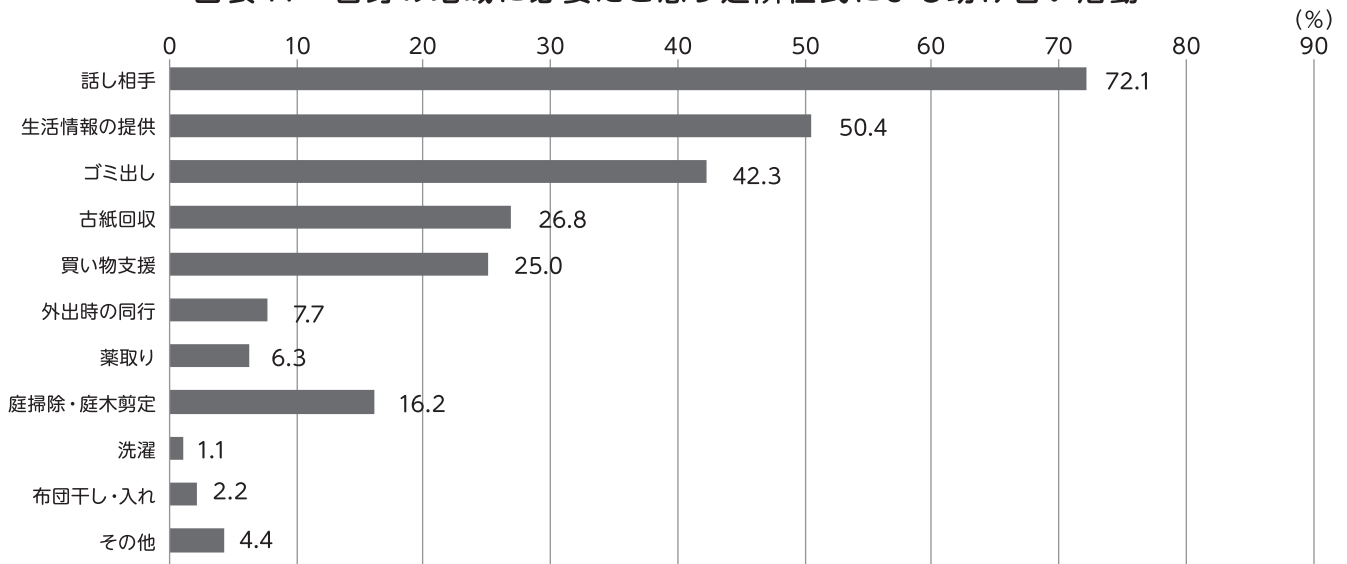
図表40 自身の地域に必要なと思う近隣住民による助け合い活動



(N=398)

② 小倉北区

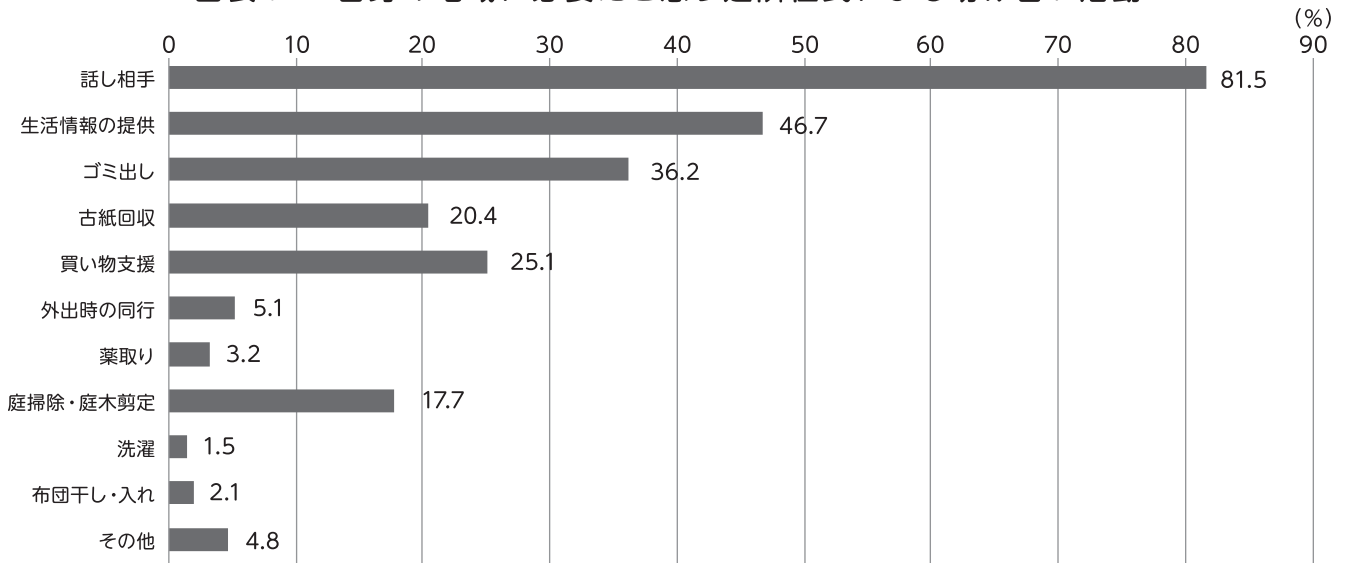
図表41 自身の地域に必要なと思う近隣住民による助け合い活動



(N=272)

③ 小倉南区

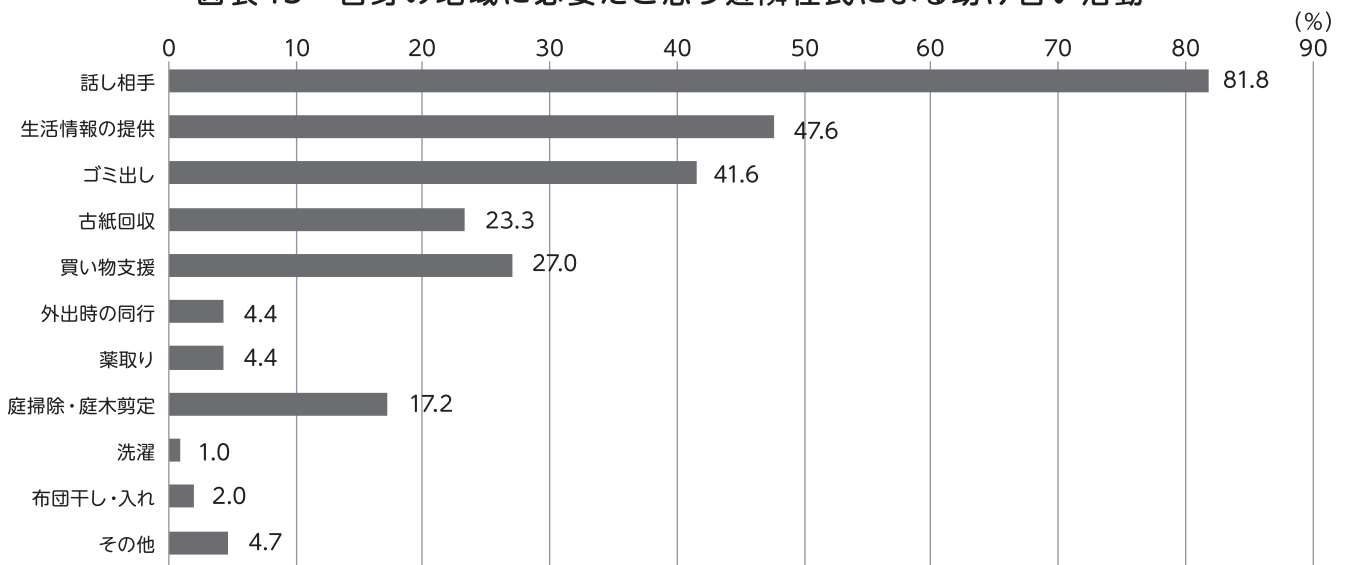
図表42 自身の地域に必要なと思う近隣住民による助け合い活動



(N=525)

④ 若松区

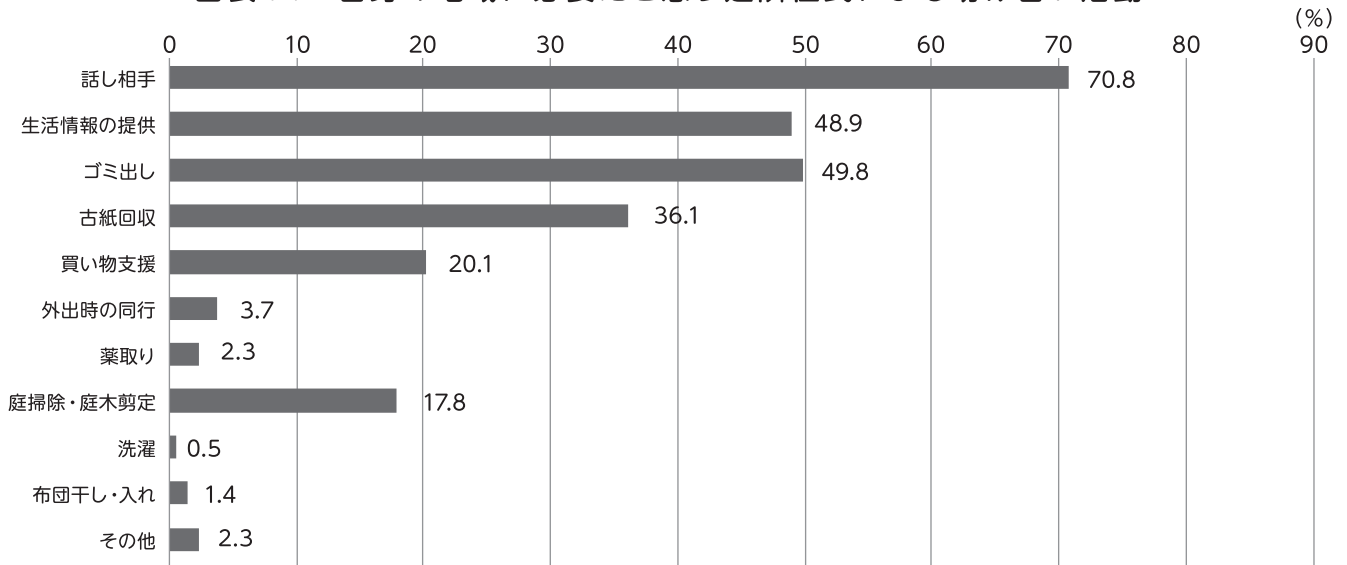
図表43 自身の地域に必要なと思う近隣住民による助け合い活動



(N=296)

⑤ 八幡東区

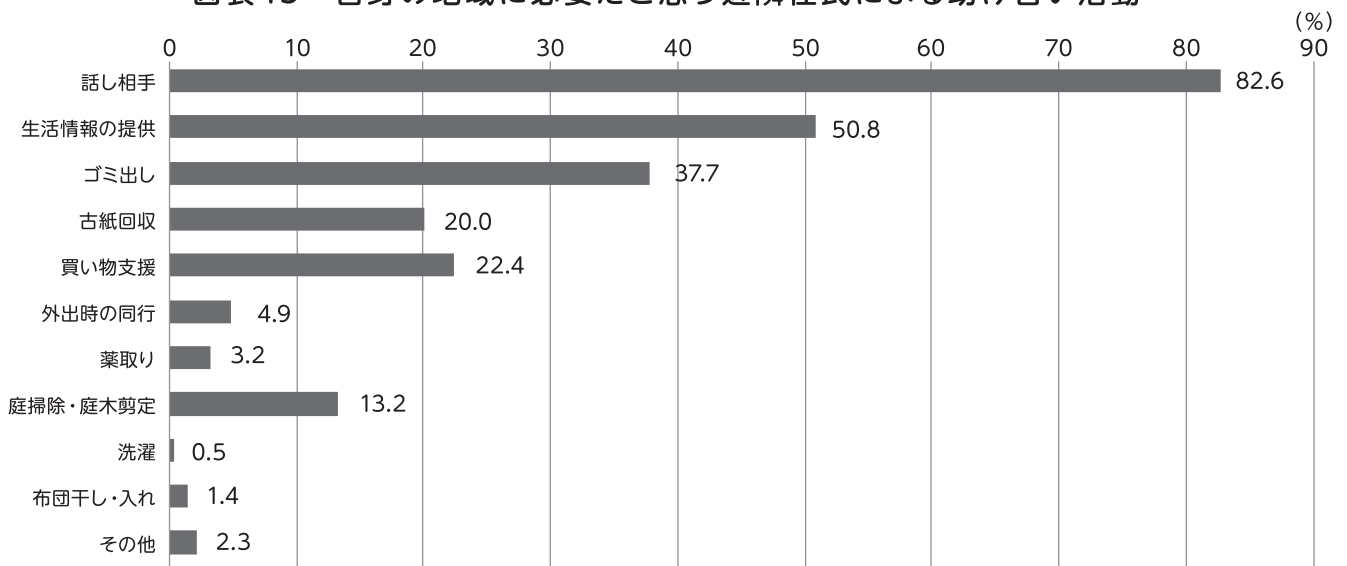
図表44 自身の地域に必要なと思う近隣住民による助け合い活動



(N=219)

⑥ 八幡西区

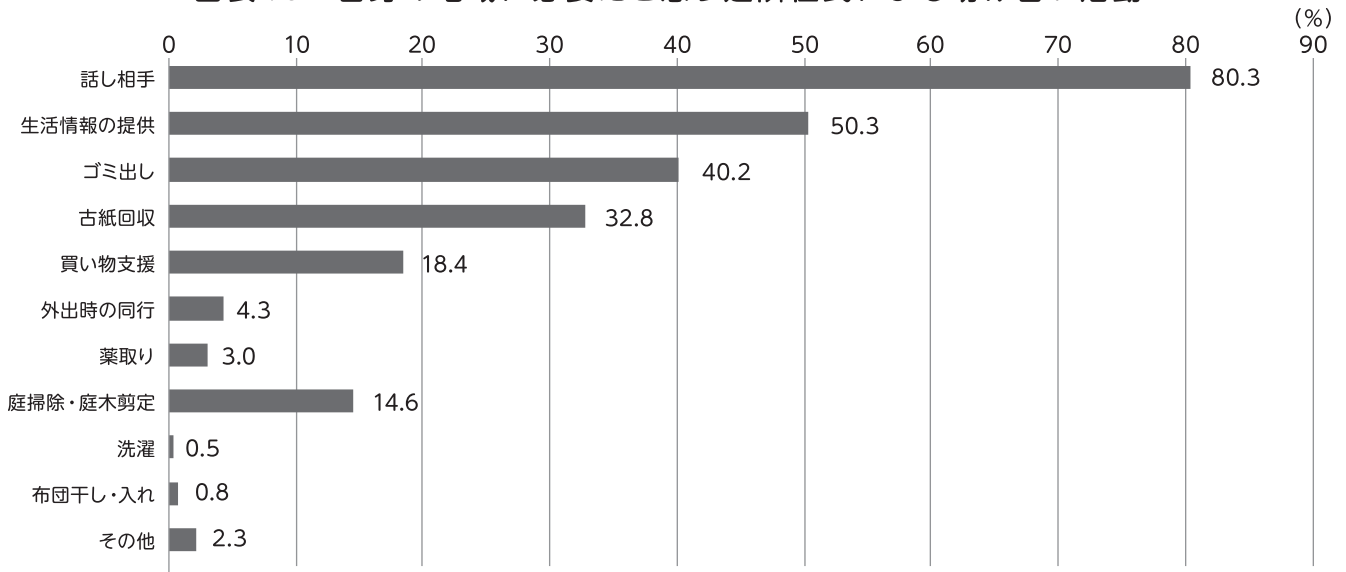
図表45 自身の地域に必要なと思う近隣住民による助け合い活動



(N=838)

⑦ 戸畑区

図表46 自身の地域に必要なと思う近隣住民による助け合い活動

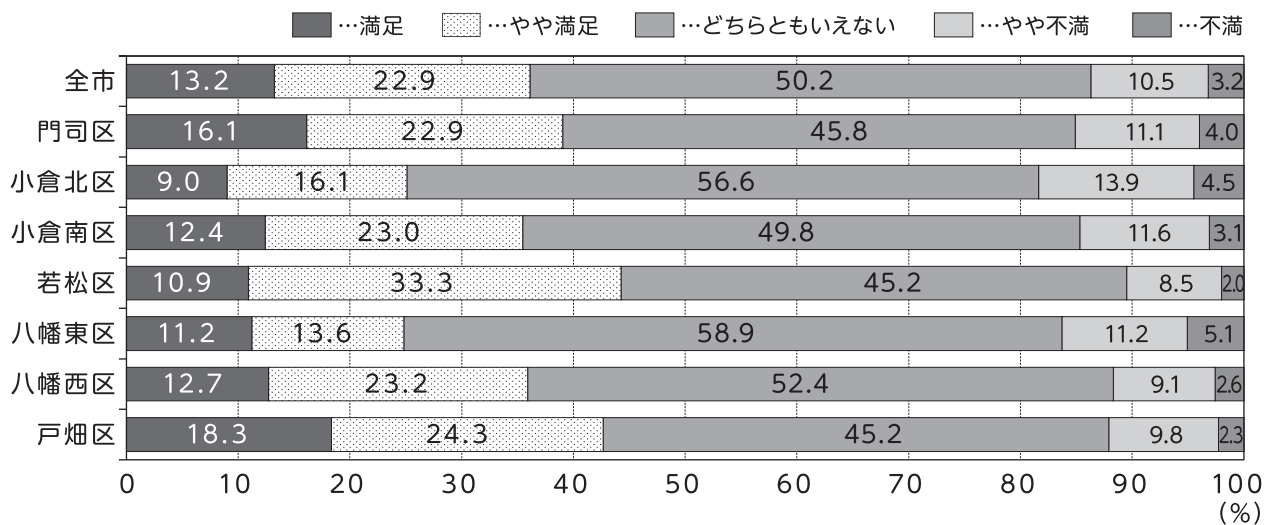


(N=396)

(9) 自身の地域の住民による話し合いのしくみ（連絡調整会議）には満足しているか

全市では「どちらともいえない」が50.2%である。「満足」、「やや満足」を加えると約36%が満足している。一方で「やや不満」、「不満」を加えると約14%の人が不満を感じている。

図表47 話し合いのしくみ（連絡調整会議）には満足しているか



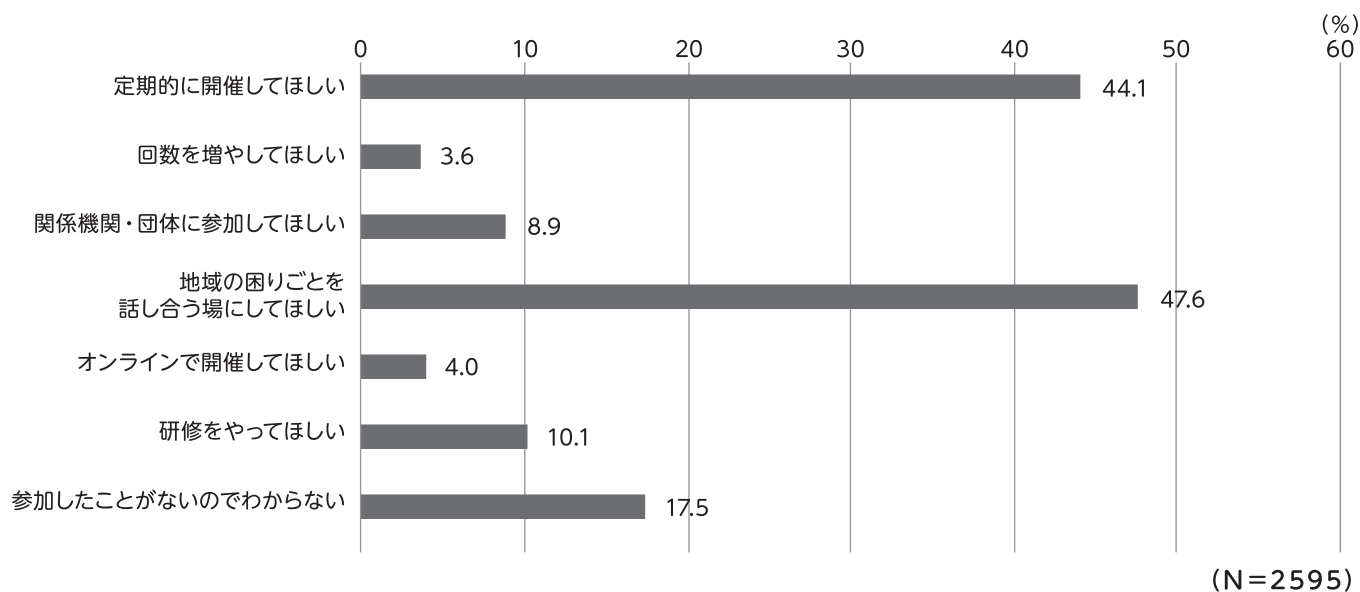
(N=2869)

(10) 住民による話し合いのしくみ(連絡調整会議)をどのように充実していきたいか

全市では、「地域の困りごとを話し合う場にしてほしい」が最も多く、次いで「定期的を開催してほしい」が多かった。

全市

図表48 住民による話し合いのしくみ(連絡調整会議)をどのように充実していきたいか



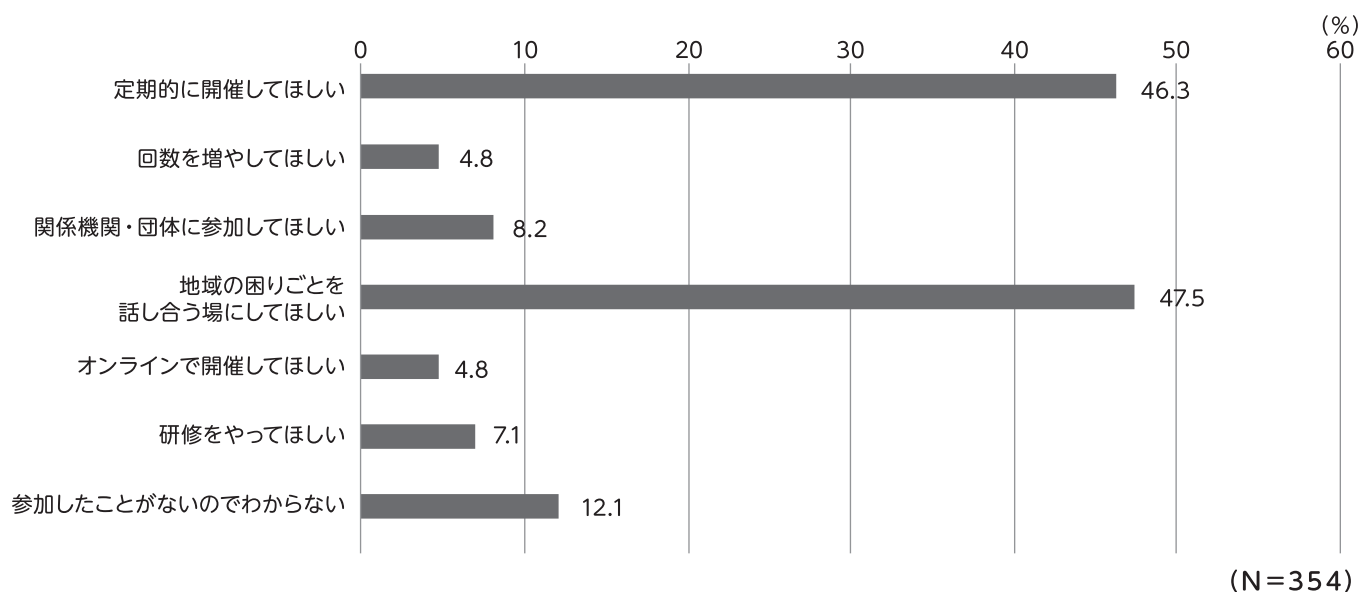
「関係機関・団体に参加してほしい」の具体的な
関係機関・団体名 一部抜粋

行政、病院、介護事業者、校区関係団体等

各区の結果は次のとおりである。

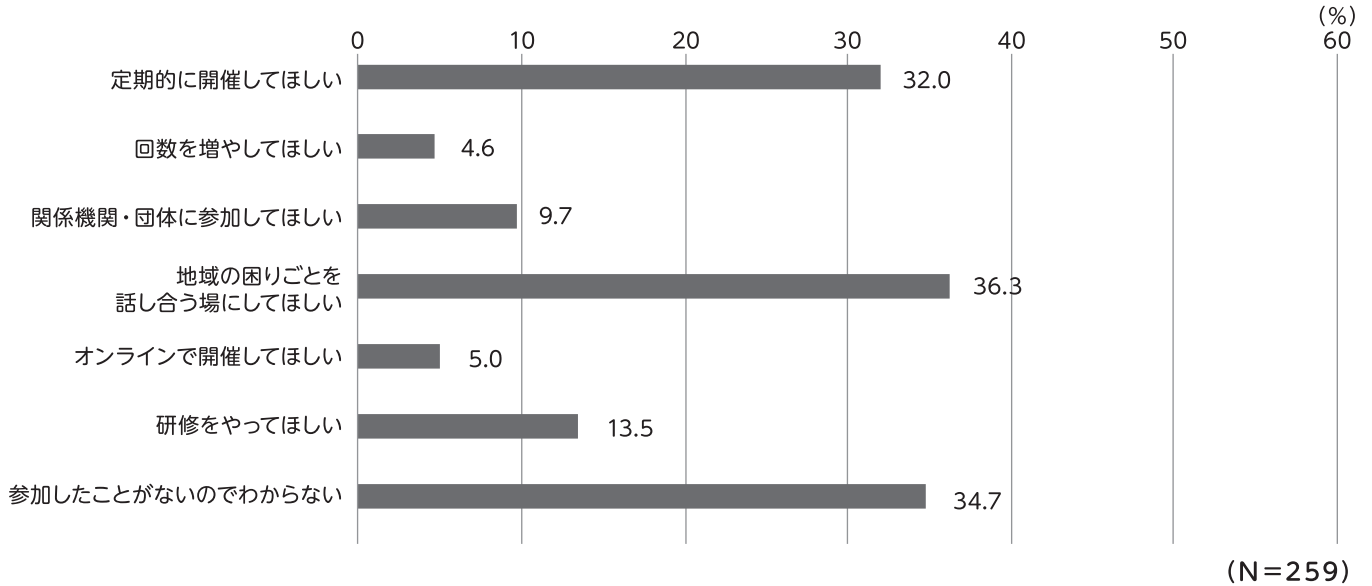
① 門司区

図表49 住民による話し合いのしくみ(連絡調整会議)をどのように充実していきたいか



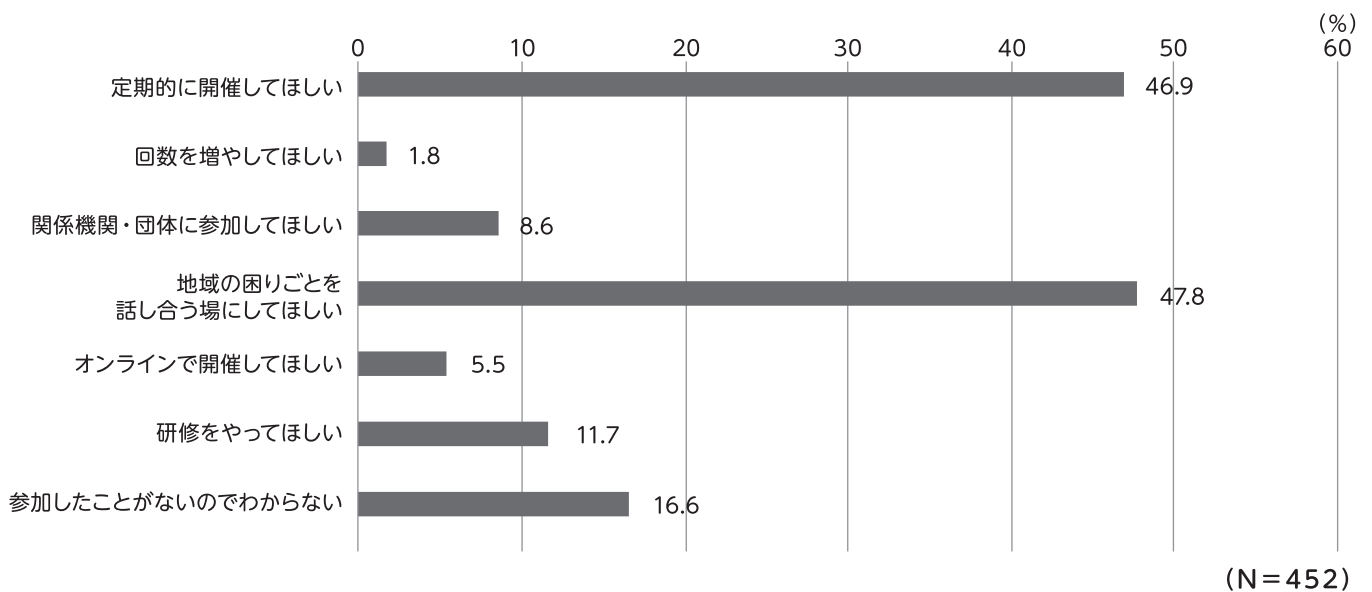
② 小倉北区

図表50 住民による話し合いのしくみ(連絡調整会議)をどのように充実していきたいか



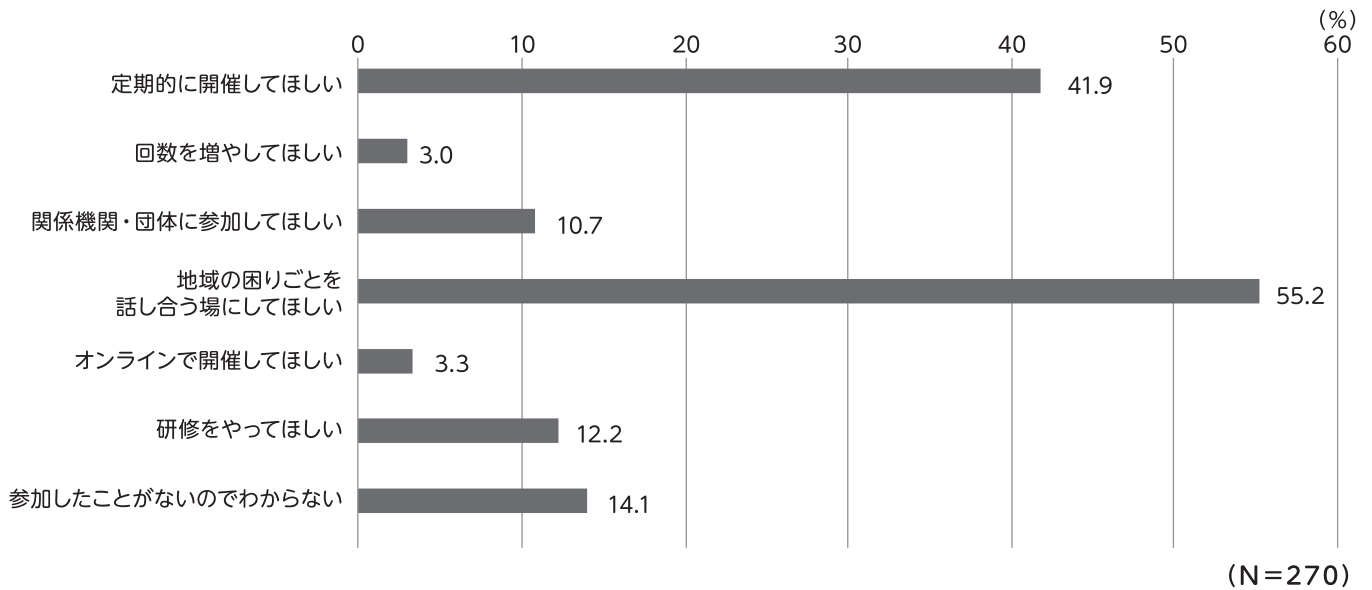
③ 小倉南区

図表51 住民による話し合いのしくみ(連絡調整会議)をどのように充実していきたいか



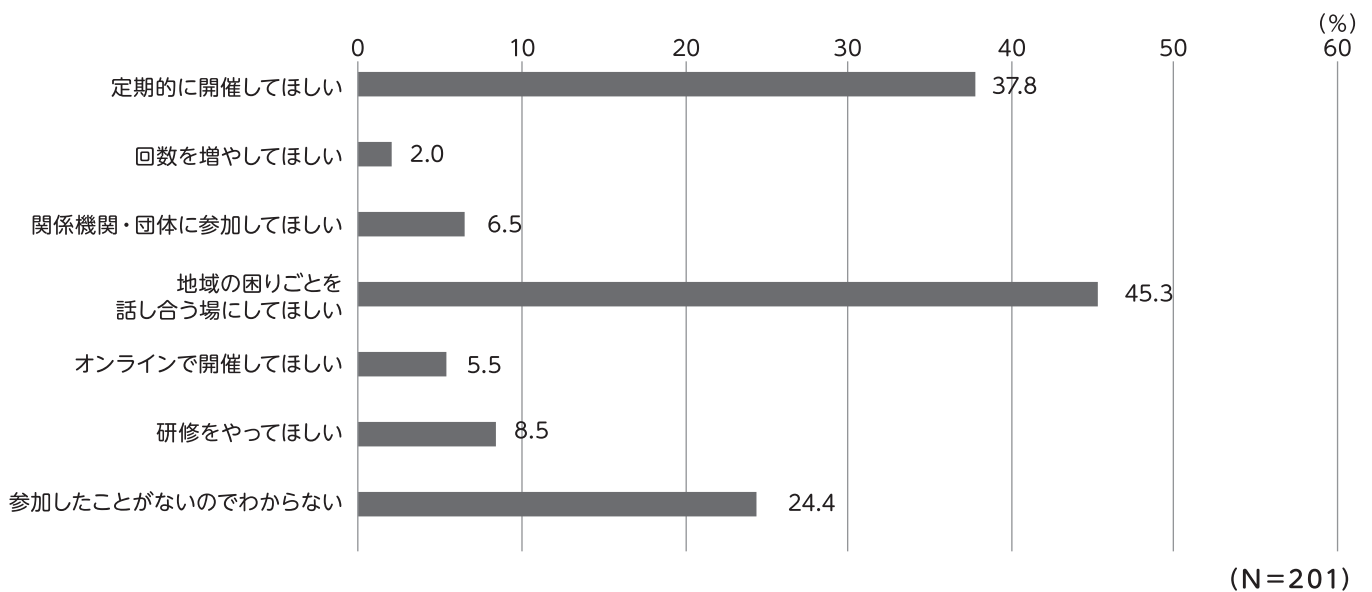
④ 若松区

図表52 住民による話し合いのしくみ(連絡調整会議)をどのように充実していきたいか



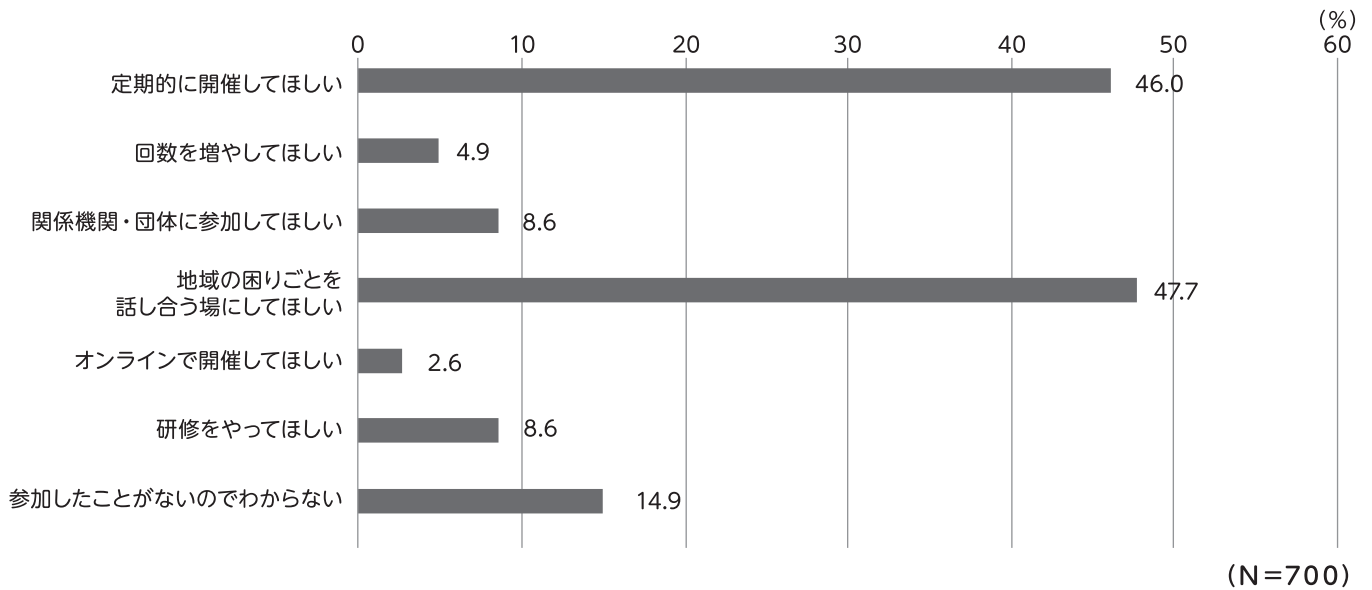
⑤ 八幡東区

図表53 住民による話し合いのしくみ(連絡調整会議)をどのように充実していきたいか



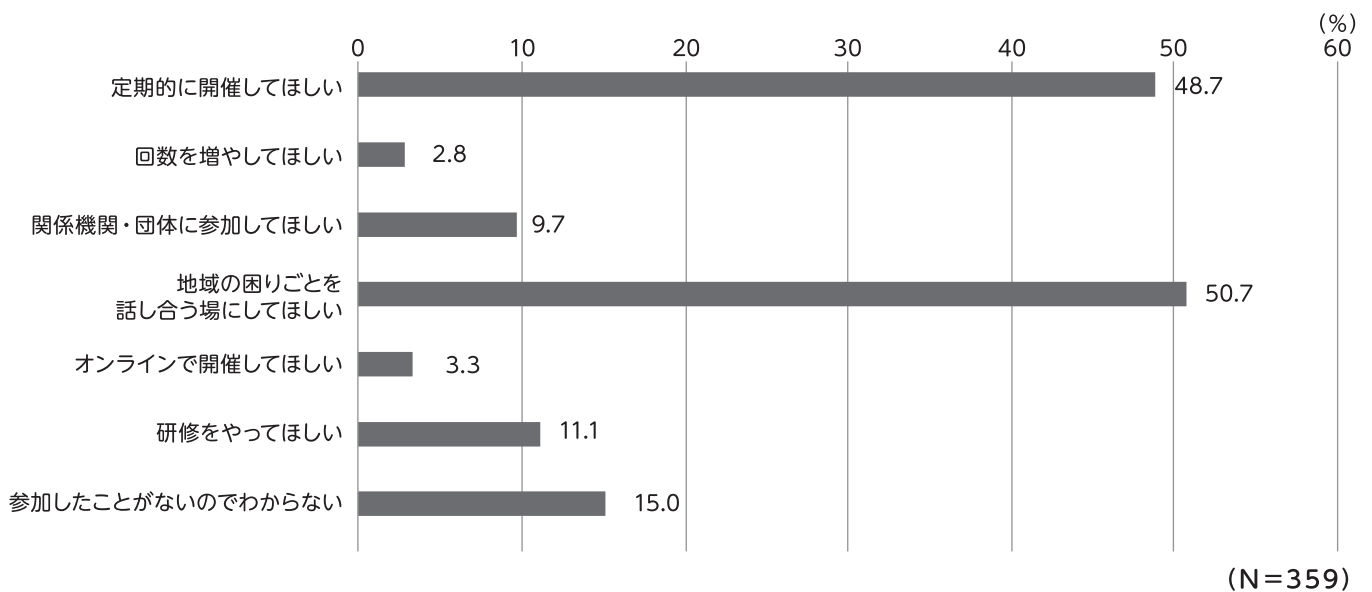
⑥ 八幡西区

図表54 住民による話し合いのしくみ(連絡調整会議)をどのように充実していきたいか



⑦ 戸畑区

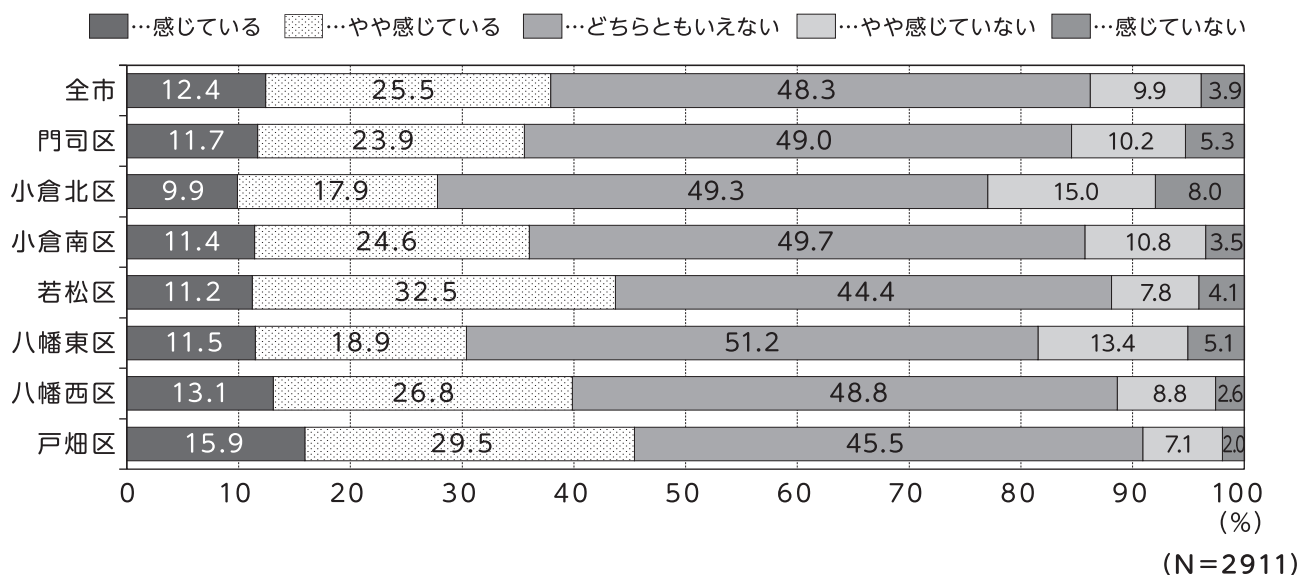
図表55 住民による話し合いのしくみ(連絡調整会議)をどのように充実していきたいか



(11) 福祉協力員の活動にやりがいを感じているか

全市では「どちらともいえない」が48.3%である。「感じている」、「やや感じている」を加えると約38%がやりがいを感じている。一方で「やや感じていない」、「感じていない」を加えると約14%の人がやりがいを感じていない。

図表56 福祉協力員の活動にやりがいを感じているか

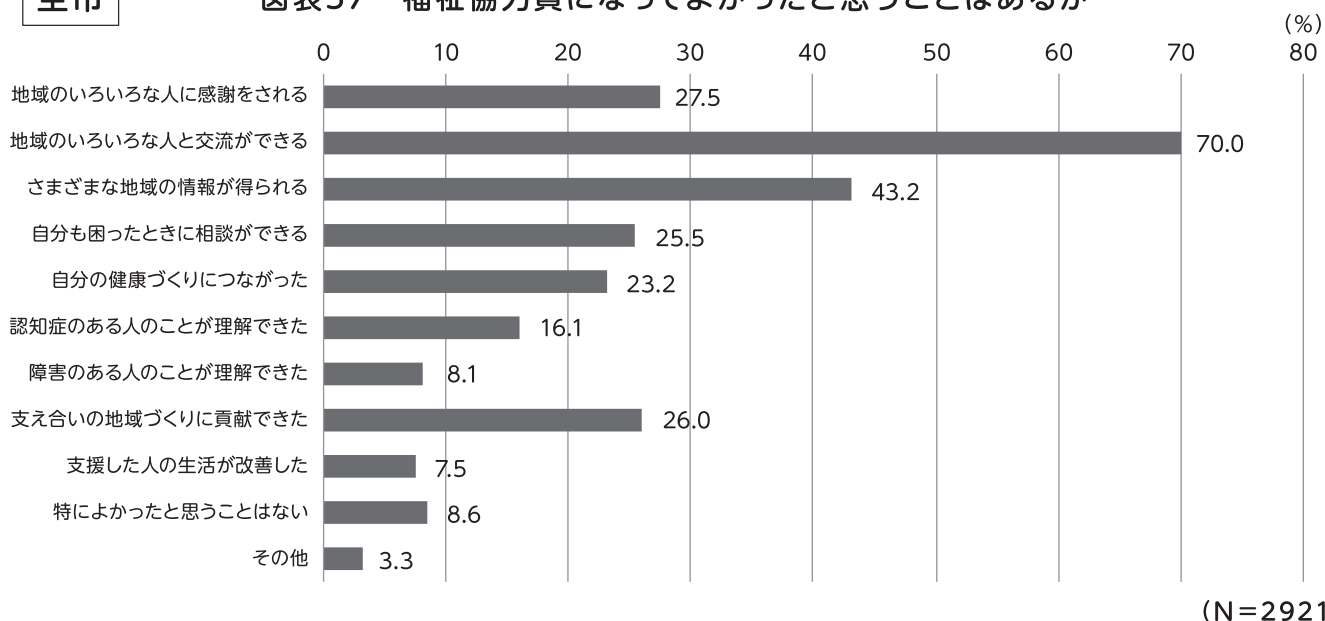


(12) 福祉協力員になってよかったと思うことはあるか（複数回答）

全市では、「地域のいろいろな人と交流ができる」が最も多く、次いで「さまざまな地域の情報が得られる」が多かった。

全市

図表57 福祉協力員になってよかったと思うことはあるか



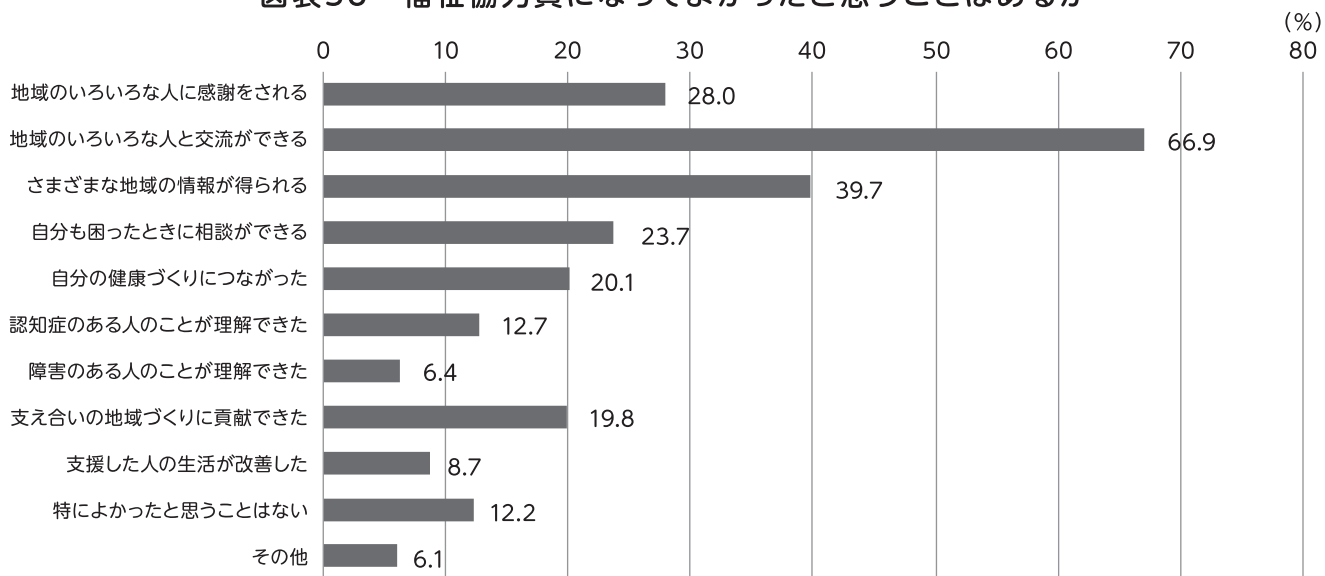
「その他」の回答（一部抜粋）

- ・世間を知って自身の老後を考えるきっかけ、他人への思いやり等々、様々な事を知って良かったと思う。
- ・他人事ではなく、自分事と思えるようになったこと。

各区の結果は次のとおりである。

① 門司区

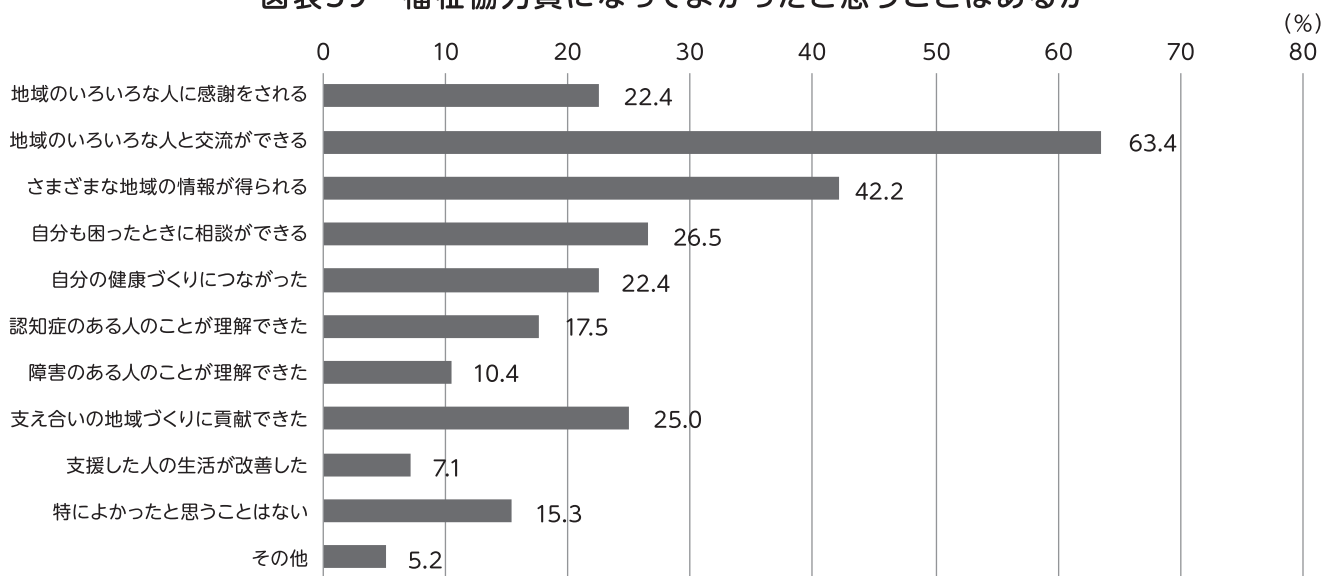
図表58 福祉協力員になってよかったと思うことはあるか



(N=393)

② 小倉北区

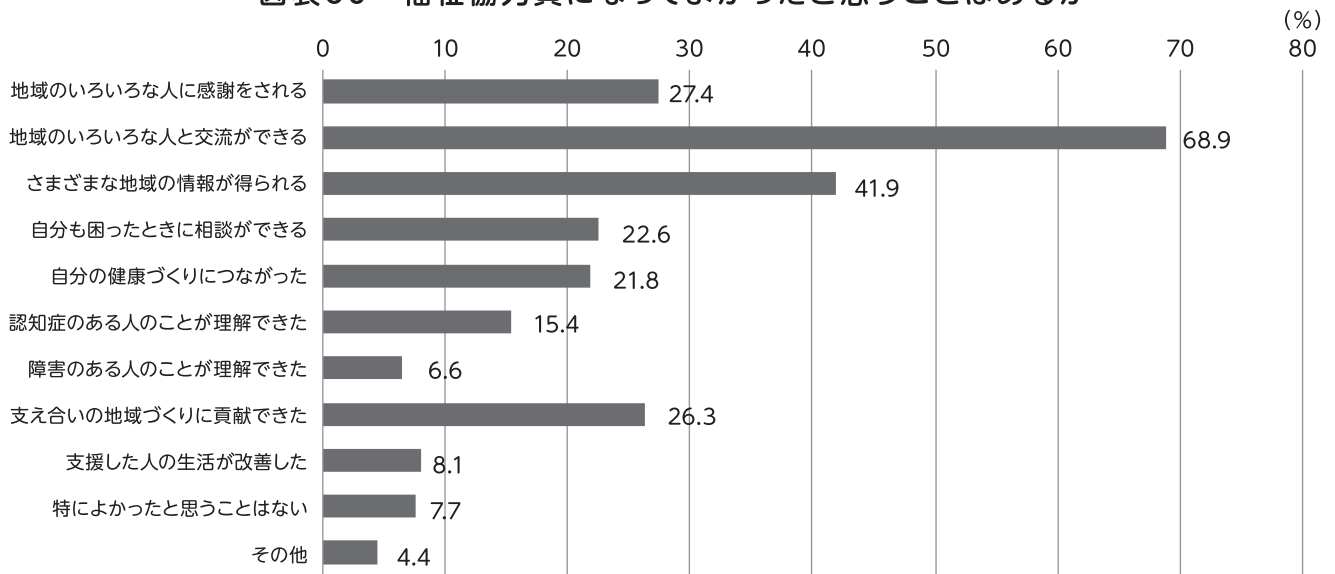
図表59 福祉協力員になってよかったと思うことはあるか



(N=268)

③ 小倉南区

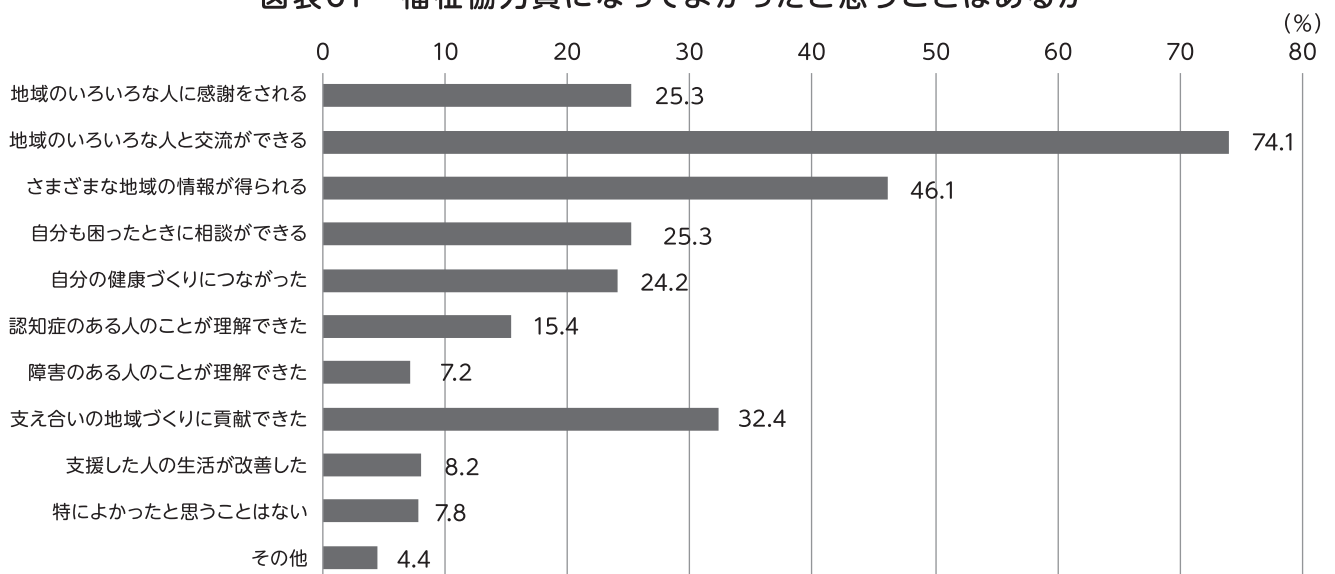
図表60 福祉協力員になってよかったと思うことはあるか



(N=518)

④ 若松区

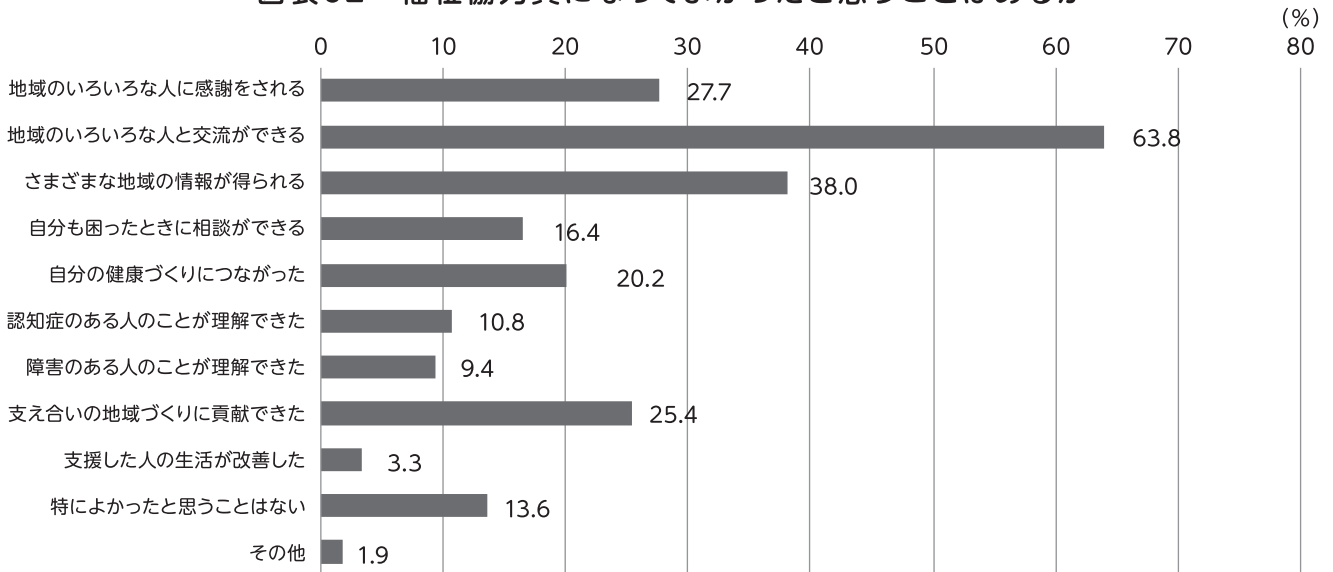
図表61 福祉協力員になってよかったと思うことはあるか



(N=293)

⑤ 八幡東区

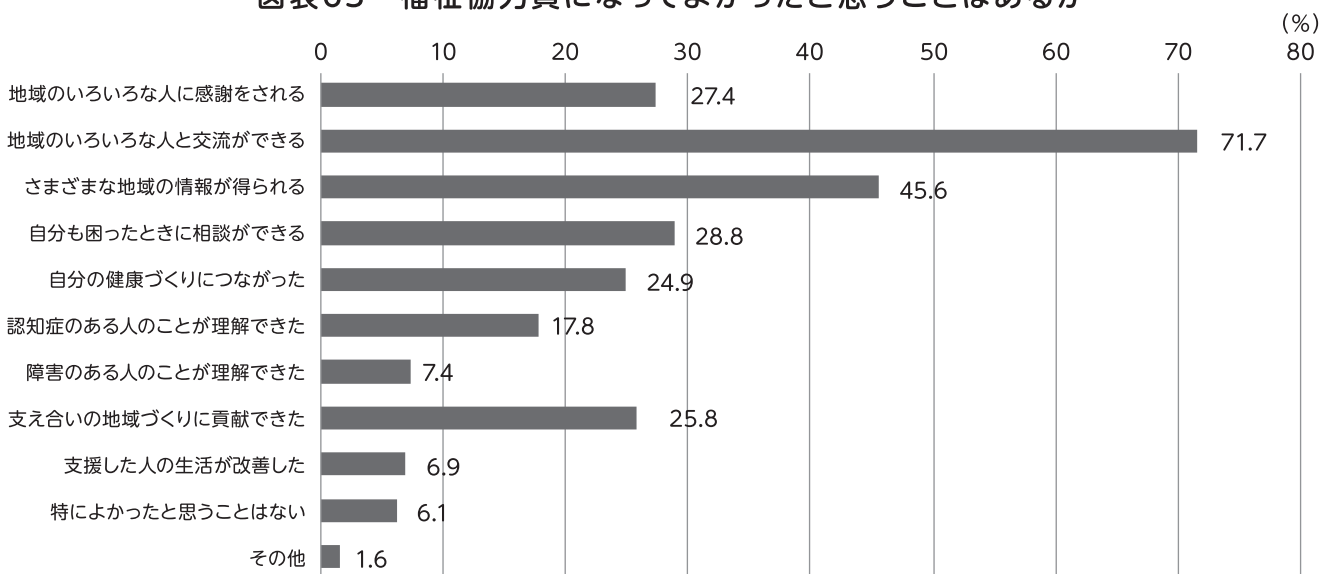
図表62 福祉協力員になってよかったと思うことはあるか



(N=213)

⑥ 八幡西区

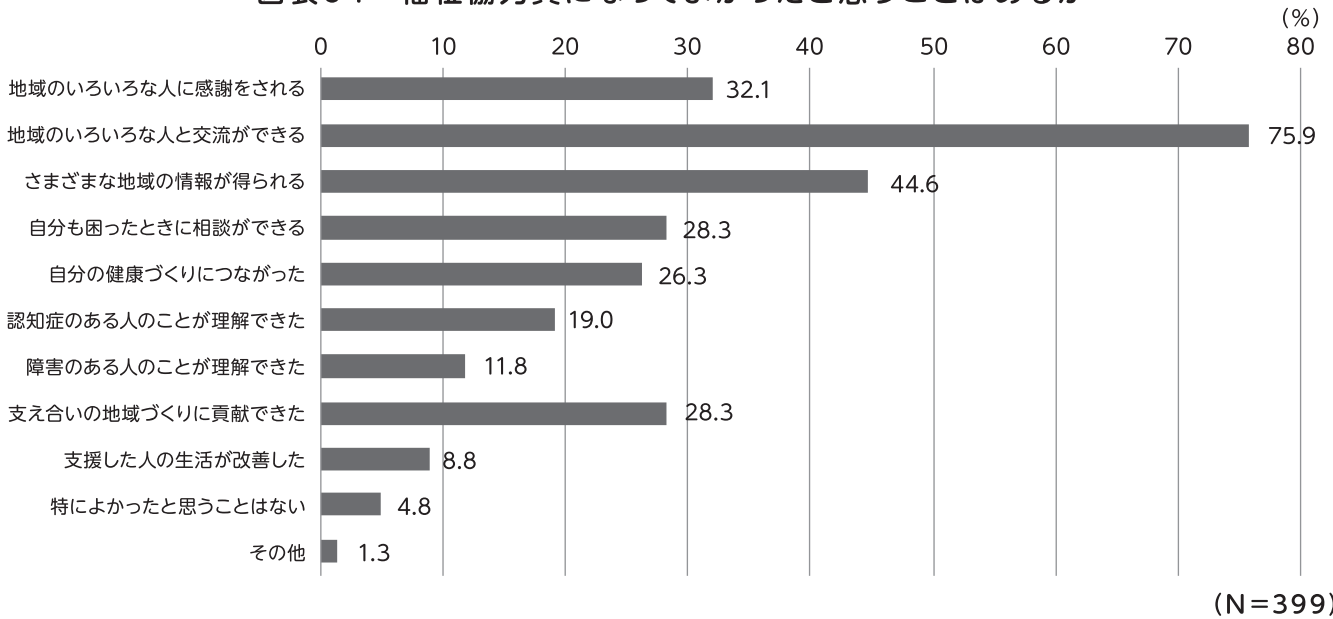
図表63 福祉協力員になってよかったと思うことはあるか



(N=837)

⑦ 戸畑区

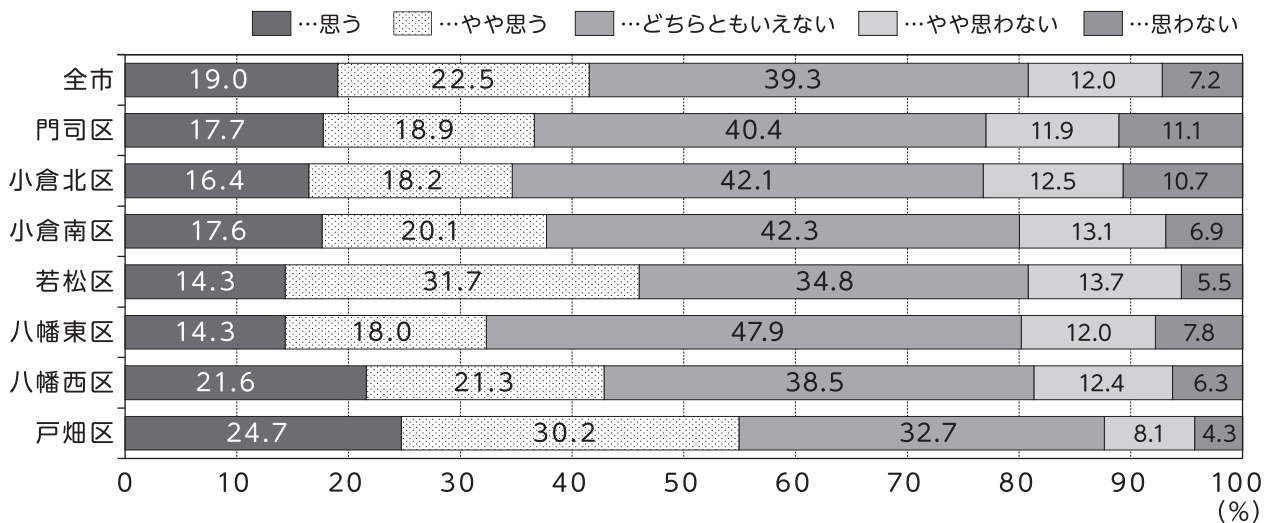
図表64 福祉協力員になってよかったと思うことはあるか



(13) これからも福祉協力員の活動を続けたいと思うか

全市では「どちらともいえない」が39.3%である。「思う」、「やや思う」を加えると約42%が今後も福祉協力員の活動を続けていきたいと考えている。一方で「やや思わない」、「思わない」を加えると約19%が活動を続けたいとは思っていない。

図表65 これからも福祉協力員の活動を続けたいと思うか

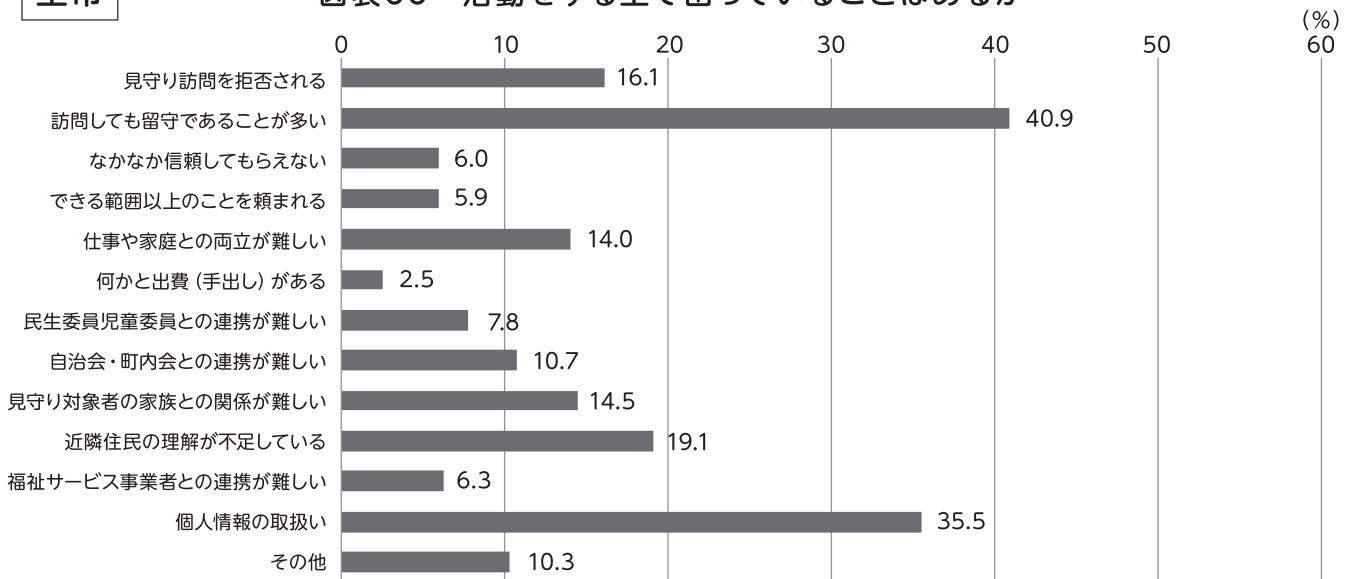


(14) 活動をする上で困っていることはあるか（複数回答）

全市では、「訪問しても留守であることが多い」が最も多く、次いで「個人情報の取扱い」が多かった。

全市

図表66 活動をする上で困っていることはあるか



(N=2400)

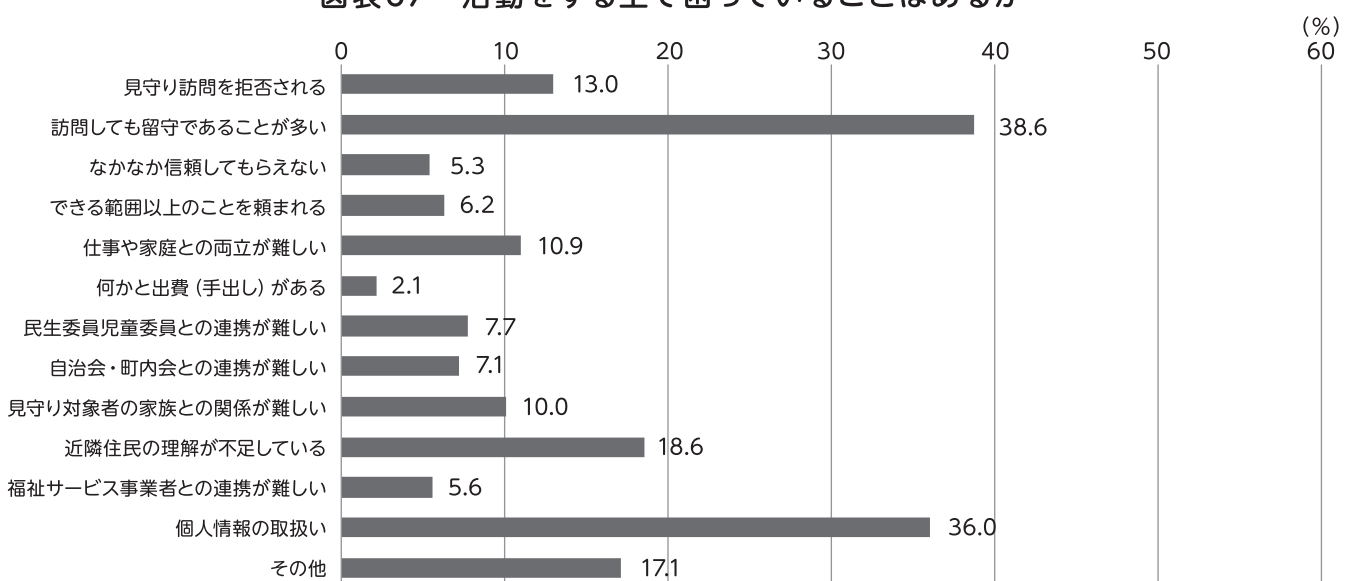
「その他」の回答（一部抜粋）

- ・近所住民のボランティアに頼りすぎている。
- ・福祉協力員の活動内容の引継ぎがなかった。

各区の結果は次のとおりである。

① 門司区

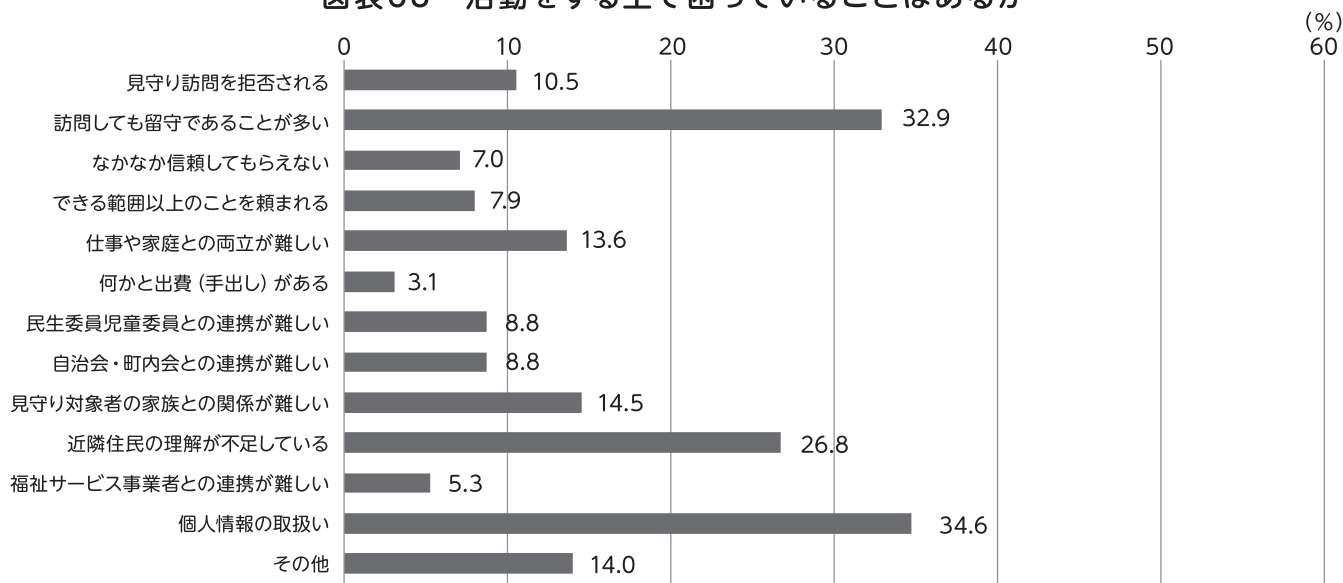
図表67 活動をする上で困っていることはあるか



(N=399)

② 小倉北区

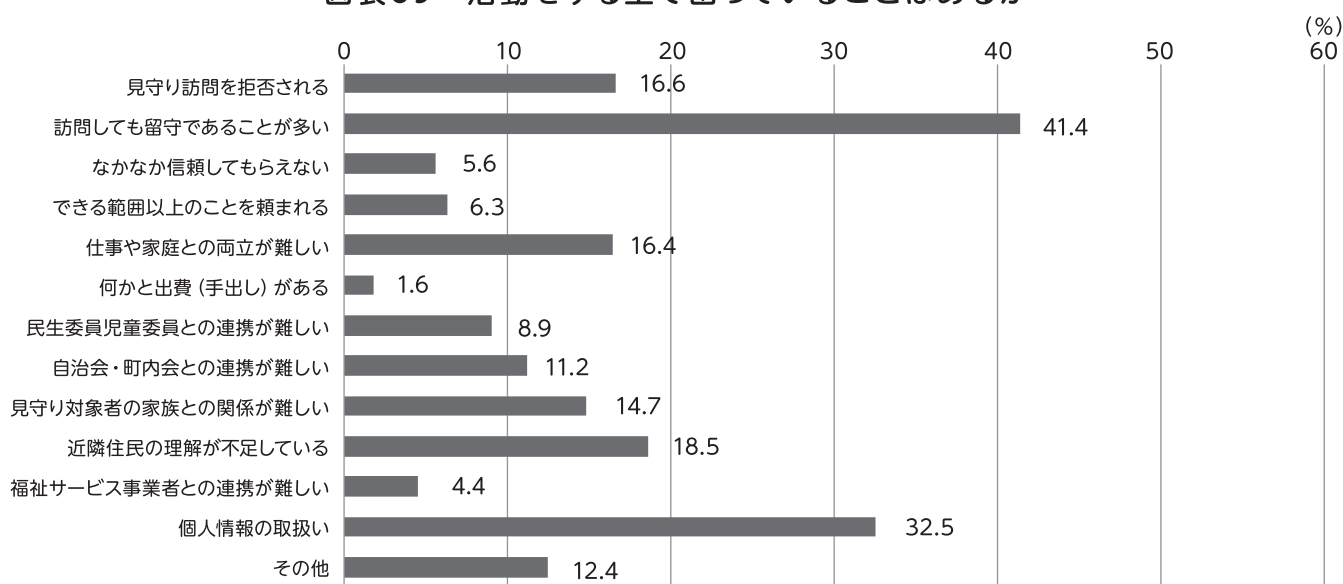
図表68 活動をする上で困っていることはあるか



(N=228)

③ 小倉南区

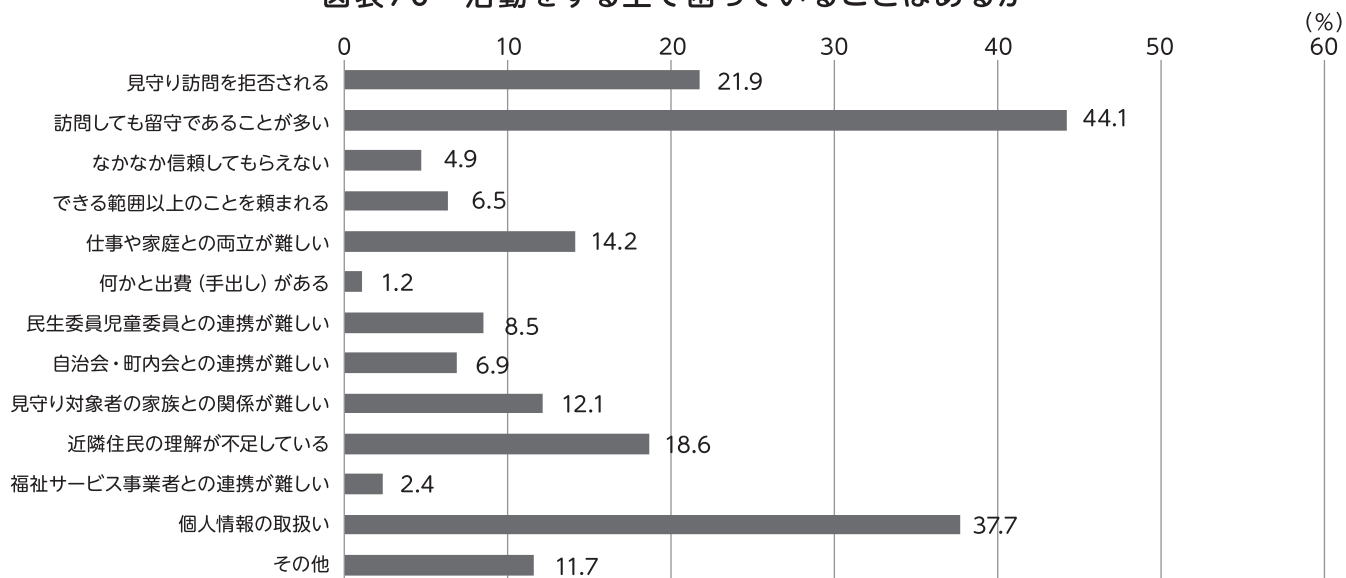
図表69 活動をする上で困っていることはあるか



(N=428)

④ 若松区

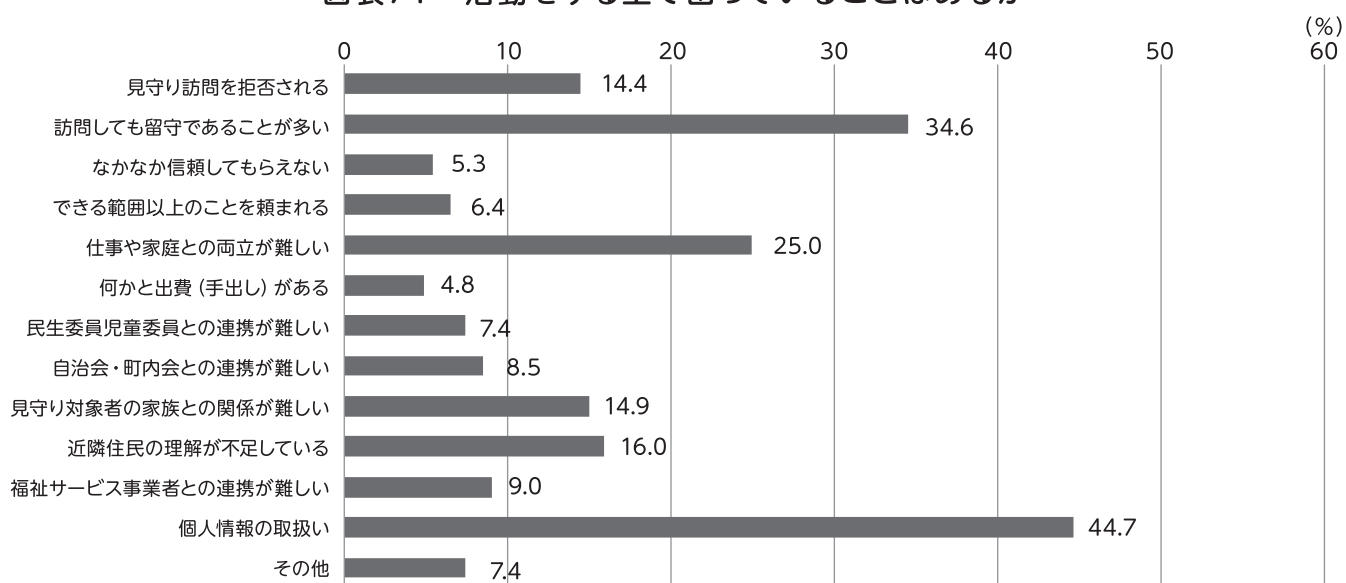
図表70 活動をする上で困っていることはあるか



(N=247)

⑤ 八幡東区

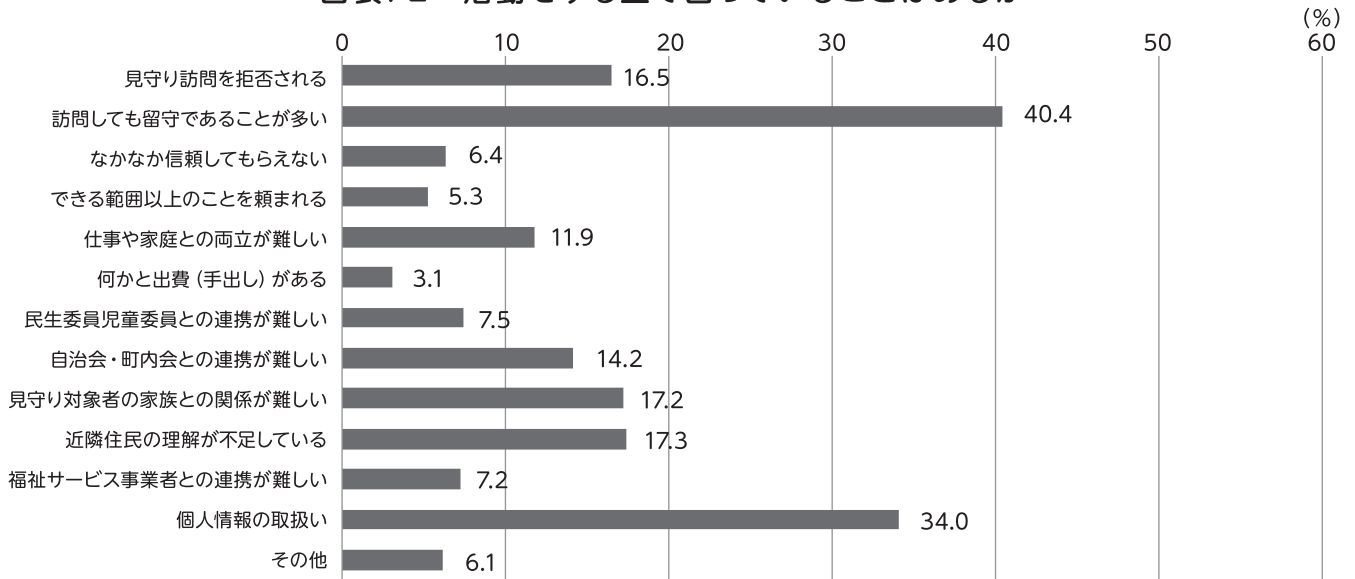
図表71 活動をする上で困っていることはあるか



(N=188)

⑥ 八幡西区

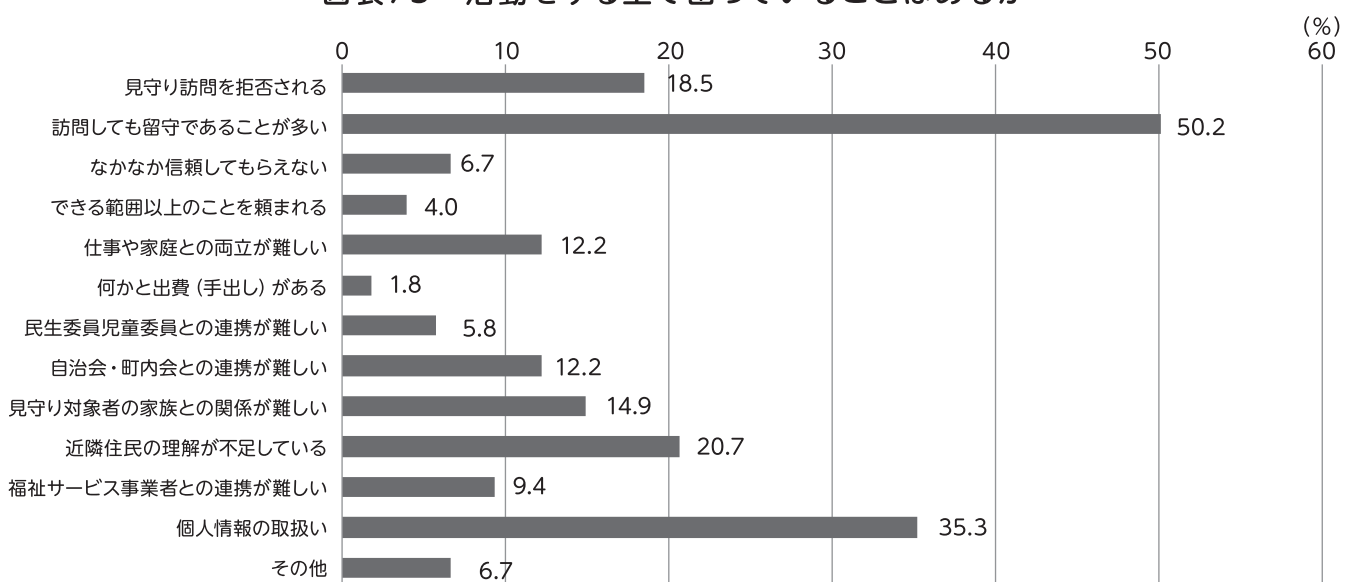
図表72 活動をする上で困っていることはあるか



(N=641)

⑦ 戸畑区

図表73 活動をする上で困っていることはあるか



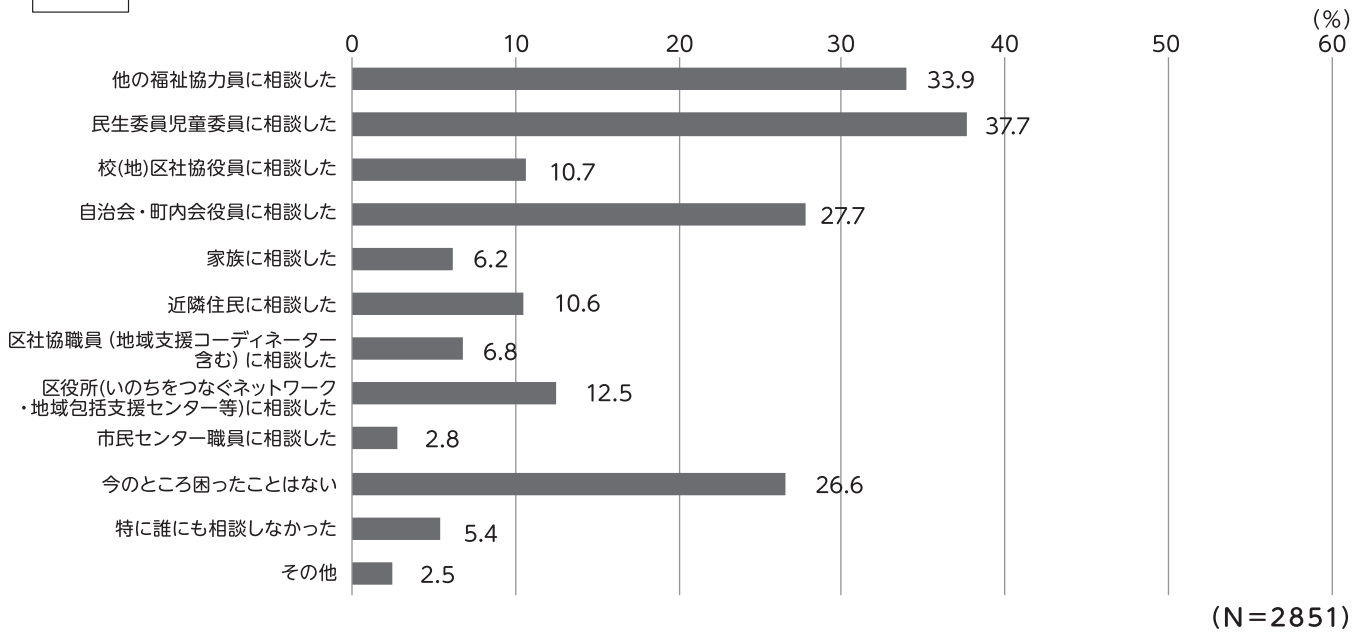
(N=329)

(15) 活動する上で困ったときはどのようにしたか (複数回答)

全市では、「民生委員児童委員に相談した」が最も多く、次いで「他の福祉協力員に相談した」が多かった。

全市

図表74 活動をする上で困ったときはどのようにしたか



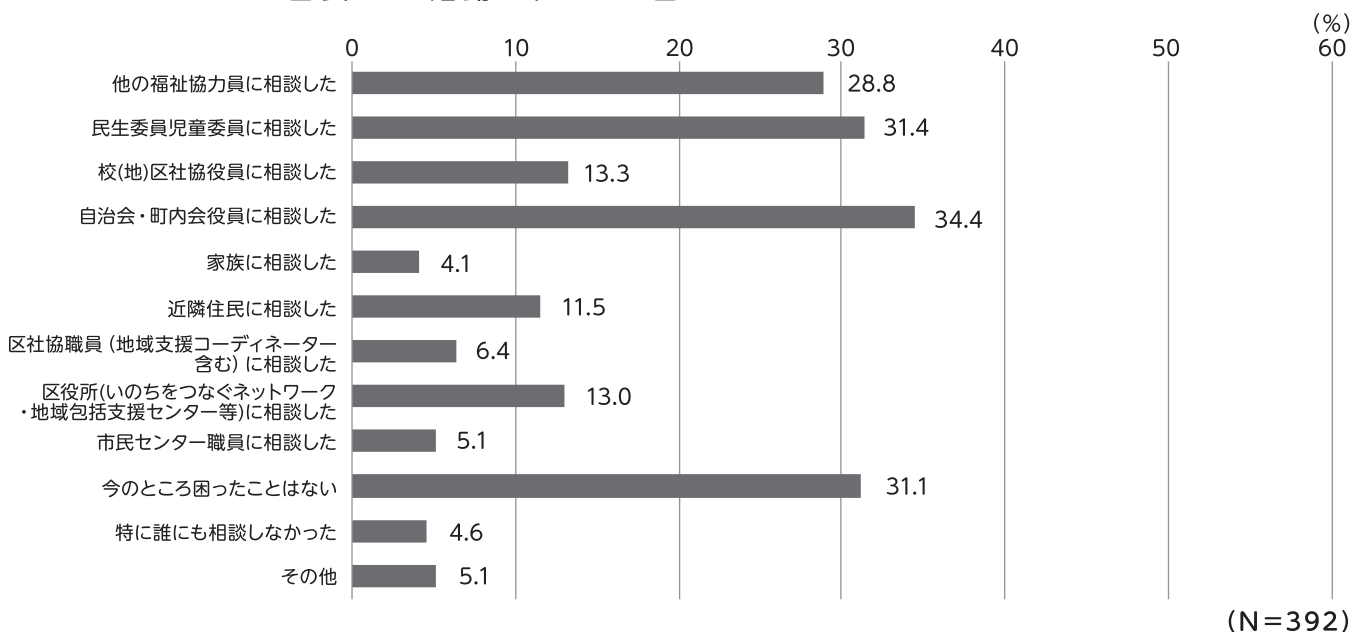
「その他」の回答(一部抜粋)

- ・ふれあい研修会で他町内、他地区の活動を聞いて参考にした。
- ・警察に相談した。

各区の結果は次のとおりである。

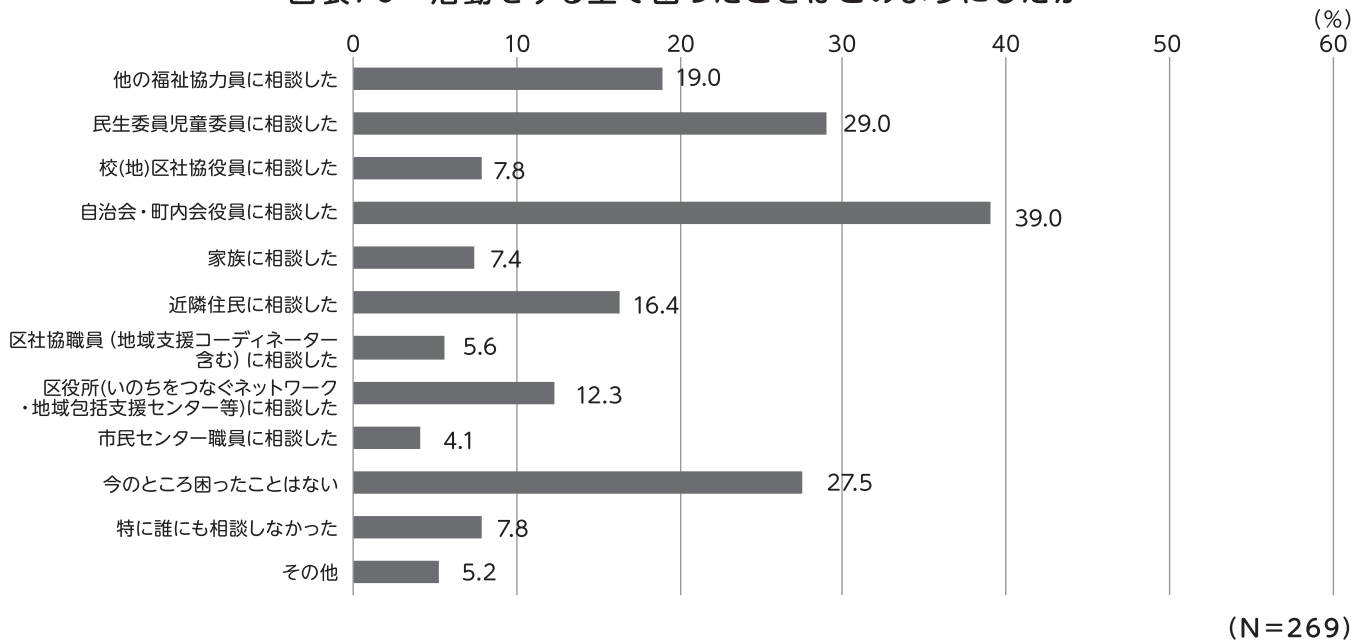
① 門司区

図表75 活動をする上で困ったときはどのようにしたか



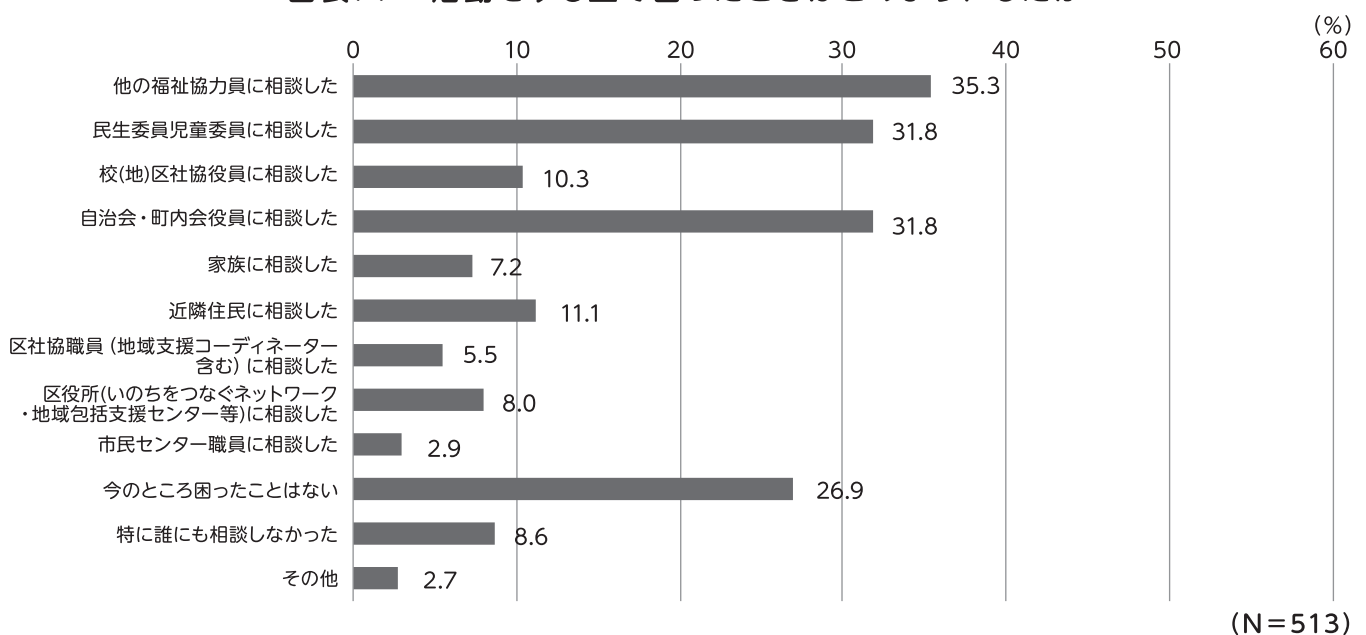
② 小倉北区

図表76 活動をする上で困ったときはどのようにしたか



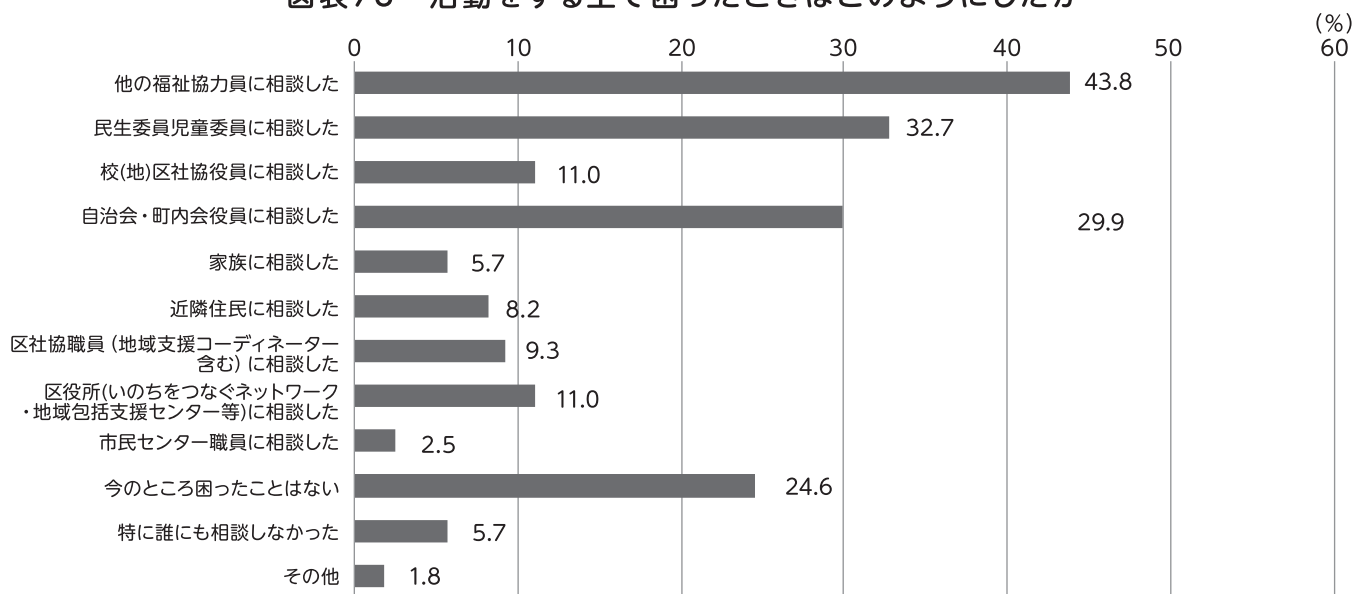
③ 小倉南区

図表77 活動をする上で困ったときはどのようにしたか



④ 若松区

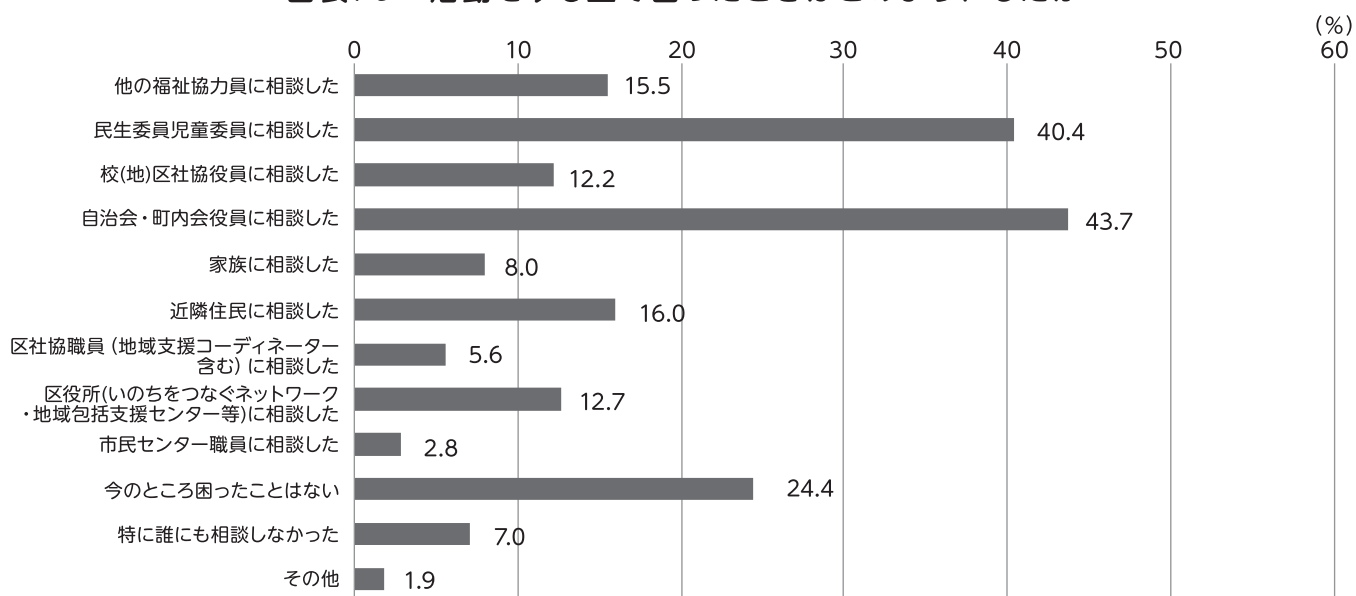
図表78 活動をする上で困ったときはどのようにしたか



(N=281)

⑤ 八幡東区

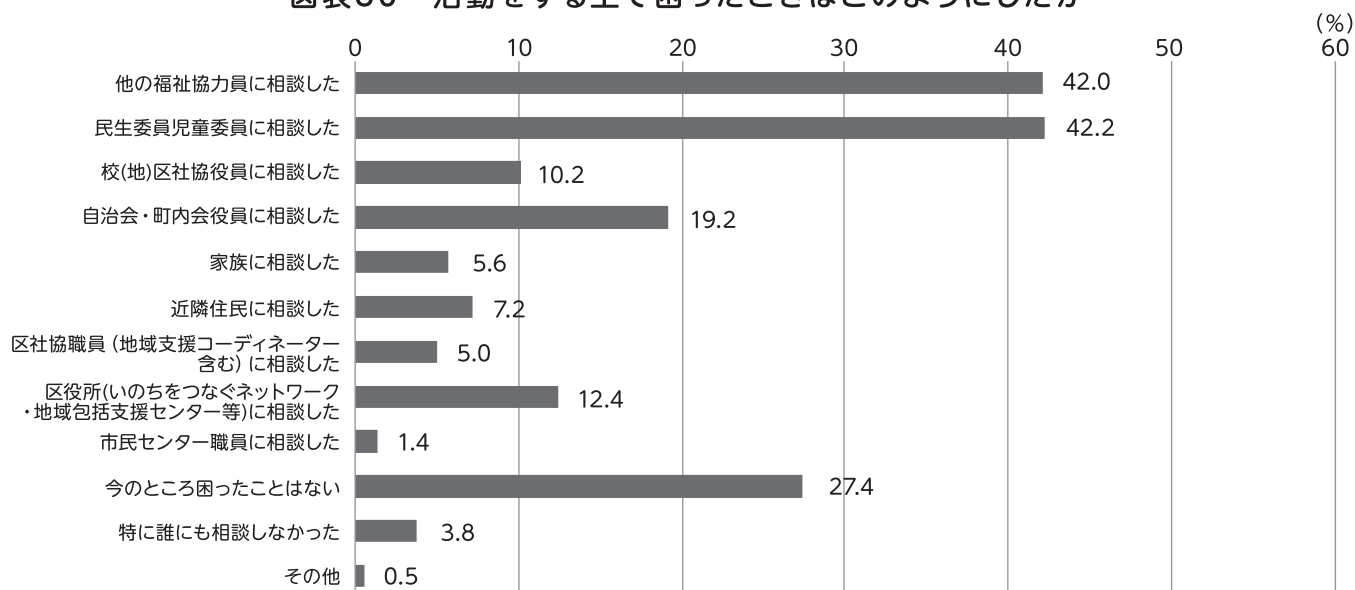
図表79 活動をする上で困ったときはどのようにしたか



(N=213)

⑥ 八幡西区

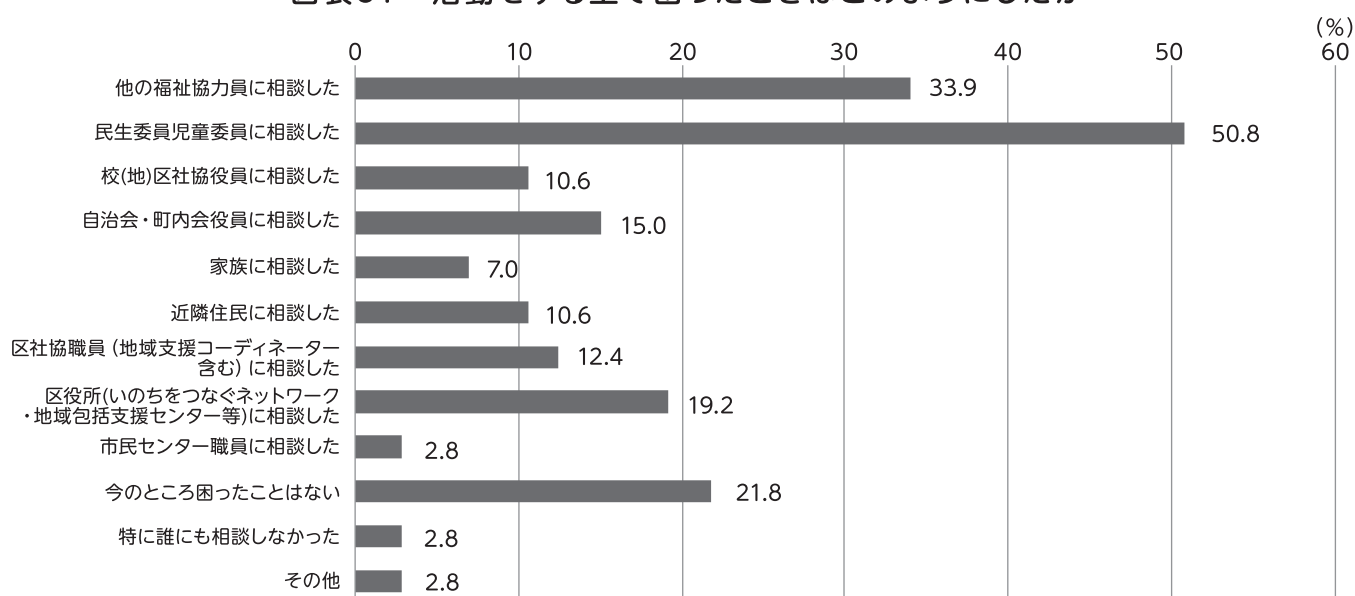
図表80 活動をする上で困ったときはどのようにしたか



(N=797)

⑦ 戸畑区

図表81 活動をする上で困ったときはどのようにしたか



(N=386)

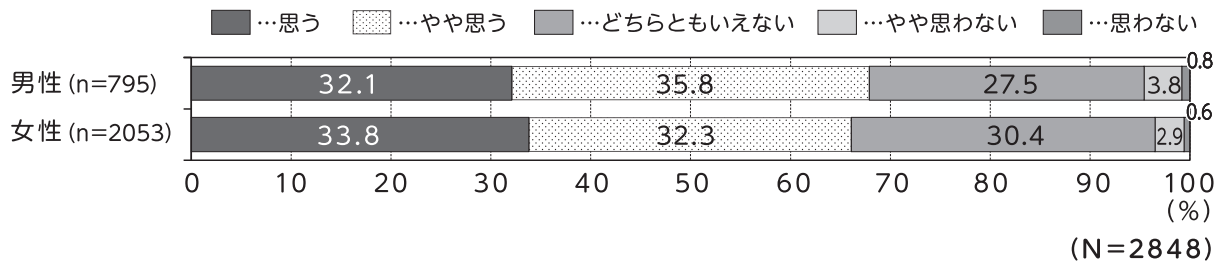
▶ 2 クロス集計結果

(1) 住民による助け合い活動を充実していきたいか

① 性別によるちがいは

「思う」、「やや思う」を加えると男女ともに約70%近くが助け合い活動を充実していきたいと考えていることになり、性別による差は概ねないと考えられる。

図表82 性別による「住民による助け合い活動を充実していきたいか」のちがいは

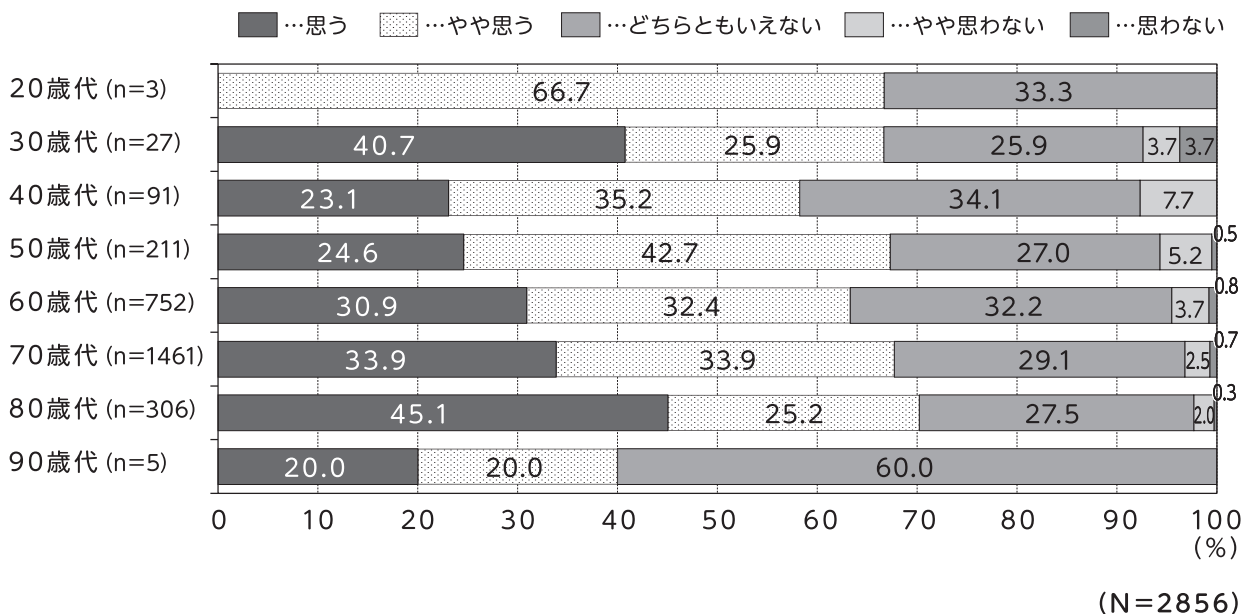


② 年齢別によるちがいは

「思う」、「やや思う」を加えると、20～30歳代・50歳代・70～80歳代で約70%、40歳代・60歳代で約60%、90歳代の約40%近くが助け合い活動を充実していきたいと考えていることになり、年齢による違いが表れている。

「思う」、「やや思う」を加えた数値が最も高かった年齢は80歳代で、70.3%であった。

図表83 年齢別による「住民による助け合い活動を充実していきたいか」のちがいは

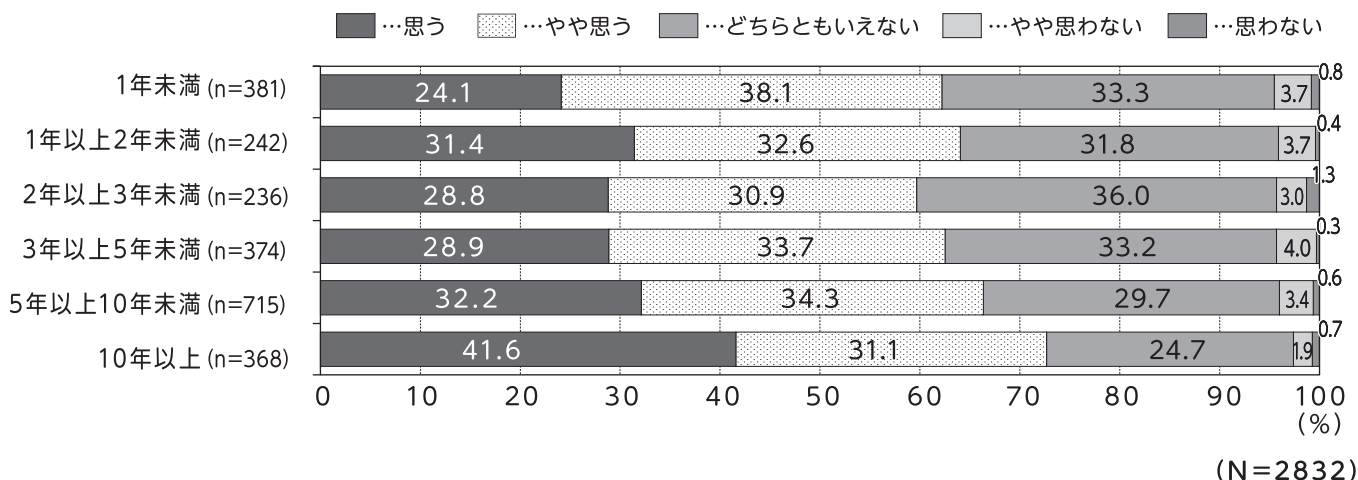


③活動年数によるちがい

「思う」、「やや思う」を加えると、どの活動年数でも約60%以上が助け合い活動を充実していきたいと考えている。

「思う」、「やや思う」を加えた数値が最も高かったのは「10年以上」で、72.7%であった。

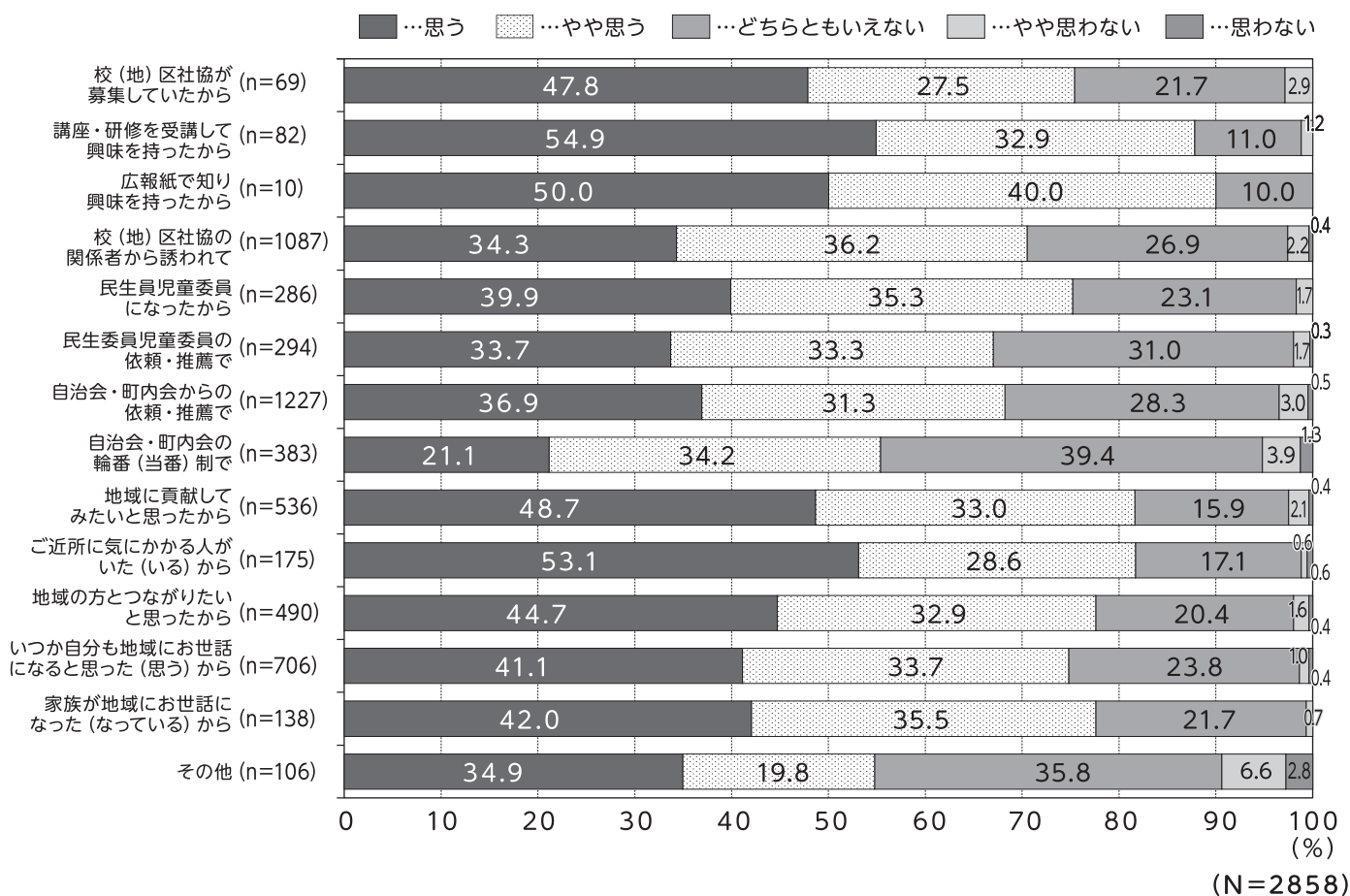
図表84 活動年数による「住民による助け合い活動を充実していきたいか」のちがい



④福祉協力員になった理由によるちがい

「思う」、「やや思う」を加えると、概ね70~80%が助け合い活動を充実していきたいと考えているという結果が出たが、「自治会・町内会の輪番(当番)制」や「その他」では約55%であった。

図表85 福祉協力員になった理由による「住民による助け合い活動を充実していきたいか」のちがい

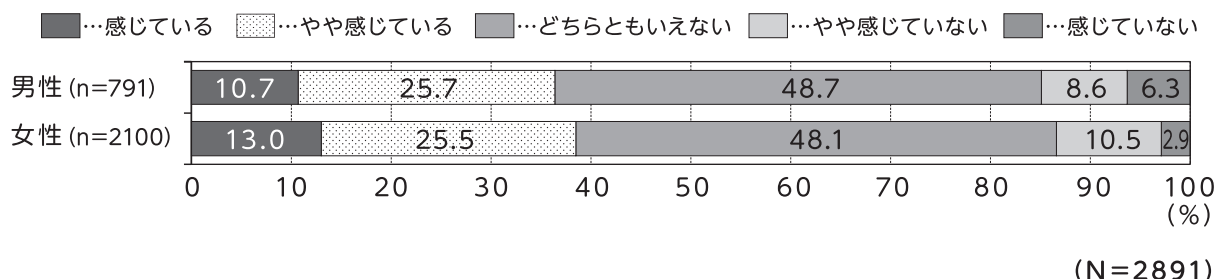


(2) 活動にやりがいを感じているか

① 性別によるちがい

「感じている」、「やや感じている」を加えると男女ともに約40%近くが活動にやりがいを感じていると考えていることになり、性別による差は概ねないと考えられる。

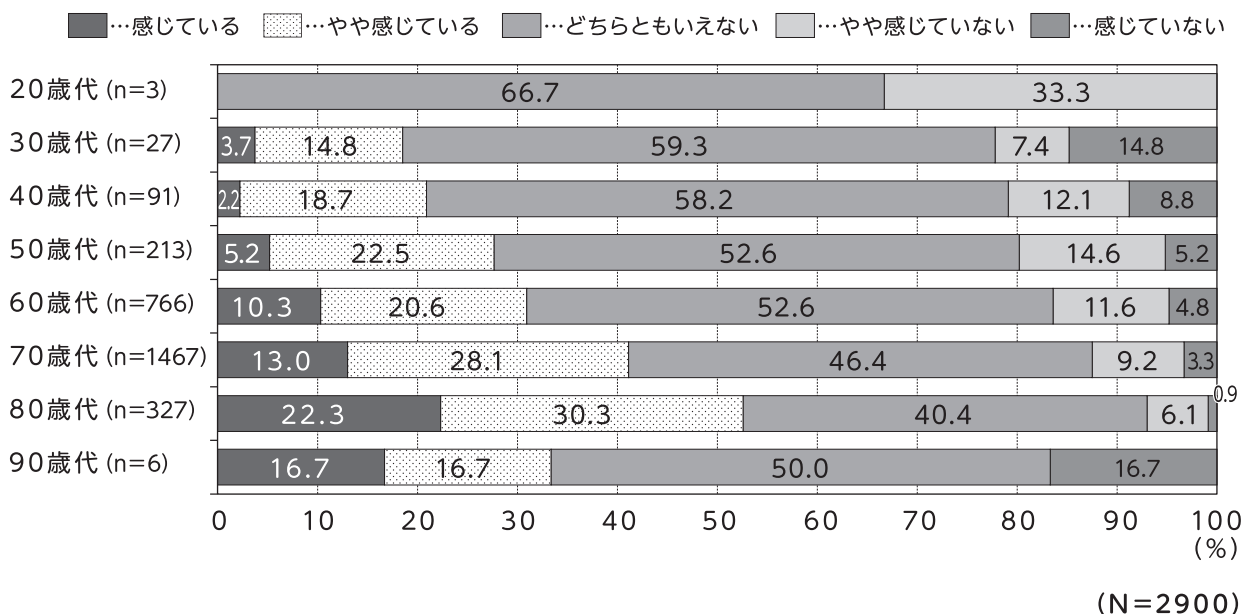
図表86 性別による「活動にやりがいを感じているか」のちがい



② 年齢別によるちがい

「感じている」、「やや感じている」を加えると、年齢が上がるにつれて活動にやりがいを感じている。80歳代の52.6%をピークに90歳代では33.4%に下がる。

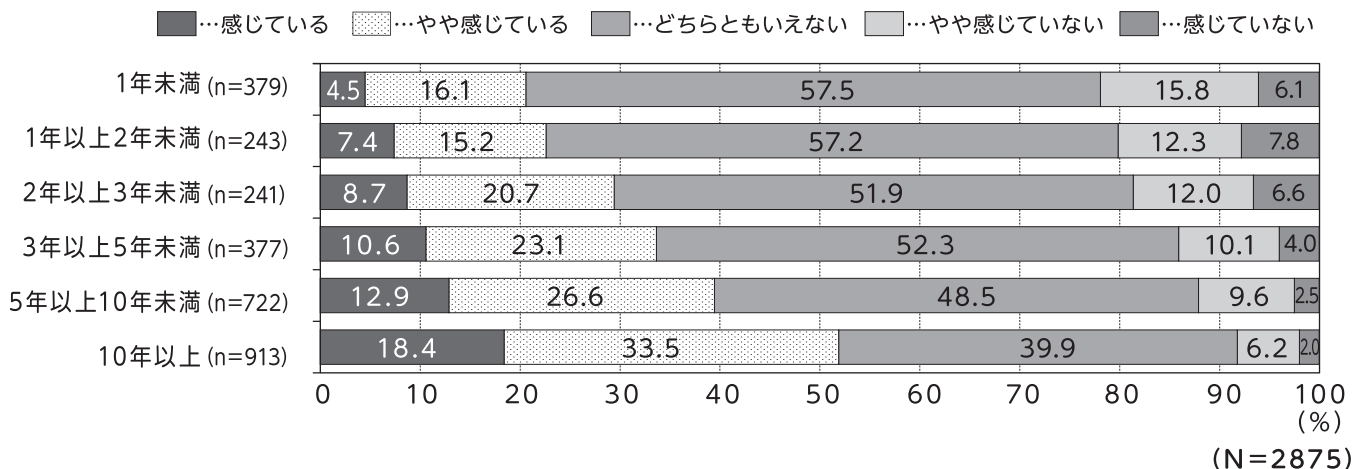
図表87 年齢別による「活動にやりがいを感じているか」のちがい



③活動年数によるちがい

「感じている」、「やや感じている」を加えると、活動年数が長くなるにつれて活動にやりがいを感じている。「1年未満」では20.6%だが、「10年以上」では51.9%がやりがいを感じている。

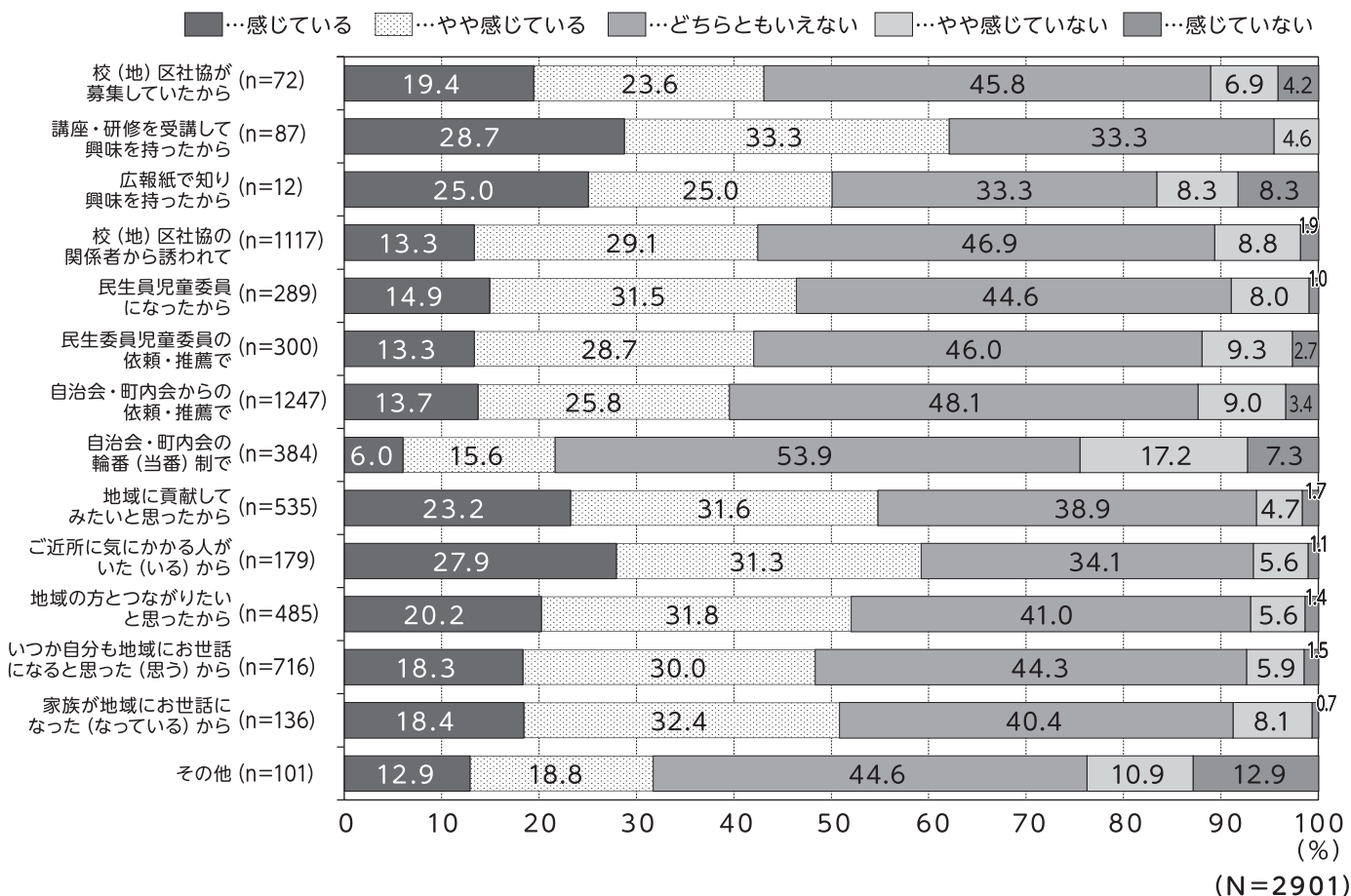
図表88 活動年数による「活動にやりがいを感じているか」のちがい



④福祉協力員になった理由によるちがい

「感じている」、「やや感じている」を加えると、「講座・研修を受講して興味を持ったから」や「ご近所に気にかかる人がいた(いる)から」など自発的な理由で福祉協力員になった人の方がやりがいを感じている。

図表89 福祉協力員になった理由による「活動にやりがいを感じているか」のちがい

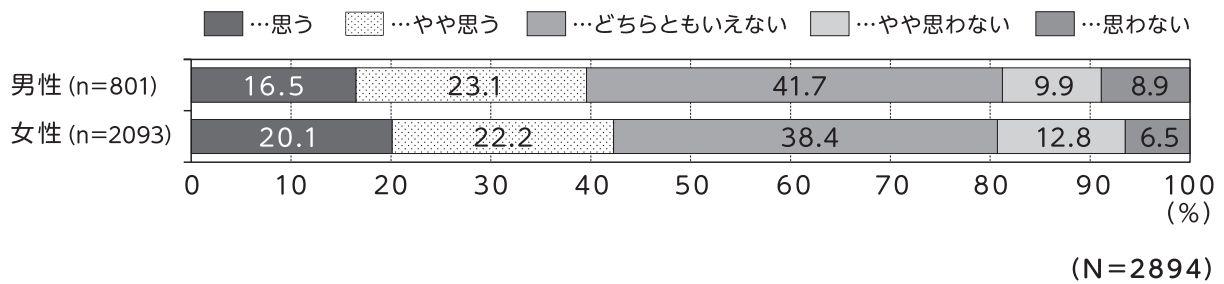


(3) 福祉協力員の活動を続けたいと思うか

① 性別によるちがい

「思う」、「やや思う」を加えると男女ともに約40%近くが活動を続けたいと思っていることになり、性別による差は概ねないと考えられる。

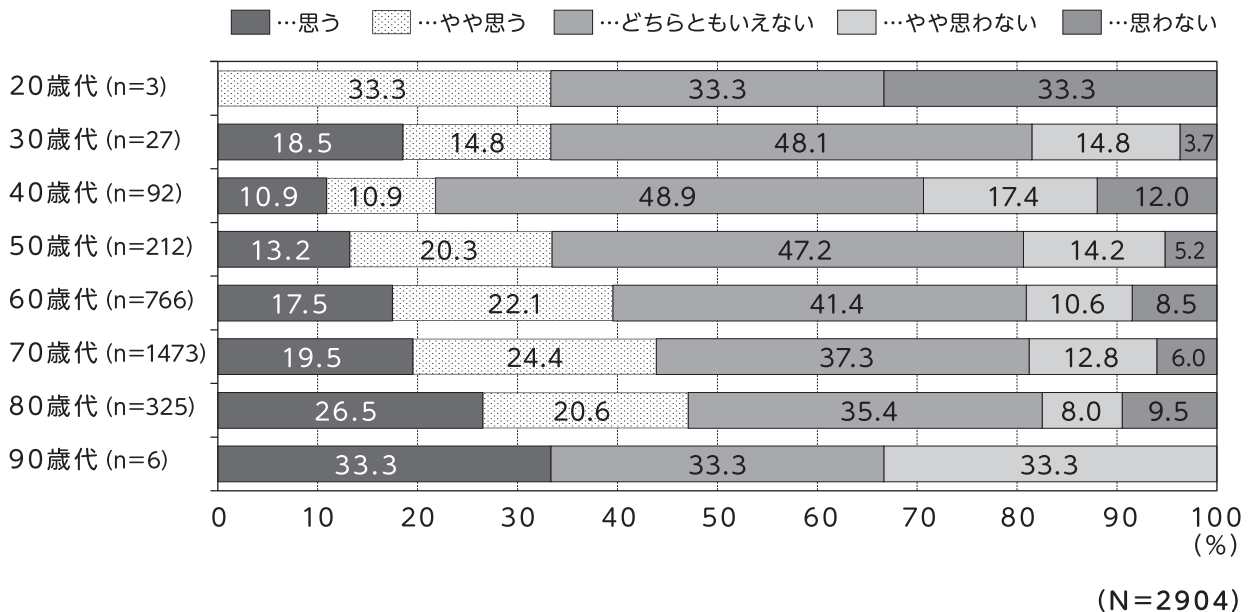
図表90 性別による「福祉協力員の活動を続けたいと思うか」のちがい



② 年齢別によるちがい

「思う」、「やや思う」を加えると、60～80歳代の約40～50%が活動を続けたいと思っている。

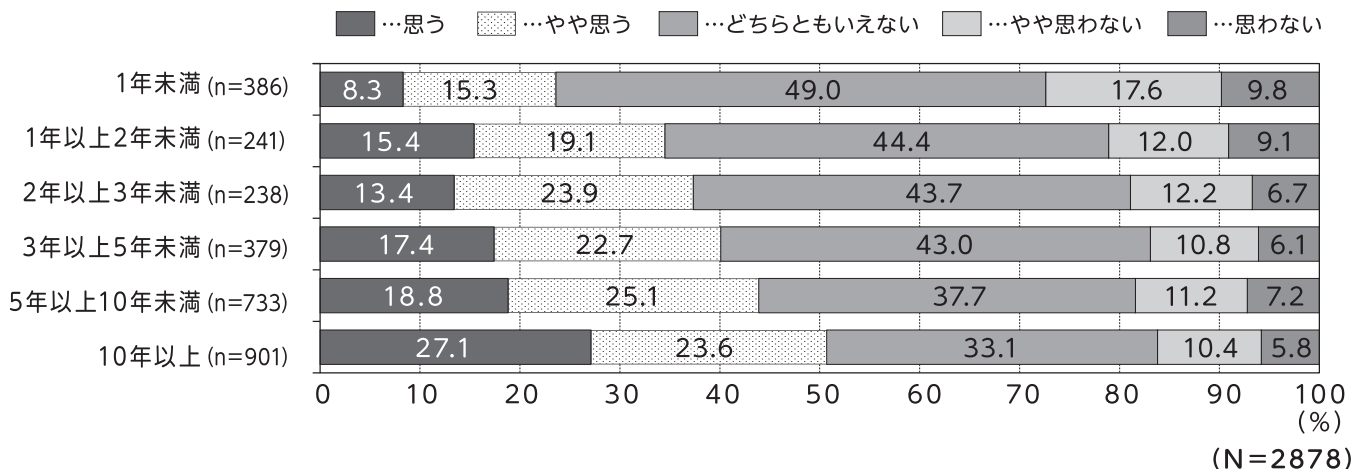
図表91 年齢別による「福祉協力員の活動を続けたいと思うか」のちがい



③活動年数によるちがい

「思う」、「やや思う」を加えると、活動年数が長くなるにつれて活動を続けたいと思っている。
 活動1年未満で活動を続けたいと思っている人は23.6%に対し、10年以上の方では50.7%の方が活動を続けたいと思っている。

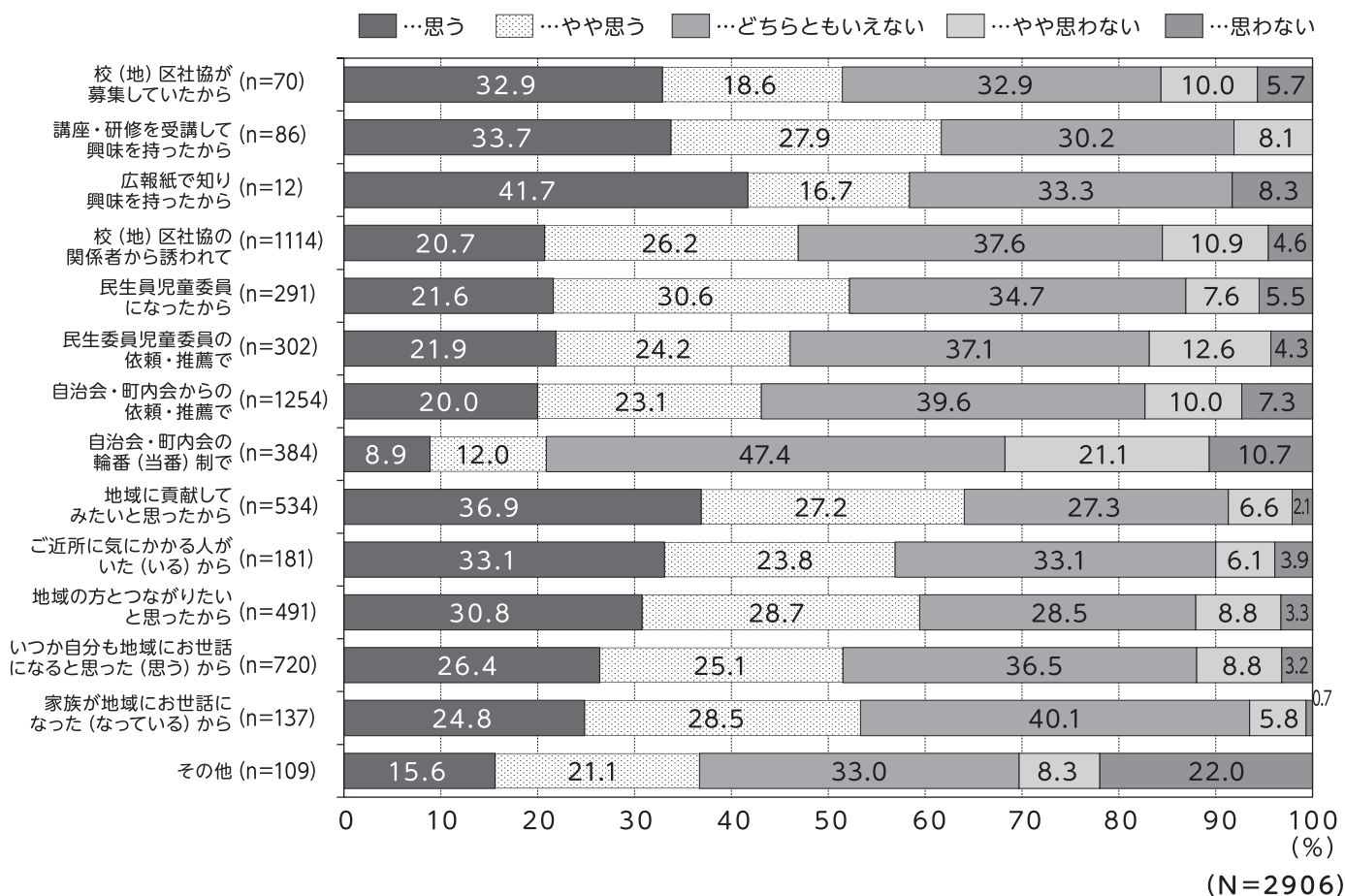
図表92 活動年数による「福祉協力員の活動を続けたいと思うか」のちがい



④福祉協力員になった理由によるちがい

「思う」、「やや思う」を加えると、「講座・研修を受講して興味を持ったから」や「地域に貢献してみたいと思ったから」など自発的な理由で福祉協力員になった人については、約50~60%が活動を続けたい思っている。

図表93 福祉協力員になった理由による「福祉協力員の活動を続けたいと思うか」のちがい



IV 調査のまとめ

福祉協力員意識調査結果からみえてきたこと ～「みんなが安心して暮らせる支え合いのまちづくり」のために～

福岡県立大学人間社会学部社会福祉学科
教授 村山浩一郎氏
(北九州市社会福祉協議会地域福祉アドバイザー)

1 福祉協力員のプロフィールと活動全般に対する意識

- 福祉協力員は、全体としては**女性**が多く(72.8%)、**70歳代**が中心となっている(図表3、4)。また、5年以上の活動歴をもつ人が半数を超え、**長く関わっている方が多い**(図表5)。
- 「福祉協力員になった理由」(複数回答)としては、全市では「自治会・町内会からの依頼・推薦」(43.0%)が最も多く、次に「校(地)区社協の関係者から誘われて」(38.2%)が多い(図表6)。各区別にみると、若松区、八幡西区、戸畑区では「校(地)区社協の関係者から誘われて」が最も多くなるなど地域差がある(図表7～13)が、いずれにしても、**地域のつながりの中で声をかけられたことがきっかけ**になっていることが多い。特に、「自治会・町内会の輪番制で」という回答は、福祉協力員の活動が自治会・町内会活動と連動して行われていることをうかがわせるものである。八幡東区で最も多くなっているが、回答が極めて少なかった戸畑区、八幡西区以外どの区にもある程度の割合が存在している。
- 他方、自分の中からの動機としては、「いつか自分も地域にお世話になると思ったから」(24.9%)「地域に貢献してみたいと思ったから」(18.6%)、「地域の方とつながりたいと思ったから」(17.1%)といった回答が目立っている。**福祉協力員が地域とつながる入口として意識されていることや、地域やご近所のためだけでなく、自分のためでもある、ということが意識されていることがわかる。**
- 「活動にやりがいを感じているか」という質問に対しては、「どちらともいえない」が最も多く48.3%である(図表56)。また、「これからも活動を継続するかどうか」についても、「どちらともいえない」が39.3%で最も多い回答になっている(図表65)。そして、「やりがい」と「活動の継続意向」についてクロス集計を見ると、**年齢が高いほど、また、活動年数が長いほど、活動にやりがいを感じており、活動を継続したいと思っていることがわかる**(図表87、88、91、92)。
- 年齢が高い人、活動年数が長い人ほどやりがいを感じ、活動を継続したいと思っている、という事実は今回の調査の大きな発見と言える。福祉協力員の高齢化や固定化は「問題」として捉えられがちであるが、年齢が高い方や活動歴の長い方がやりがいを感じ、活動を継続したいと思っているのであれば、むしろ、**活動を継続できるようサポートする視点で考えていくことが重要**になるのではないかと。

- 「やりがい」や「活動の継続意向」について、もうひとつ別のクロス集計にも注目したい（図表89）。福祉協力員になった理由として「講座・研修を受講して興味をもったから」「広報紙で知り興味をもったから」「地域に貢献したいと思ったから」「ご近所に気になる人がいたから」といった、**主体的な理由を回答している人の方が**、「自治会・町内会の推薦・依頼」、「校(地)区社協の関係者から誘われて」、「自治会・町内会の輪番制で」など**受動的な理由を回答した人より、やりがいを感じている割合が高く、活動の継続意向も強い**ことがわかる。
- 「やりがい」や「活動の継続意向」について、「どちらともいえない」が約4割で最も多いことを先に述べた。また、「自治会・町内会の推薦・依頼」など、受動的な理由で福祉協力員になった回答者は、やりがいを感じている割合が低く、活動継続意向も高くない。しかし、福祉協力員の活動にはやりがいがないといけないのか、という**と必ずしもそうとは言えない**のではないかと。やりがいや自発性が必要というより、**日常生活の中で自然に行うもの、あるいは町内会・自治会における役割のように地域住民としての当たり前前の行動として担うもの、という考え方もありうる**。もちろん、自発的に参加し、やりがいをもって取り組む福祉協力員もすばらしい。要は、福祉協力員のあり方は地域によって、あるいは個人によって多様でありうるということ。**福祉協力員像を固定的に考えるのではなく、多様なかかわり方を許容していくこと、それぞれのタイプの特徴を整理して、最適な組み合わせを地域ごとに見つけていくことが大事ではないか**。ただし、自治会・町内会の加入率が長期的に低下傾向にあることを考えると、多様な参加ルートを開発していくことは中長期的には重要な課題といえる。
- 「福祉協力員になってよかったこと」（図表57～64）としては、「地域の人たちと交流できる」、「様々な情報が得られる」といった回答が多い。「自分も困ったときに相談ができる」や「自分の健康づくりにつながった」なども少なくないことから、**福祉協力員になることは、自分にとってメリットがある**と感じていることがわかる。福祉協力員の活動が地域の役に立っていることは間違いがないが、**自分にとっての意味も大きいことはもっと強調されてよい**のではないかと。

2 活動状況と活動上の課題についての意識

- 「現在見守っている世帯」について、ほとんどの回答者が「一人暮らし高齢者」（92.7％）を、半数の回答者が「高齢者世帯」（51.7％）を挙げている一方、「障害のある人がいる世帯」（12.4％）「子育て中の世帯」（8.4％）「外国人がいる世帯」（1.2％）は少数にとどまっている（図表14）。しかし、「現在見守っている世帯以外で見守りが必要な世帯」を尋ねる質問では、「障害のある人がいる世帯」を挙げる回答者が大幅（37.5％）に増加し、「子育て中の世帯」（18.8％）「外国人がいる世帯」（7.5％）も増えている（図表15）。**「一人暮らし高齢者」以外にも見守りが必要な世帯があると思っている福祉協力員も少なくない**。また、同じ質問で、「一人暮らしの高齢者」を引き続き選択した回答者が58.0％いることを考えると、「一人暮らし高齢者」や「高齢者夫婦世帯」についても、新たに見守りが必要な世帯が地域に潜在しているようである。

- しかし他方では、「福祉協力員としてあなたが行おうと思っている（行っている）こと」として、68.1%が「地域で決められた見守りの対象者を見守ること」と回答し、『見守りが必要な人』を自分で新たに見つけることを選択した回答者は22.0%にとどまっている（図表30）。**見守りが必要な人を自分で新たに見つけることを福祉協力員の通常の活動として位置づけ、福祉協力員が新たに見つけた対象者を「地域で決められた対象者」の範囲に加えていくことが必要だと思われる。**
- 回答者の約67%が「近隣住民による助け合い活動を充実していきたい」と考えており（図表38）、「福祉協力員としてあなたが行おうと思っている（行っている）こと」として、「自分のできる範囲の助け合い活動を行うこと」が最も多い（69.5%）ことから（図表30）、**助け合い活動に積極的な福祉協力員の姿勢がうかがえる。**
- 上記の通り、「福祉協力員としてあなたが行おうと思っている（行っている）こと」として、「自分のできる範囲の助け合い活動を行うこと」（69.5%）が最も多いが、他方、「地域包括支援センター等の専門機関と連携して対象者に関わっていくこと」（16.9%）、「見守り対象者の生活上の困りごとを見つけ、その解決方法を考えること」（20.2%）、「連絡調整会議等で対象者について報告し、関わり方や支援の方法をみんなで考えること」（31.4%）を選択した回答者は多くない。
- 「自分の地域に必要なと思う近隣住民の助け合い活動」としては、「話し相手」（79.5%）、「生活情報の提供」（49.0%）といった会話や情報提供が中心となるものが多いが、「ゴミ出し」、「古紙回収」、「買い物支援」、「庭掃除・庭木剪定」といった具体的な手助けが必要だと考えている福祉協力員も少なくない（図表39）。ただ、**買い物以外の外出支援や家の中での作業（「洗濯」など）については回答が少なく、「自分のできる範囲」あるいは「ボランティアとしての役割」を超えるものと考えている可能性がある。**
- つまり、「自分のできる範囲」の助け合い活動には積極的であるが、他の福祉協力員や専門機関と連携して多様な生活課題に対応していくことは難しい、というのが現状であろう。福祉協力員が多様な困りごとに目を向け、しかし一人で抱え込むことなく「自分のできる範囲」を無理なく広げていくことができるよう、**バックアップの体制を強化していく必要がある。**また、多様な困りごとに対応するため、ふれあいネットワーク活動の**助け合い活動以外の方法も検討していく必要がある。**
- 住民による話し合いのしぐみ（連絡調整会議）の満足度については、「やや不満」（10.5%）や「不満」（3.2%）が多いわけではないが、50.2%が「どちらともいえない」と回答しており、必ずしも話し合いのしぐみの満足度は高くない（図表47）。
- 話し合いのしぐみを「どのように充実していきたいか」という質問に対しては、「地域の困りごとを話し合う場にしてほしい」（47.6%）、「定期的に開催してほしい」（44.1%）という回答が多く（図表48）、**福祉協力員が話し合いのしぐみの充実を求めていることがわかる。**連絡調整会議は、地域の関係者が集まる貴重な時間であり、様々な情報伝達や地域行事等の打ち合わせなどに活用したい気持ちはわかるが、**地域の困りごとをしっかりと話し合い、活動の意義や方向性をみん**

なで確認し合っていくことが必要である。

- 「活動をする上で困っていること」としては、「訪問しても留守であることが多い」（40.9%）と「個人情報の取り扱い」（35.5%）が目立っている（図表66）。前者は見守り・訪問活動の永遠の課題とも言えるが、チラシをポストに入れて帰る、など各地域で様々な工夫が行われており、そうした**ノウハウを共有していくことが大事である**。
- 「個人情報の取り扱い」の問題の具体的な内容としては、たとえば、「専門機関や民生委員に見守り対象者の状況を伝えても、その後の経過を教えてもらえない」、「活動を通じて自分が知ったことを抱えていくのがつらい」、「誰とどの程度共有すればよいのかわからない」といったことが考えられる。専門機関や公的機関の側からすると、法律上、守秘義務が課されている民生委員までは情報共有しやすいが、福祉協力員を含む一般の地域住民との個人情報の共有はハードルが高い。しかし、より広いネットワークを構築しながら包括的な支援を行っていくためにも、**地域福祉における情報共有のルールづくりが改めて必要だ**と思われる。
- そのほか、「見守りを拒否される」（16.1%）、「近隣住民の理解不足」（19.1%）など、福祉協力員の活動が地域住民に正しく理解されていないという不満も少なくない。今後も、ふれあいネットワーク活動と福祉協力員の広報・周知に継続して力を尽くしていく必要があるが、今回の調査で明らかになったとおり、ふれあいネットワーク活動や福祉協力員の在り方は、地域によって多様であり、個人差もある。こうした**多様性を含めた理解を図っていくことが重要**である。
- 最後に、「活動をする上で困ったときにはどのようにしたか」についてみておく（図表74）。地域差はあるが、全市的にみると、困ったときの相談先としては、「他の福祉協力員」（33.9%）、「民生委員・児童委員」（37.7%）、「自治会・町内会の役員」（27.7%）が多い。この質問は、「困ったとき」としてどのようなときをイメージするかで回答が変わってくるかもしれないが、「**校（地）区社協役員**」が**10.7%**にとどまっているのが**不思議に思われる**。「校（地）区社協役員＝自治会・町内会の役員」という**地域が多いこともその理由のひとつと考えられるが、検討のポイント**になるだろう。
- また、「区役所（いのちをつなぐネットワーク・地域包括支援センター等）に相談した」の12.5%、「区社協職員（地域支援コーディネーター含む）に相談した」の6.8%をどうみるかも難しい。専門機関に直接相談するケースはそう頻繁にはないだろうと思われるが、**もっと気軽に相談できる関係づくりや相談を受け止める体制づくりをすすめる**とよいのかもしれない。
- 各地域での活動の進め方について困ったときは「区社協職員に相談」するのもかもしれないが、対応に困った個別ケースを「区社協職員に相談」するかどうかは迷うところかもしれない。**社会福祉協議会としても、区社協の相談支援機能を高め、あらゆる地域生活課題に対応していく方針を固めているのであれば、その方針をより明確に示していく必要がある**だろう。

▶ 1 「福祉協力員意識調査」へのご協力のお願い

北九州市社会福祉協議会
令和3年度「福祉協力員意識調査」へのご協力のお願い
～あなたの声を「ふれあいネットワーク活動」の充実のために～

福祉協力員のみなさまには、日頃からふれあいネットワーク活動を中心とした校(地)区社会福祉協議会の活動にご理解とご協力をいただき、厚くお礼申し上げます。

北九州市社会福祉協議会では、福祉協力員のみなさまがそれぞれの地域で活動をされる中、どのような思いや困りごとをお持ちになっているかを伺い、「みんなが安心して暮らせる支え合いのまちづくり」推進の参考としていくために、「福祉協力員意識調査」を実施したいと存じます。

突然のお願いで恐縮ではございますが、調査の趣旨をご理解いただき、ご回答くださいますようお願い申し上げます。

令和3年11月

北九州市社会福祉協議会 会長 垣迫 裕俊

● 回答の方法 ※①または②いずれかの方法でご回答ください。

①郵送での回答：この「福祉協力員意識調査票」にご記入のうえ、同封の返信用封筒に入れて郵便ポストに投函してください(切手は不要です)。

②オンラインでの回答：スマートフォンのカメラから右記のQRコードを読み取っていただくことで、オンラインでも回答が可能です。



● 調査の対象・期間

市内155校(地)区社協の福祉協力員約6,700人のうち、令和3年11月1日から令和4年1月31日までの間に、北九州市社会福祉協議会の職員から調査票を配付させていただいた方に、回答をお願いします。

● プライバシーの保護

この調査は、みなさまから無記名でご回答いただくものであり、回答結果は統計的に処理され、ふれあいネットワーク活動等の充実以外の目的に使用することはありません。

令和3年度福祉協力員意識調査票

ご回答に当たってのお願い

- 1 福祉協力員の方ご本人が回答してください。
- 2 回答は、無記名です。調査票にも返信用封筒にも、氏名・住所の記入の必要はありません。
- 3 選択肢の中から、あてはまる項目の番号を○で囲んでください。また、選択肢の中から「その他」を選択された場合は、その内容をご記入下さい。
- 4 問16は記述式になっています。ご意見がありましたら、自由にご記入ください。
- 5 質問文に「一つだけ」「該当するもの全て」などの指定がある場合は、その指定に従ってお答えください。
- 6 郵送でご回答いただく場合でも、オンラインでご回答いただく場合でも、令和4年1月31日（月）までをお願いします。

調査の結果は・・・

- 1 調査によって得られた情報は、校(地)区社協のみなさまを対象とした研修の内容やふれあいネットワーク活動の充実のために活用します。
- 2 調査の報告書は、各区の社会福祉協議会を通じて校(地)区社会福祉協議会にお届けするほか、本会のホームページでもご覧いただけるようにします。

お問合せ先



地域支援課（戸畑区汐井町1-6ウェルとばた8F）

祝日を除く月曜日から金曜日 午前8時30分から午後5時15分

電話：093-882-4425

▶ 2 令和3年度 福祉協力員意識調査票

No.○○○

令和3年度 福祉協力員意識調査

問1 所属している校(地)区社協を教えてください。
[]区 []校(地)区社会福祉協議会

問2 性別を教えてください。
1 男性 2 女性

問3 年代を教えてください。
1 20歳代 2 30歳代 3 40歳代 4 50歳代
5 60歳代 6 70歳代 7 80歳代 8 90歳以上

問4 福祉協力員を何年していますか？ 次から一つだけ選んでください。
1 1年未満 2 1年以上2年未満 3 2年以上3年未満
4 3年以上5年未満 5 5年以上10年未満 6 10年以上

問5 どのような理由で福祉協力員になりましたか？ 該当するもの全てを選んでください。
1 校(地)区社協が募集していたから応募した
2 講座・研修を受講して興味を持ったから
3 広報紙で知り興味を持ったから
4 校(地)区社協の関係者から誘われて
5 民生委員児童委員になったから
6 民生委員児童委員の依頼・推薦で
7 自治会・町内会からの依頼・推薦で
8 自治会・町内会の輪番(当番)制で
9 地域に貢献してみたいと思ったから
10 ご近所に気にかかる人がいた(いる)から
11 地域の方とつながりたいと思ったから
12 いつか自分も地域にお世話になると思った(思う)から
13 家族が地域にお世話になった(なっている)から
14 その他: []

問6-1 現在あなたが見守っている世帯はどんな世帯ですか？ 該当するもの全てを選んでください。
1 一人暮らし高齢者 2 高齢者夫婦世帯
3 昼間高齢者のみの世帯 4 障害のある人がいる世帯
5 子育て中の世帯 6 外国人のいる世帯
7 その他: []

問6-2 現在あなたが見守っている世帯以外で、近隣住民による見守りが必要だと思う世帯はどのような世帯だと思いますか？ 該当するもの全てを選んでください。

- | | |
|--------------|---------------|
| 1 一人暮らし高齢者 | 2 高齢者夫婦世帯 |
| 3 昼間高齢者のみの世帯 | 4 障害のある人がいる世帯 |
| 5 子育て中の世帯 | 6 外国人のいる世帯 |
| 7 その他： | |

問7 以下の内、福祉協力員としてあなたが行おうと思っている（行っている）ものはどれですか？ 該当するもの全てを選んでください。

- 1 地域で決められた見守りの対象者を見守ること
- 2 「見守りが必要な人」を自分で新たに見つけること
- 3 地域で孤立している対象者に地域のサロン等の地域行事への参加を促すこと
- 4 連絡調整会議等で対象者について報告し、関わり方や支援の方法をみんなで考えること
- 5 地域包括支援センター等の専門機関と連携して、対象者に関わっていくこと
- 6 見守り対象者の生活上の困りごとを見つけ、その解決方法を考えること
- 7 自分のできる範囲の助け合い活動を行うこと
- 8 見守り対象者からの相談にのること
- 9 地域の福祉活動などについて話し合う場や研修等に参加すること

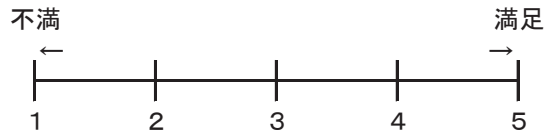
問8 近隣住民による助け合い活動を充実していきたいと思いませんか？ 次から一つだけを選んでください。



問9 ご自身の地域に必要なと思う近隣住民による助け合い活動は、どのようなものだと思いますか？ 該当するもの全てを選んでください。

- | | | |
|------------|------------|----------|
| 1 話し相手 | 2 生活情報の提供 | 3 ゴミ出し |
| 4 古紙回収 | 5 買い物支援 | 6 外出時の同行 |
| 7 薬取り | 8 庭掃除・庭木剪定 | 9 洗濯 |
| 10 布団干し・入れ | | |
| 11 その他： | | |

問10-1 ご自身の地域の住民による話し合いのしくみ(連絡調整会議)には満足していますか？ 次から一つだけ選んでください。



問10-2 住民による話し合いのしくみ(連絡調整会議)をどのように充実していきたいと思いませんか？ 該当するもの全てを選んでください。

- 1 定期的を開催してほしい
- 2 回数を増やしてほしい
- 3 関係機関・団体に参加してほしい

具体的に：

- 4 地域の困りごとを話し合う場にしてほしい
- 5 オンラインで開催してほしい
- 6 研修をやってほしい
- 7 参加したことがないのでわからない

問11 福祉協力員の活動にやりがいを感じていますか？ 次から一つだけ選んでください。



問12 福祉協力員になってよかったと思うことはありますか？ 該当するもの全てを選んでください。

- | | |
|--------------------|--------------------|
| 1 地域のいろいろな人に感謝をされる | 2 地域のいろいろな人と交流ができる |
| 3 さまざまな地域の情報が得られる | 4 自分も困ったときに相談ができる |
| 5 自分の健康づくりにつながった | 6 認知症のある人のことが理解できた |
| 7 障害のある人のことが理解できた | 8 支え合いの地域づくりに貢献できた |
| 9 支援した人の生活が改善した | 10 特によかったと思うことはない |
| 11 その他： | |

問13 これからも福祉協力員の活動を続けたいと思いませんか？ 次から一つだけ選んでください。



問14 活動をするうえで困っていることはありますか？ 該当するもの全てを選んでください。

- 1 見守り訪問を拒否される
- 2 訪問しても留守であることが多い
- 3 なかなか信頼してもらえない
- 4 できる範囲以上のことを頼まれる
- 5 仕事や家庭との両立が難しい
- 6 何かと出費（手出し）がある
- 7 民生委員児童委員との連携が難しい
- 8 自治会・町内会との連携が難しい
- 9 見守り対象者の家族との関係が難しい
- 10 近隣住民の理解が不足している
- 11 福祉サービス事業者との連携が難しい
- 12 個人情報の取扱い
- 13 その他：

問15 活動するうえで困ったときはどのようにしましたか？ 該当するもの全てを選んでください。

- 1 他の福祉協力員に相談した
- 2 民生委員児童委員に相談した
- 3 校（地）区社協役員に相談した
- 4 自治会・町内会役員に相談した
- 5 家族に相談した
- 6 近隣住民に相談した
- 7 区社協職員（地域支援コーディネーター含む）に相談した
- 8 区役所（いのちをつなぐネットワーク・地域包括支援センター等）に相談した
- 9 市民センター職員に相談した
- 10 今のところ困ったことはない
- 11 特に誰にも相談しなかった
- 12 その他：

問16 コロナ禍で活動をするうえで困っていることを教えてください。

質問は以上です。ご協力ありがとうございました。

あなたの地域でプチボ※な まちづくりをひろげるために！

少子高齢化が進む中、日常生活に困りごとを抱える人の暮らしを支えるために、国は子ども、高齢者、障害のある人などすべての人が支え手、受け手に分かれるのではなく、誰もが役割をもって支え合いながら自分らしく活躍できる「地域共生社会」を目指すことを打ち出しており、ふれあいネットワーク活動をはじめとする小地域福祉活動はまさに地域共生社会のしくみの一つです。

しかしながら、地域にはさまざまな考えを持つ人が暮らしており、地域住民全体で福祉のコミュニティをつくることはとても大変なことです。

市・区社協では、いろいろな角度から地域福祉活動に関心・理解を持ってもらえるよう、さまざまな事業を行っています。自分のまちで起きている福祉の問題を「我が事」と感じてもらい、「できる人が、できることを、少しずつ」を合い言葉に福祉のネットワークをひろげていきましょう。

※プチボとは、プチ（小さな、ほんの少しの）、ボランティア（福祉活動に参加する人）の意味で、「みんなが安心して暮らせる支え合いのまちづくり」を進める社協活動をイメージしています。



福祉協力員意識調査報告書2021

令和4年5月

企画・発行 北九州市社会福祉協議会

| 北九州市社会福祉協議会 | | | | | |
|-------------|--------------|-----|----------|-----|----------|
| 地域 福祉部 | 地域支援課 | TEL | 882-4425 | FAX | 873-1351 |
| | 各区事務所 ※下記に記載 | | | | |

| 区事務所（区社会福祉協議会） | | | | | |
|----------------|-------------------|-----|----------|-----|----------|
| 門司区 | 事務所（門司区社会福祉協議会） | TEL | 331-3688 | FAX | 331-5994 |
| | 社協ボランティア・市民活動センター | TEL | 322-2966 | FAX | 331-5994 |
| 小倉北区 | 事務所（小倉北区社会福祉協議会） | TEL | 571-5452 | FAX | 571-9553 |
| | 社協ボランティア・市民活動センター | TEL | 562-2051 | FAX | 562-2051 |
| 小倉南区 | 事務所（小倉南区社会福祉協議会） | TEL | 951-5388 | FAX | 951-5391 |
| | 社協ボランティア・市民活動センター | TEL | 951-5220 | FAX | 951-5391 |
| 若松区 | 事務所（若松区社会福祉協議会） | TEL | 761-3422 | FAX | 761-3660 |
| | 社協ボランティア・市民活動センター | TEL | 761-2208 | FAX | 761-3660 |
| 八幡東区 | 事務所（八幡東区社会福祉協議会） | TEL | 681-6601 | FAX | 681-6013 |
| | 社協ボランティア・市民活動センター | TEL | 662-0911 | FAX | 662-5671 |
| 八幡西区 | 事務所（八幡西区社会福祉協議会） | TEL | 642-5035 | FAX | 642-5077 |
| | 社協ボランティア・市民活動センター | TEL | 642-0407 | FAX | 642-5077 |
| 戸畑区 | 事務所（戸畑区社会福祉協議会） | TEL | 871-3259 | FAX | 881-8557 |
| | 社協ボランティア・市民活動センター | TEL | 881-8555 | FAX | 881-8557 |

